

季刊 海外日系人

第15号
● 5月 ●
1984年

編集・海外日系新聞協会 発行・海外日系人協会

第25回海外日系人大会記念



世界を知りたい。 日本を知らせたい。

暮らしの国際化が進む今日、もっと世界を知りたい、もっと広く日本を知らせたいと思うのは、私たち日本人の共通の願いです。KDDがお手伝いする国際電話も、ご利用数はどんどんふえています。今後も、国際通信需要は急カーブで上昇するでしょう。KDDでは、衛星通信や海底ケーブルの充実をはかると共に、未来を担う「光通信」などの研究開発にも力を入れ、いつもの確なサービスができるよう、たゆまぬ努力を続けています。



△二とば▽

移住問題と日系人の立場

移住問題と日本人の立場について述べることは、大変微妙かつ難解な問題で、この小文で結論を出しうるものではない。それにも拘わらず敢て持ち出してみたのは、この問題が今後、日本をめぐる国際関係において、政治的、経済的及び文化的に多大の影響を与えることになるとと思われるからである。

言うまでもなく移住とは住居の移転であるが、問題は何故移転するかというところにかかるつて来る。初期の移住が自己の意思で行われたとしても、その動機が無知による利欲、だまされた移住先国の情報の誤信、といった点であり、従つて移住した人々の多くが自分の推測と異なる現実の事態に直面して、非常に苦しい生活を送らざるを得なかつたと考えられる。その結果、国が移住の斡旋に直接関与することになつた。戦後も昭和三十四、五年頃まではブラジル日本移民は年七千人にも達したことがあつた。然し、日本が高度成長期に入ると移住の流れはほとんど止まつてしまつた。

もつとも今までの移住と異つた移動が始まり出す。一つは占領軍の軍人・軍属との結婚による、いわゆる「戦争花嫁」、後には企業の駐在員、学生、留学生たちがそのまま居残つて永住者となる形である。この人はちは何れも従来の移住という観念からは異色のものではあるが、住居の移転には違ひない。而も移住先の方々の性格は必ずしも一様ではない。そこで、われわれは世界の

動きと共に、その移住に与える変化を読みとる必要がある。

それに加えてもう一つ忘れてはならないことは、移住者の残した子孫は今や五世、六世までに及んでいることである。即ちこの人たちを日系人と呼ばしていくことにして、その立場を考えて見る時、われわれ日本人の側からだけの見方を述べるのは一方的になつてしまふ恐れがある。現に最近のNHKの大河ドラマ「山河燃ゆ」について北米の日系人からの反撥が起きてきたのもその一例と見られよう。

日本側では今まで日系人、ことに二世以降の人たちについては余り注意をむけていなかつた。戦後になつて北米において、または南米において二世グループの日系人がそれぞれの国の社会で立派な地位を占めるようになつたことが、日本側に刺激を与えるようになつた。(つまりこの人たちの地位が従来の日本の経験しなかつた事態をもたらすことになつたと考えられる。日系人は外国人であるが、同時に日本の血をうけついでいる人として外国人ではないといつ混乱した観念を日本人に植つけているのである。他方、日系人はその出生した国でさえ、日本人に見間違えられる宿命にある。この矛盾の中に悩む日系人も少くない。ヨーロッパ人は自ら新しい天地を開いたという自負心があるためか、後発移住の日本人のような精神的な悩みはほとんどないよう見える。

ただ日本の今後の国際的協力における日系人の重要性は言をまたない。そうしてこの日系人の活力を維持するためには新しい日本人の移住の必要なことも忘れるわけにはゆかない。

かく考えてみると、日本人の海外移住は量の如何を問わず、質の優秀性を保ちつつ今後も続けていくべく努力すべきことと思う。ただし日本の立場は、従来のような積極性を離れ、むしろ日本人個々に対し平和的な国際発展に寄与し、または他の文化の進化に参加する気運を盛りたてるための支援を行うことであり、既存の日系人に對し相提携して意思の疎通を計り相互理解の強化のために手を握つていきたいものである。

このように移住の歴史を眺めて見ると、移住の性格は必ずしも一樣ではない。そこで、われわれは世界の

第25回海外日系人大会記念

ことば 移住問題と日系人の立場

由付景一

ニュース ▽ 移民史料収集で伯米へ ▽ 國際ミス日系親善訪日 ▽ 多田さん

歌会など／第△・A・D・新日本元老長△・世界の金賞△

▽故村上氏に名誉市民章▽フィリピン友の会発足▽59年度留学生ら成田着▽留学生らの研修会開く▽定期叙勲他

▽岩動道行さん大臣就任

▽国際交流は海外日系人から（第25回海外日系人大会開幕）

▽海外日系新聞協会創立10周年式典と年次総会報告

▽戦争花嫁モントレー事件の波紋

▽各国で移民百年祭

⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮
 47 28 16 12 10 8

日本文化の伝承者たち

国際川柳大会と花嫁柳人の詩（タコマ）……………村井 孝夫
もつと国際交流にお金をかけて下さい（デンバー）……………今田 順子
様々なアメリカ一世の顔（取材の旅の思い出から）……………
（アーヴィング・カーネギー著）

移民史の発掘

「勝ち組事件」の真相

(元臣道聯盟幹部の手記・ブラジル)……

川畠
三郎

38

望郷のうた 〔15〕

門下となり、ついでホトトギスに移り、「南十字星」ではホトトギス伝統の花鳥風詠を脱して、独自の境地を拓いた。

あつたなら、かくも移民の体験を凝視した詩をつくらなかつたう。

ハワイは一九八五年に官民で移民祭を迎える。さぞや準備で忙殺、と思うのは日本的な感覚であろう。すべてのんびりした風土で、同じ「望郷のうた」も、なんとなく柔らかな陽光と、たゆたゆとした気分に包まれて、まどやかである。

ハロウィーン 每年十月三十一日に行われる万聖節の宵のお祭り。子供たちは、鬼やお化けなど様々な顔をつけて各家庭の門口に立って口々にこう呼ばわる。

人は死し牛助かりし雪崩かな
マレーターの熟せる頃や蜜蠟道
ふ
柔烟にかくして建てし廁かな
春寒し吾子の墓標を書きそ
ね
霜防ぐ左右の火の手珊瑚道

て歩く。近頃は、キャンデー
類にカミソリの刃や薬物を入
れて問題になつたが、これは
一種のアメリカ風物詩であ
る。

むろん、これはハワイの「圭石忌」ではない。いまも「圭石忌」として、ラジルの俳人たゞが、ありし日を偲ぶ木村圭石の句である。

魔女來たり赤兎來たるハロウ
イーン 平井ひさ子 桃子進じよ 川本恵子
ハロウイーンお化来い来い東
ママと呼ぶお化けも居りぬハ
ロウイーン 本間きみ子
ハロウイーンお化けよちよち
手をひかれ 西本貞子
ジャコランテンさげて可弱き
鬼も来る 加藤きく子

学童の歌と三角旗で神戸を出航

(ブラジル移民の船中日記①)

木永 花 40

日本の主張・世界の声——ユニークな「ラジオ日本」投書番組

(N H K 国際局)

人と人

▽シカゴを愛する文化的実業家——内本 忠氏

▽コチア青年二世研修訪日団の团长として里帰りした——徳留清氏

世界のひろば

ハワイ、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シアトル、ポートランド、デンバー、シカゴ、ニューヨーク、カナダ、メキシコ、ペルー、パラグアイ、アルゼンチン、

ブラジル

連載十五回

一世狂う黒い手・ニセ勲章事件

与名丹 次郎 70

連載 パイオニア・加納久憲自伝(第十五回)

加納 久憲 74

□本誌バックナンバー

□本と本(人工衛星——の祖国・山河燃ゆの変)

2

□望郷のうた

37

□読者の椅子

65

□春夏秋冬

80 78 69

▲広告欄

日本航空(表紙四)、KDD(表紙三)、ヴァリグ(表紙三)、日本交通公社(七)、祝・第25回海外日本系人大会・ブラジル旅行社、ブ拉斯・ヴィア旅行社、ジャパン・シェルマールツーリスト、海外移住旅行社、金城旅行社、メキシコ観光、ツニブラトラベル、ウニベルツール(二五)、サントリー(四)、トーメン(二)、日商岩井(六)、ホテル・パシフィック(三)、日本旅行(三)、富士園(四)、専売公社(四)、シルバーストック(五)、日興証券(三)、一幸(五)、上島珈琲(五)、パイロット(三)、東京書道教育会(三)、キッコーマン、セコム(三)、ポーラ化粧品(三)、高砂香料、八芳園(四)、国際科学技術博覧会協会(中間じ)

代からの伝統として、カウンティ(郡)やステート(州)が中心となり、お祭りが開かれる。日本でいえば農産・畜産共進会だ。家畜や農産物がならべられ、綿菓子やホットドッグの屋台が出て、日本の村祭りの様に賑う。ところによつては、ロデオや草競馬もある。ハワイでは――。

歌に詩に哀調そぞる枯葉

長門 秋峯

雨風の苦難に堪えいる薄哉

田熊 山里

月に語る草分の哀史か枯芒

中山 尚月

秋風にいとし川辺の枯すすき

氏家 隆川

寒月にそぞろたたずむ枯芒

北川 人魚

日本語で話す自由や共進会

村上五橋城

灌木で多くの枝が繁り、先端

緒方 光洋

に紫、青、白をあわせた様な

小さな花をつける。

赤川仙兵衛

日本語で話す自由や共進会

元山 玉萩

夕焼の色に酔ひしか金の露

近藤 一花

月よりの使者の残せし金の露

松浦 羽城

灌木で多くの枝が繁り、先端

緒方 光洋

に紫、青、白をあわせた様な

小さな花をつける。

日本語で話す自由や共進会

元山 玉萩

灌木で多くの枝が繁り、先端

緒方 光洋

に紫、青、白をあわせた様な

小さな花をつける。

日本語で話す自由や共進会

元山 玉萩

灌木で多くの枝が繁り、先端

緒方 光洋

に紫、青、白をあわせた様な

小さな花をつける。

日本語で話す自由や共進会

元山 玉萩

灌木で多くの枝が繁り、先端

緒方 光洋

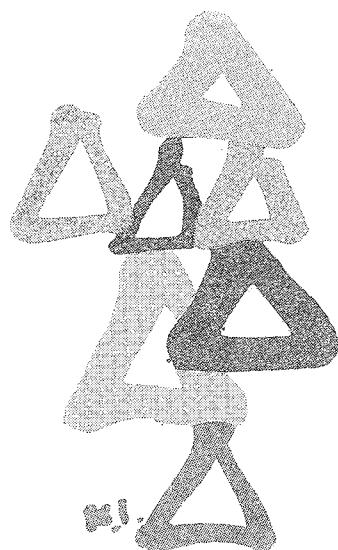
に紫、青、白をあわせた様な

小さな花をつける。

日系人知らずの日系人

—JACLに訴える—

本誌編集委員会



邦字紙「ハワイ報知」(83年12月22日付)によると、同紙の代笔一記者のインタビューにこたえ、ハワイJACLの頭脳集団の一人、ハワイ大学の黒田安昌教授は、年次総会の議題について、こう語っている。

「大会の議題は第一に日米関係。友好促進と相互理解を深めるためにも、日米の経済関係は大切。とくに日本からの進出企業が、どのくらい現地の日系を採用しているかなどの問題を討議する。自動車などの日本の輸出攻勢が、米国の失業率増加に影響しているか。米国の景気との関係などを検討される。日米間の摩擦の問題をよりよく討議するために、日米をよく知る日系人を国際會議に参加させるなども。たとえば日米賢人会議などに日本をよく知る日系人が加わるよう検討し、圧力をかける。」(原文のまま)

黒田教授がどのような考え方の上で、こうした発言をしたのか、同紙の報道だけでは十分に理解できないが、従来、JACLの運動といえばもっぱら対内的なものに限っていたのに、こんどはホコ先を日本に向けるというのである。戦後の運動をみても、帰化権の促進、戦時賠償の要求、いわゆる各州の外国人土地法を主とした各種排日法の撤廃、JAP用語の使用禁止運動など、数々の成果をあげてきた。もちろん、これは血を受けた母国のためにではなく、自分たちの生国における移民一世とその子孫のための戦いであった。わずか多民族派であるハワイはJACLとは全く別個の運動を展開していく。ようやくハワイ支部が創立されたのは、JACLが誕生してから五十年もたった一九八〇年である。

JACL (Japanese American Citizens League 全米日系市民協会)

が一九八四年八月に初めてハワイのホノルルで全米年次総会を開催することになった。もともと日本人移民の歴史は、ハワイと米本土では、重なる部分もあったものの、それぞれ別個に展開した結果、おなじ「アメリカ移民」でありながら、ハワイと米本土では、その子

孫である日系人の思考、伝統に差異が生じた。

アメリカ二世の政治運動母体であるJACLは、一九三〇年に米本土で誕生したが、日系人が多民族派であるハワイはJACLとは全く別個の運動を展開していく。ようやくハワイ支部が創立されたのは、JACLが誕生してから五十年もたった一九八〇年である。

提

言

いてペルーのリマで開催の第二回大会でもJACLの二世たちは、かなりの「主役」を演じた。大会決議文の中に「アメリカの戦時賠償運動への支援」をうち出した。本来は、あくまでもアメリカの国内問題である戦時賠償について、支援協力をラテン・アメリカの国々に住む外国人である日系人に求めたことは、実効はそれほどないにしても、注目を浴びた。日系二世が、自己の権利とステータスに立つていかなる行動を起こそうと、正にそれは自由であるが、これはきわめて片手落ちなものであった。今次大戦で母国日本が連合国と戦ったため物質的にも精神的にも被害を蒙ったのはアメリカの日系人だけではない。米州各国ではカナダ、パナマ、メキシコ、ボリビア、ペルー、アルゼンチン、ブラジルでも同様であった。JACLは、こうした国際的視点に立たず、自己中心に、決議文の中にアメリカ日系人の賠償運動支援を求めたのである。果して、こうした行動は、国際的波紋を呼んだのである。

リマ大会の二ヶ月後、同年九月十五日、サンパウロ市のサンパウロ文化協会会議室でパンアメリカン日系協会ブラジル支部の設立と、一九八五年サンパウロで開催予定の第三回パンアメリカン日系大会の是非をめぐって二世の会議が開かれた。これは公式な決定機関における審議ではなく、いわば、フリー・トーキングの場であったようだが、「サンパウロ新聞」(9月17日付)など邦字紙によると参加者は四十四人(うち女性八人)で白熱した論戦を繰りひろげた。若い二世層は二世の国際連帯を強調して、ブラジル支部の設立を強く求めたが、壮年層の指導的立場にある二世は「われわれはブラジル人である。何故、外国の日系人と

会合しなければならないのか」「第二回大会の決議文の中に、アメリカの日系人戦時賠償支持という政治的なものが入っている。ブラジルが外国の内政問題に巻き込まれる公算が大きい」などといふ反対論を主張して譲らなかつた。激論の末、反対派の中には「日系大会は賛成派だけで開催しろ。ただし日系企業は協力・援助しない」「ブラジル政府を刺激しないように注意せよ」とどとつぱねるものもいて一時は収拾のつかない状況に陥つたようである。この会合は、広く二世の意見を聴くためのものであつたが、賛成、反対両派があまりにも判きりした対立を示し、妥協点を見出せないまま、もの別れに終つた。ここまで言いあうと、あとあとまでにしこりを残したといえる。

その後、パンアメリカン日系協会ブラジル支部は発足するまでに至つていない。この様にJACLからの要望に基づく第二回大会の決議が、国際的反響を呼ぶことは、JACL自体は予見しなかつたのだろうか。もともとパンアメリカン二世運動は、JACLとメキシコの二世が主軸となつて始めたもので、日系大団のブラジル二世に浸透していないなかつたといえる。一口にブラジル日系コロニアというがその数、八十万人もとなると、様々な顔があり、二世側のコンセンサスを得るためには、戦前派、戦後派の一世から知日派である二世の指導陣まで幅広く働きかけなければならない。

日系協会設立の当初からブラジル側にも参加してもらわねばならない筋のものであつた。これは正に「日系人の日系知らず」から起つた現象といえた。JACLの自国内における賠償問題への協力呼びかけ、ハワイ年次総会への議題など、日本側から見る限り、こうしたJACLの動きは、国

議文の中に、アメリカの日系人戦時賠償支持といふ政治的なものが入っている。ブラジルが外国の内政問題に巻き込まれる公算が大きいなどといふ反対論を主張して譲らなかつた。激論の末、反対派の中には「日系大会は賛成派だけで開催しろ。ただし日系企業は協力・援助しない」「ブラジル政府を刺激しないように注意せよ」とどとつぱねるものもいて一時は収拾のつかない状況に陥つたようである。この会合は、広く二世の意見を聴くためのものであつたが、賛成、反対両派があまりにも判きりした対立を示し、妥協点を見出せないまま、もの別れに終つた。ここまで言いあうと、あとあとまでにしこりを残したといえる。

その後、パンアメリカン日系協会ブラジル支部は発足するまでに至つていない。この様にJACLからの要望に基づく第二回大会の決議が、国際的反響を呼ぶことは、JACL自体は予見しなかつたのだろうか。もともとパンアメリカン二世運動は、JACLとメキシコの二世が主軸となつて始めたもので、日系大団のブラジル二世に浸透していないなかつたといえる。一口にブラジル日系コロニアというがその数、八十万人もとなると、様々な顔があり、二世側のコンセンサスを得るためには、戦前派、戦後派の一世から知日派である二世の指導陣まで幅広く働きかけなければならない。

日系協会設立の当初からブラジル側にも参加してもらわねばならない筋のものであつた。これは正に「日系人の日系知らず」から起つた現象といえた。JACLの自国内における賠償問題への協力呼びかけ、ハワイ年次総会への議題など、日本側から見る限り、こうしたJACLの動きは、国

際路線に向いている様にも受けとれるが、そうでない面もあつて不可解とさえ言える。メキシコの創立大会では、式典に日本の駐メキシコ大使を公式に招きながら、何故か式場に日本の国旗掲揚を拒否した。これは最近になって判明したことだが、「JACLの意向であつた」という。つまり、日の丸の拒否はJACLの対母国觀意識がどの様なものであつたかを示したと言えた。一方、第二次大戦でいち早く生國アメリカに忠誠を誓う公式声明を発表して星条旗のもとに馳せ参じたJACLとして、日本色を国際会議場に出すことは、生國へ誓つた忠誠に疑いをかけられるのを恐れたともいえるだろう。

それはそれとして、来る八月のJACLハワイ年次総会では、議題の第一に何故、日米間の経済問題や日米国際会議に日系人を送りこむよう圧力をかけたいなどと言い出すのだろう。いまもなお在米の日本企業が経済摩擦を助長し、アメリカ人の失業者を増加させているのだろうか。また、日本企業が日系人を故意に雇傭しない様にしているのだろうか。過去には、こうした傾向はたしかにあつたろうが、雇傭機会均等法などがあるアメリカの社会事情のもとでは、差別は許されない。そのことは最前線にある日本の企業自身が十分にわかっている。責任ある日本の企業が、国籍、人種、性別などで差別などできない社会であることは、JACL自体が知つていいはずだ。

それでもなおかつ日系二世側に給与、昇進の面で日本からきている駐在員との間に差別があるといふ声があががつてゐることも事実である。が、むしろ問題は雇われる側の日系人にある。日本の企業は終身雇傭制度なので、全てはその上に給与、

提

昇進などが組み立てられている。経営の方法、人事管理など全ては日本人が長い時間をかけて創造した形態である。言って見れば、伝統的な文化の上に築いた企業であり、社会機構なのだ。この辺のところまで掘り下げないで、現象面だけで論じては、実体をつかめないだろう。ことに日本の進出企業がアメリカ人の失業者を増加させているという分析に至ってはナンセンスである。

J A C L が、日本の実情、ラテン・アメリカ諸国における日系社会の動静、さらに米国内における戦後派一世の動向をどう分析して受けとめていいのかをきわめて疑問である。日本側は海外の日本人を中心とする、幅広い文化交流、社会交流を進めようとしている。これは時の流れである。問題は過去にあった日本企業対日系人との対立図式などという近視眼のことではないのである。J A C L を含むアメリカ一世の多くは、過去において日本を異国情緒を味わう観光の対象にしか考えていないなかつた、と言えるのであるまいか。J A C L を主体とする二世、三世集団は、かつて生国に忠誠を誓い、血を流して戦ってきた。ついで戦後も日の丸を拒否している間に、国際交流は進展して、この奔流の外に孤立してしまったのでなかつたろうか。戦時中、二世は生国アメリカに対し忠誠派と不忠誠派に分れて対立した事実は十二分にわれわれは理解する。不忠誠派は、戦争終結直後、約五千人が、祖先の国、日本を祖国にしようとした決意新たにアメリカを離脱した。戦時中、教育を受けるため日本にいた二世約二千人は、日本の戦争に協力した。生国アメリカに踏みとどまつた

日本の歴史、文化への理解、あるいは世界各國へ展開した日本人移民への理解なくしてアメリカの二世は何によって生きようとするのだろう。きわめて多様化、複雑化する日米関係のはざまで、JACLを主軸とする二世、三世たちは、何をアーティズムティティとして何をステータスとするのだろう。こうした文化的な追及をしないで、目先きらう。ある日系人の雇傭問題や待遇をとりあげることは、問題を何ら解決に導くものではない。いまこそJACLは総力をあげて好むと好まざるにかかるわらず、ニッポンとニッポン人を研究すべきでないのか。

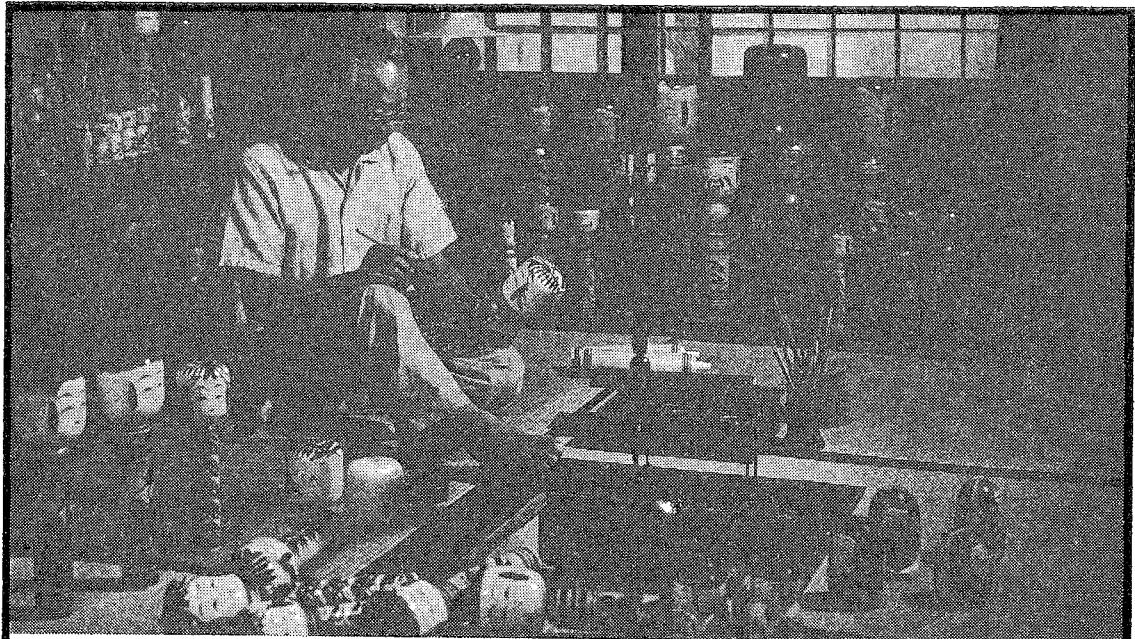
従来、官民を問わず日本サイドはアメリカの一世に、日本の文化を知らせる努力に欠けることが多々あつたし、日系人を知ろうとしなかつた。しかし、二世側もまた日本を知ろうとする、あるい

主張して、徵兵令違反に問われ有罪判決を受け長め闘ったのにJACLは全く救いの手をさしのべなかつた」といまも訴えている。また、忠誠派の二世の中にも日本に“移民”となつて定住しているものもある。戦後、日本からアメリカに移住した日本人も数多い。難民救済法による移民、米軍人・軍人と結婚や一般的の結婚で渡米した花嫁、花婿もいる。学者、研究者、文化人、留学生、技術者、専門家らのアメリカ定住も目立つてゐる。これら戦後派一世は、生活できないから渡米したのではない。語学力、マナー、学力、知力にも優れ、日本にいても立派に生活できる人たちであつた。これが戦前派移民との著しい違いである。

JACLの歴史をみても、これは二世が自主的に発足させた、ということになっているが、歴史的にみると、一世のすすめと支援で発足したのである。JACLの出発点は一九二一年(大正十年)秋、シアトルで創立された「Seattle Progressive Citizens League」である。企画の原案は、英語に強かつた渡辺主一という熊本県出身の一帯が起草した。設立のお膳立をしたのは、一世の団体である北米日本人会(現、シアトル日系人会)の幹部であった。一世がいたから二世がいる。一世がいるから三世もいる。この様な歴史を踏まえて、日米関係の現状と将来を眺めずに即物的にものを見、判断していくと、これこそ日米摩擦の新しい種子を蒔くことになりかねない。

おりから、政府与党の自民党の招きで、JACL推せんの日系三世六氏とつきそい一氏が来日した。平泉涉同党国際局長によると、これらの氏はほとんど初めての日本訪問であるといふ。四月七日、記者会見があった。在東京の日系新聞各代表五人のほか、日本側マスコミ代表はわずか四人。日系人ブームなどといふが、この会見に關する限り、ブームなどとはおよそ縁遠いプレス・インタビュードである。JACLなど、米国の日系団体が、日本に対し、自分たちを知つてもらうための広報活動をもつとしなければならないだろう。海外日系社会を知らない日本側にだけ問題があるのではない。知らなければ知らせる努力こそ大切ではあるまい。

(文責・伊藤一男)



衣・食・住・旅.....
交通公社は
新しい旅づくりをしています。

旅は今や私たちの生活の一部です。

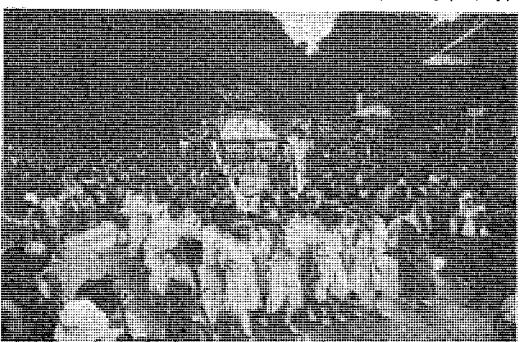
情報、交通機関の発達に伴ない、今まで遠くに感じていた所も身近になり、何時でも何処へでも行けるという時代になりました。旅は新しい世界を自分で見、触れることができる絶好のチャンスです。

旅づくりのベテラン、交通公社は豊富な経験、国内外のネットワーク、そしてベテラン社員を通してより多くの人々により楽しい旅をしていただけるよう、新しい旅づくりで皆様をお世話しています。

遠刈田こけし作り(宮城)



九十九島(長崎)



日光大祭



日本交通公社

東京都中央区日本橋 1-13-1

外人旅行事業部 (276)7831

<運輸大臣登録一般旅行業第64号>

川島事務局長ハワイへ

た。つづいて、フィリピン大使館を代表してディオダメデス・アボイ氏、河辺重勝友の会賛助会長が挨拶、ついで海外日系人協会の岩勤道行理事長が、「フィリピン日系人会は財政的規模が薄弱なので友の会が色々な面で協力しなければならないと同時に、現地の日系人会がそうした日本の好意を受け入れる体制にしなければならない」と挨拶した。

閉会後八三年八月の親善訪問団の記録映画を上映し、七時から連合同窓会の懇親パーティを開いた。

59年度留学生ら成田着

昭和五十九年度県費留学生、技術研修生七十人は、四月二日午後、成田着のヴァリグブラジル航空で訪日した。うち二十七人は県庁担当者、親族の出迎えを受け空港で一行と別れたが、残り四十三人はバスで平河町の都道府県会館まで行き、受け入れ団体の日本ブラジル中央協会、全国知事会涉外部、海外日系人協会の事務局ら職員が立ち会い、各県庁の担当者が引き受けた。

なお、今回訪日したのは、県費留学生ブラジル六十三人、技術研修生ペルー三、ブラジル二、パラグアイ、アルゼンチン各一人である。

留学生らの研修会開く　海外日系人協会と日本ブラジル中央協会主催の昭和五十八年度日系留学生冬期中央研修会は、同年十二月二十一日から四日間、東京・本郷の文京区民センターを中心に開催された。参加したのは留学生八十一人、研修生十四人の計九十五人（カナダ、アメリカ四、コロンビア、ペルー六、ボリビア二、ブラジル七十四、パラグアイ二、アルゼンチン五）で、このうち女性は合計六十二人。

第一日は、日本ブラジル中央協会田付景一会長、海外日系人協会伊藤一男常務理事、外務省新田宏茂住課長らの挨拶があり、ついで、柳原伊穂慶大助教授の「ことばと文化」についての講演、落語家・立川談生師から「日本の落語について」の講演説明があり、「子褒め」の断片を一席。

第二日は、国立劇場で歌舞伎「冬木心中」「良弁杉由来」を観劇した。

第三日は、貸切バスで、キッコーマン野田本社工場、柄木県上三川町日産自動車工場をそれぞれ見学の後、日光中禅寺湖のユースペラスに泊まった。最終日は、華厳の滝、日光東照宮などを見学、夕方、東京駅で解散した。

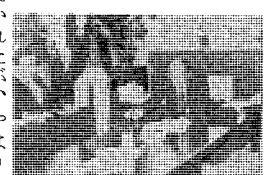
川島事務局長ハワイへ
海外日系人協会の川島克己事務局長は、三月十八日、成田空港発、ホノルルへ向かった。第二十五回海外日系人大会に初参加の有吉ジヨージ・ハワイ州知事と会見、打ちあわせをするとともに、ハワイ連合日系人協会の米沢薰会長、官約移民百年祭の後藤健治委員長らと会合、第二十五回大会へハワイ代表団の参加を要請、八五年六月に予定される官約移民百年祭に日本側として協力する件などについて協議、二十五日、帰国した。

元トロント日系市民協会会長
佐々木周一（同）▽アメリカカリ
日米時事新聞社会長・池添ダ
カノ一馬（権益擁護）元北米大
日新聞社社長・今関ハワード松
次（福祉）北米毎日新聞社取締
役・久保田実（同）南カリフノ
ルニア日系商工会議所理事・會
上百之進（同）元日系市民協会
セント・ルイス支部長・ジョ
ジ・キヨシ・ハセガワ（親善）
元ハイタームス社常務取締役
・平井隆三（福祉）タコマ日々
人会会長・榎本勝（権益擁護）
ニューヨーク日系人会副会長
・湯沢ジョージ克巳（福祉）▽
ペルーリアベル・中央日本人会
理事・金城光太郎（同）元ラ
ウニオン協会理事長・鍋田猶子
(同)▽ブラジル元バラエ
セ産業組合支配人・小谷祐次
(同)南ブラジル農業協同組合
本部理事・行徳八郎（同）ブリ
ジル日本文化協会理事・田村口
ルテル幸男（親善）元ブラジ
日本文化協会理事・九十九利雄
(福祉)（旭六）▽アメリカカリ
元南カリファルニア庭園業者連
盟第一副会長・栗原清九郎（同
▽ペルーリア元チャンカイ谷日
人会会长・高橋五平（同）▽ラ
ジルリ元ブラジル鹿児島県大
会会長・大原春二（同）ピニ
イロス親睦会会长・猪畑正義
(同)元ブラジル山形県人会会
長・斎藤伊助（同）元ゼツリ

ナ日本人家会長・中村建樹(同)
プラジル日本力行会会长・林寿
雄(同)▽バラグアイ元アマ
ゾバイ農業協同組合組合長・高
野善一(同)▽アルゼンチンニ
元ミシオネス日本人クラブ会長
・帰山徳太郎(同)アルゼンチ
ン国日本文芸会理事・久保田富
二(文化)元コルドバ州日本人
会会长・比嘉繫助(福祉)宝
六▽ペルー元ペルー日本婦
人会会长・内山初子(同)瑞
岡県人会副会长・中島田政行
(同)▽プラジルサンレオポ
ルド日本人会会长・笹森吉喜
(同)元マウア中央日本人会会
長・関谷由忠(同)サンパウロ
市「丘の家学園」教師・茅根テ
ツ(教育)▽バラグアイ元エ
ンカルナシオン日本人会会长・
井上友吉(福祉)

岩動道行さん大臣就任

第二次中曾根内閣で科学技術庁長官に



安田隆明前科学技術庁長官から事務引継ぎ

岩動さんおめでとう——。財団法人海外日系人協会の理事長で、海外日系新聞協会の会長を務める参議院議員、岩動道行さんが、第二次中曾根内閣で、選ばれて国務大臣、科学技術庁長官に就任した。

日本にある海外日系人関係団体のリーダーとしては、初の大蔵大臣であり、それだけに世界各国の海外系社会の喜びは大きかった。お祝いの国際電話、電報が相つぎ、なかには、国際電話で思わず「岩動先生、バンザイ」と叫ぶ日系新聞代表もいて喜びの輪は国際的にこだました。

大臣選任の吉報が参議院議員会館の岩動議員事務室にとびこんできたのは十二月二十六日午後四時すぎ。選舉区の岩手日報、河北新報、テレビ岩手、岩手放送など報道陣に囲まれインタビューを受けていた当の岩動さんに首相秘書官から電話があり「これからどうぞ官邸へお出下さい」。大臣就任要請の吉報である。すくと立ち上った岩動さんは、車で報道陣のごった返す官邸へすペリこむ。当初、経企庁長官に

という声も聞かれたが、やはり長年、石油、原子力などエネルギー問題とり組んできた経験が高く評価され、科学技術庁長官という椅子が待ちかまえていた。

岩動さんが、前途有為な青年政治家として岩手一区から衆院戦に出馬、見事金的を射止めたのは昭和三十八年。いらい二十余年に及ぶ政治生活。早くから大臣就任の声が高く、大平内閣、鈴木内閣、第一次中曾根内閣……と新しく内閣が生まれる度に、新聞、テレビが大臣の有力候補に岩動さんの名前を報道してきたが、実現に至らなかつた。著名な政治評論家、宮崎吉政氏などは「岩動先生は、もっと優遇されていい」と語り、何れ大臣就任は必ずとの下馬評が高かつた。

時間の都合で、大臣認証式は、翌二十七日朝にもち越された。モニングムイコ・ソ連外相に首相が協力を要請に威儀を正した岩動さんは、中曾根首相の吉報である。すくと立ち上った岩動さんは、車で報道陣のごった返す官邸へすペリこむ。当初、経企庁長官に

は、正午をかなりすぎていた。用意された昼食はラーメン。海外日系新聞協会から田付景一理事長、伊藤一男専務理事、外務省から新田宏移住課長らが続々とお祝いにかけつける。翌日は土光敏夫科学万博協会会長、井深大発明協会会長ら財界の首脳もお祝いに——。

岩動さんの大臣就任と同時に長年、影の様によりそってきた秘書の中田滋さんが大臣秘書官に就任した。

海外でも高く評価

二十七日付の朝刊は各大臣のプロフィールを伝えたが、読売新聞（12月27日付）は特集「新閣僚の横顔と抱負」の中で、岩動さんを次の通り描いた。

「出身の大蔵省では、広島税務署長、吉田元首相秘書官、東海財務局長などを歴任。税制、エネルギー問題に精通し、その方面的著書も多い。衆院議員を一期努めたあと参院に転じた。岩動科学技術庁長官は、大阪万博に匹敵する八五年の『科学万博博覧会』の最高責任者で、原子力委員長も兼任するのだから、男の花道に躍り出たといえる。私が初めて岩動先生にお会いしたのは約十年前、海外日系新聞協会に招待されて訪日した時である。以来、ずっとお世話になつており、ハワイ相撲文化百年祭が催された際は、滝谷守総務の依頼で岩動先生に高見山一行の招待費や記念土俵建設費を日本側から援助して頂くよう要請、資金獲得に成功したのである。

ことに昨年は海外日系新聞協会の創立十周年記念式典を東京で盛大に開催した。同協会が有益な国際事業を続けているとして、外務省から表彰され、各邦字紙の永年勤続、功績のあった新

井隆三氏は、ホノルルの月刊邦字紙「イースト・ウエスト・ジャーナル」（昭和59年2月1日付）紙上で、岩動さんの大臣就任に大要次の通り寄稿した。

昨年十二月二十六日の朝、ポール円福ハワイ報知社長から『岩動道行参議院議員が第二次中曾根内閣の国務相・科学技術庁長官に任命されました』と電話で吉報を知らされたので、私は永年畏敬する岩動先生が、ついに『栄冠あり』、政治家としての大願成就されたと、暫し感涙にむせんだ。

岩動科学技術庁長官は、大阪万博に匹敵する八五年の『科学万博博覧会』の最高責任者で、原子力委員長も兼任するのだから、男の花道に躍り出たといえる。私が初めて岩動先生にお会いしたのは約十年前、海外日系新聞協会に招待されて訪日した時である。以来、ずっとお世話になつており、ハワイ相撲文化百年祭が催された際は、滝谷守総務の依頼で岩動先生に高見山一行の招待費や記念土俵建設費を日本側から援助して頂くよう要請、資金獲得に成功したのである。



衆院本会議の閣僚席に並ぶ右から藤波官房長官、岩動科学技術庁長官、山村農水産相

聞人に表彰状と記念品を贈るというキ
メこまやかな配慮もされた。

政治家は『票』になれば、越後から
米つきに来るが、票にもならぬ海外日
系人への奉仕、援助は、よほど犠牲的
精神がないと出来ぬのである。ハワイ
日系人一同とともに岩動先生の国務
相、科学技術庁長官で就任をお祝い申
し上げる。

俳人・岩動鯨汀の横顔

岩動さんは、大正二年十月十五日、
岩手県紫波郡紫波町生まれ。京都大学
法学部卒。大蔵省入り。戦時中、海軍
司政官としてマレーシア派遣。海外日
系人とのかわりあいは、昭和二十五
年、欧米の社会福祉行政を視察調査の
さい、ハワイ、サンフランシスコなど
で日系社会の指導者に会った。昭和二
十八年、同省閉鎖機関第一課長時代、
ブラジルで没収された日本人財産の返
還交渉に渡伯。とくに横浜正金銀行の
資産の返還でバルガス大統領と直判
談、同行の資産を返還してもらった
上、正金の後身、東京銀行の支店開設
にこぎつけた。このおり、ブラジル各
地を視察した。

昭和四十八年、海外日系人協会理事
長、同五十年、海外日系新聞協会会
長、この間、日本人ペルー移住八十周
年慶祝使節団長、第一回パンアメリカ
力

ン二世大会へ参加するなど、米州各
国、東南アジア各国の日系人社会を視
察、友好を深めた。以上は、岩動さん
の公的な足跡だが、「鯨汀」の俳号を

もつ俳人であることはあまり知られて
いない。この機会に、自選の十句を掲
げよう。

大仏や桜一ひら人二三

みちのくは春日遅々の牧場かな
春愁や白き小指よ赤き爪

花冷や信じ難きを我信じ

夏瘠や舞の稽古も恋の意地

岩手、北上川源流

竜胆や百里の川の湧くところ

秋の夜は李白と酌まん酒三斗
山里の氷柱細りし昨日今日

大臣就任

年新らた岩手の山河拝みけり

正月伊勢神宮参拝

初詣先憂後樂誓いけり

ホ旬の解説は不要であろう。が、
「春愁——」と、「秋の夜——」は粹。
「花冷え——」は嚴。信じ難きをなお
信じるのは、第一線の政治家ならでは
の句であろうか。それについて「年新
らた」に「岩手の山河拝みけり」は人
間・岩動の卒直な心情、にじみ出て余
りあるか。

国際交流は海外日系人から

第25回海外日系人大会開幕

国際交流は海外日系人から——第二十五回海外日系人大会は、薰風の五月八日から三日間、東京都千代田区平河町の砂防会館ホールを中心に開催される。主催は財団法人・海外日系人協会、後援は外務省、全国知事会、東京都、国際協力事業団、国際交流基金、経済団体連合会、日本商工会議所、日本貿易振興会、国際観光振興会。今回はとくに第二十五回という記念すべき大会なので、海外日系人と国際友好親善に深い関心を示される皇太子、同妃両殿下がご臨席になるのをはじめ、日本人移民の「原点」ハワイから唯一の日系州知事、有吉ジョージ氏夫妻、ブラジルからサンパウロ人文科学研究所所長らが初参加。さらに昭和六年、筑波学園都市で開催の科学万国博協賛の特別アトラクション、記念福引きなどの特別行事がくりひろげられる。大会の日程は次の通りだが、この機会に第一回いらい大会の「事務方」を勤めてきた海外日系人協会・川島克己事務局長に大会の舞台裏を聞いてみた。

国際協力と日系人問題を中心

(第一回) 八日は午前十時から各国の日系人代表が千代田区平河町の都道府県会館別館会議室で、代表者会議を開く。総合テーマは「国際協力と日系人問題」で議題に①今後の移住と国際協力②日本語教育の振興③日系社会の文化交流④海外日系人センターの設立⑤その他となっている。同日は、有吉ハワイ州知事、山本人文研究所長の記念講演を予定している。

(第二回) 九日は午前十時から砂防会

館ホールで式典。皇太子殿下のお言葉、中曾根康弘首相、安倍晋太郎外相、有吉

ハワイ州知事の祝辞などがあり、午前十時から全体会議に入る。まず谷田正躬外務省領事移住部長、有田圭輔国際協力事業団総裁が国際協力と移住について講演。前日、代表者会議で討議した要望書案について海外代表から発表、決議する。同会議終了後、アトラクションとして、日本の民謡、記念福引き。午後五時半から永田町の首相官邸で中曾根首相主催の歓迎レセプションが開かれる。

(第三回) 十日は皇居参觀、正午から憲政記念会館で衆参両院議長主催の歓迎

昼食会、午後から靖国神社表敬、NHK

見学、午後六時から港区芝白金の八芳園で鈴木俊一東京都知事主催の歓迎レセプション。

(記念旅行) 十一日午後八時、砂防会

第25回大会への道のり 川島協会事務局長に聞く

——第一回大会は、昭和三十二年に開催されたが、この時の模様から。

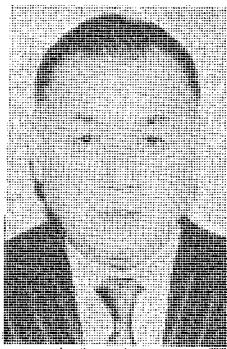
「第一回は『海外日系人親睦大会』といふ名称で文字通りの『お祭り』といつて差支えないと思います。丁度、大会の始まる一週間前に私は社会党代議士の田原春次さんから、手伝ってくれ、といわれて嘱託の形で事務方として参加したのが始まりでした。田原先生が海外派遣国会議員団の一員であったところから、同じ議員団としてアメリカ視察に出かけた

生に話をもち込み、この三先生を通して政界に働きかけていたのです」

——と言うと、やはり超党派で発足したわけですか。

「私は当初の企画に参加していませんので、その辺のこととは、くわしく知りませんが、日系人問題なので超党派で始められたものと思います。実際には、戦前、アメリカの邦字紙で活躍された、小沢武雄さん、四至本八郎さん、神原龜之助さん、それにブラジルの邦字紙出身の小林進さんらが、昭和三十年八月から準備に入っていました。政治家ではのちに官房長官となつた二階堂進さん、代議士の高瀬伝さん、それに、田原春次さんの要請で社会党元代議士の多賀安郎さんが事務

館前に集合、浜名湖をへて明治村見学一泊、ついで伊勢神宮、鳥羽をまわり名古屋で解散するバス旅行がオプショナル。ツアーリとして行われる。



川島克己事務局長

と思います」

——特定の目的はなかったのでしょうかが、当時、日本はドル不足で、これを機会に海外日系人に里帰りや観光旅行をしてもらいたいという願いもあったのです。

「それもあるだろうと思いません。大会には、衆参両院の議長、大蔵大臣、運輸大臣も出席されておりますから」

——ところで、相当な資金が必要だったと思いますが。

赤城宗徳先生を通じて首相になられた岸信介先生にお願いしましたところ、岸先生が何とかしよう、とおっしゃって外



有吉ジーハン表裏

務省に話をし三百万円を用意された。もう三十年近くも前の三百万円ですから、いまなら三千万円以上になるでしょう」

——当時のプログラムを見ますと、アトラクションは、デック・ミネ、東海林太郎、市丸、勝太郎、俳優の森繁久弥、日本舞の吾妻徳穂ら一流どころ総出演で、ずいぶん派手にという印象が強いが、これも三百万円の中から負担したのですか。

「実況中継をいまのTBSテレビがやりました。民放なのでスポンサーがついていたでしようから、主催者側として、そういう大きなギャラは負担しなかったと思いません」

——赤字は出さなかつた?

「赤字は出さなかつた? てみて、記念誌と写真アルバムの印刷発行費の未払い分が百万円あり、この分が赤字であることが判りました。事務方として、この分の穴埋めをと考え、海協連の新聞課長をしていた堀切秀夫さんと私がKDDの渡沢総裁にお願いしまして広告を二十万円で出していただくなど民間の各方面にお願いしまして、ようやく赤字を埋めました」

——ま、海外日系人協会は、そういっては何ですが、名だたる貧乏協会ですね。(笑) 第一回から早々と赤字だったわけです

「残念ながら実情はそうでした。しか

ります」

し、第一回大会は予想以上の盛り上がりをみせ、政界の先生方や外務省、民間団体も、二年か三年に一回位はやろう、とう話になりました」

——第一回大会当時はまだ事務所もなかつたのですね。

「日本橋の交差点近くにあった八洲ホテルの一室です。いまの北海道拓殖銀行のところでした。一時的な連絡所ですから第一回大会が終るまでです。第二回大会までに三年間あるので、どこかに連絡事務所が必要となり、小林進さんのパックスという会社の事務所が銀座にあり、ここに連絡事務局を置きました」

——第二回大会は三年後の昭和三十五年ですが、この時の費用は。

「外務省から助成金二百萬円でした」

——第一回より百万円減ったわけですね。

「でも、今日からみると貨幣価値がありましたがから、やはり今の二千万円以上の価値はあつたでしょう」

——三笠宮さまが、宮さまとして初めてご臨席をいただいたのは、昭和四十年の第六回大会からですか……。

「以来、毎回、宮さまのご出席をいただいており、事務局として大変あります」

たいと思っております。第十回、第十五回、第二十回と節目の大会には、とくに皇太子さま、美智子妃殿下にもお出をいただき海外からの参加者は、大層喜んで

います」

——宮さまをお迎えするに当ってご苦労もあると思いますが。

「宮内庁はじめ警備当局と十二分な打合せをしているので、全く心配しております。第二回大会の時は、皇太子さまが海外代表を東宮御所に招かれ、お茶の会をして下さった。お酒とつまみのものが出て、両殿下と親しくお話ができ、海外代表から、感謝されました」

「大会を通じ、皆さんに喜んでいただきたいの一念です。代表者会議、式典、全体会議、アトラクション、さらに都内観光、パーティと続きます。希望者に記念旅行をご案内するのですが、やはり事故防止にもっとも気をつかいます。第十二回大会の記念旅行で、ダンゴ中毒事件がおきました。当時、協会の事務局は靖国神社の近くにありまして、記念旅行の間、私が留守をしていました。浜松市から電話が入って、富士五湖めぐりをしたあと、静岡県駿東郡小山町の富士靈園見学のさい、出されたダンゴで旅行者が十七人、集団中毒をおこし入院したとい

石川清牧師 カナダのバンクーバーの数
田喜代三さんも入院した。協会から付き
添いでいった協会常務理事の四至本八郎
さんも入院した。原因はダンゴをつくっ
た職人の指。化濃していて、サルモエラ
菌による中毒だとわかりました。この時
は幸い皆さん、元気になりました

——海上自衛艦の体験航海で重軽者が出来ましたね。

二十一回大会です。東京湾を周航して着岸のさい、もやい網になぎ倒されての事故です。片足首を切断手術した方も出て、協会側も防衛庁も可能な限りの対策を取りました。理事長の岩動道行先生がお先きから夜、協会にかけつける、夜遅くまで病院へ見舞いに行くなど事務局あげて対応しました。防衛庁が目いっぱいの治療と補償に当ってくれ、私どもとしてほっとしたというのが本当のところです。もし、あれが防衛庁でなく、個人企業だったら、あれだけは到底していただけなかつたでしょう。ダンゴ中毒事件の時も、富士靈園を経営する三菱地所が治療からお見舞いまでも十二分に手当していただきました」

「八年から協会で季刊『海外日系人』誌を発行しましたが、あれは協会常務理事の伊藤一男さんがほとんど一人で編集をしておりました。

やはり団体活動を続ける場合、しっかりと運動の指針にもなります。やはり発行した定期刊行物があると、広報にもなります。よかったですと思います。幸い外務省、総理府、全国知事会の協力と理解をえまして、また、各企業が有力な広告のスポンサーになつていただき、好評を博しております。将来も続けたいと考えます」

――事務局長として今後に望むことは。

「金庫を預る私としては、やはり予算ですね。国の財政もきびしく、また民間の経済もさびしいので、大会運営資金集めに限界があります。無理なお願いはできませんが、第一回、第二回大会程度に予算があればと思います。第一回大会からいらい第二十四回大会まで参加者は一萬九十六人を数えました。これらの人たちが日本へ落とすドルだけでも、一人平均五千ドルとしても五千万ドルですね。円にしたら百億円以上になります。このほか、海外から日系の方々が故郷への送金も年間約百億円を数えた年があったと聞いています。いわゆる母國への経済的貢献度だけをとりあげても相当なものだと思います。私は個人的な考え方ですが、こうした面や国際交流に果してきた役割を考えますと、日系人大会を中軸にして、もつともっと海外日系人のため日本側は尽力してもいいのではないかと考えます。私の夢ですが、毎年、日系人大会に海外代表を十人位はご招待できたらと考えています」

原点・オールド



サントリーオールドは、日本のウイスキーの代表作として愛されています。ストレート、オンザロック、水割り、どのような飲まれ方をしても、その円熟した味わいや香りが崩れず、毅然としているからでしょう。初めてウイスキーを手にするひとが、ウイスキーのあるべき型を知るによく、様々な酒の経験を重ねてきた方が、安じてそのグラスを委

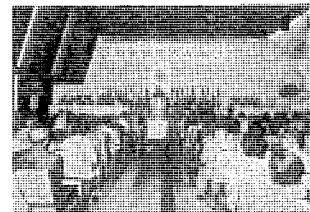
ねるによし。まさにオールドは、ウイスキーの原点。愛酒家が快く頷く、確かな「黒丸」です。



サントリ一オールド

標準的な小売価格／3、170円 製造・販売／サントリ一株式会社

祝・第25回海外日系人大会



海外日系人大会25年の歩み

回	開催年月日	会場	御臨席の皇族	参加者代表氏名	参加数
1	昭和32年(1957)5月2日～4日	産経会館	なし	アメリカ	国府田敬三郎ほか14ヵ国
2	35年(1960)5月25日～27日	九段会館	なし	ブラジル	野田良治ほか15
3	37年(1962)5月4日～8日	都市センター	なし	アメリカ	松尾弘ほか14
4	38年(1963)10月23日～26日	産経会館	なし	同	川部惣太郎ほか13
5	39年(1964)10月26日～29日	同	なし	ブラジル	宮坂国八ほか10
6	40年(1965)10月20日～22日	全共連会議場	三笠宮殿下	アメリカ	秀島七三郎12
7	41年(1966)5月10日～13日	産経会館	同	ベル	川崎新太郎18
8	42年(1967)5月16日～19日	同	三笠宮・同妃両殿下	アメリカ	西本育麿17
9	43年(1968)6月17日	イリカイ・ホテル	常陸宮・同妃両殿下	同	石川清ほか5
10	44年(1969)5月13日～16日	砂防会館ホール	皇太子殿下	同	村上豊14
11	45年(1970)5月12日～15日	同	常陸宮・同妃両殿下	メキシコ	木村徵13
12	46年(1971)5月14日～15日	同	高松宮・同妃両殿下	アメリカ	山本常一14
13	47年(1972)5月10日～12日	同	秩父宮妃殿下	パラグアイ	笠松尚一8
14	48年(1973)5月15日～17日	同	常陸宮・同妃両殿下	ブラジル	延満三五郎9
15	49年(1974)5月14日～17日	同	皇太子・同妃両殿下	アメリカ	三原源治10
16	50年(1975)10月8日～10日	同	常陸宮・同妃両殿下	アルゼンチン	宇野文平11
17	51年(1976)5月13日～15日	同	三笠宮・同妃両殿下	アメリカ	稻富マヌエル9
18	52年(1977)5月12日～14日	同	秩父宮妃殿下	アルゼンチン	宇野文平9
19	53年(1978)5月11日～13日	海運会館	常陸宮・同妃両殿下	コロンビア	田中豊11
20	54年(1979)5月16日～18日	砂防会館ホール	皇太子・同妃両殿下	ベル	福田惣作11
21	55年(1980)5月7日～9日	同	三笠宮寛仁殿下	アメリカ	関野行雄8
22	56年(1981)5月6日～8日	同	三笠宮寛仁・同妃両殿下	同	沖若正9
23	57年(1982)5月4日～7日	同	常陸宮・同妃両殿下	ブラジル	内山勝男10
24	58年(1983)5月18日～18日	海運会館	三笠宮寛仁殿下	同	小堀アルバート12
25	59年(1984)5月8日～10日	砂防会館ホール	皇太子・同妃両殿下	同	—

株式会社ブラジル旅行社

代表取締役社長 鈴木喜代司
〒105 東京都港区新橋1-11-4
三栄ビル3階
電話 03-574-8787(代)

株式会社プラスヴィア旅行社

代表取締役 石井 新人
〒105 東京都港区新橋3-11-1
エビヤビル6階
電話 03-436-6731(代)

株式会社ジャパンシェルマール

ツーリスト
代表取締役社長 内田 忠
〒104 東京都中央区銀座2-11-6
竹田ビル5階
電話 03-545-5551(代)

株式会社海外移住旅行社

代表取締役社長 滝沢 三規
〒105 東京都港区虎ノ門1-9-1
電話 03-503-4536(代)

株式会社金城旅行社

代表取締役 古川 廣一
〒150 東京都渋谷区代官山町16-2
電話 03-463-6311(代)

株式会社メキシコ観光東京支店

支店長 大貫 俊彦
〒107 東京都港区南青山5-1-18
ボヌール青山5-B
電話 03-406-1641(代)

ソニープラトラベル株式会社

代表取締役 池澤 俊之
〒104 東京都中央区京橋2-2-3
石渡ビル
電話 03-272-2861(代)

株式会社ウニベルツール

代表取締役社長 藤井 晖雄
〒103 東京都中央区八重洲1-2-6
協栄生命吳服橋ビル6階
電話 03-274-3567(代)



海外日系新聞協会

創立10周年式典

と

年次総会・報告

フォーラムとシンポジウムも



海外の日系新聞、テレビ、ラジオが一つになって国際交流をはかる海外日系新聞協会の創立十周年式典と年次総会は、一九八三年十月十二日、東京都千代田区内幸町の日本プレス・センターで開催された。今回は創立十周年記念とあって、米州六ヵ国、二十一社、代表二十四氏が参加。同日午後から記念特別フォーラム「海外に伝わる日本文化」(司会作家・村上兵衛氏)を開き、ハワイのJNNプロダクション制作のビデオ。テープを見ながら討論を重ねた。翌十三日は、記念特別シンポジウム「海外日本語新聞、ラジオ、テレビなど日系マスメディアが果たす国際的役割と過去・現在・未来」(司会)東京女子大教授・猿谷要氏)が開かれ、伊藤一男「海外日系人」編集長が基調講演ついで高須正郎専修大教授、サンパウロ新聞・内山勝男編集主幹、田村紀雄東京経済大教授、白水繁彦高千穂商大助教授、加州毎日新聞・丸谷潤子宮業部長・日米時事・滑川巖社長がそれぞれの研究、体験を中心と講演した。この種のフォーラム、シンポジウムは国際的に始めての開催だけに、学者、研究者、日本のマスコミからも高く評価された。協会では、この成果をまとめた報告書「報道関係者等国際交流へ海外日系新聞▽十年の歩み」を同年十二月に発行した。

外務大臣から協会が表彰

晴れの式典に参加したのは(カナダ)

カナダ・タイムスリ田場国男(トロント)、バンクーバー代表・西村咲弥(バンクーバー)(米国)日米時事・滑川巖(サンフランシスコ)、北米毎日・松尾明(同)、国際文化社・小野寺重弘(同)、羅府新報・荒川和彦(ロサンゼルス)、加州毎日新聞・丸谷潤子(同)、U.S.ジャパン・ビジネス・ニュース・三石敏雄(同)、ロッキー時報・今田順子(デンバー)、ハワイ報知・円福ボール(ホノルル)、コホ放送・相賀ウォルター、平井隆三(同)、ケーブル放送・佐藤圭男(同)、キク・テレビ・友沢俊夫(同)、JNNプロダクション・エリザベス・みさお・キース(同)、メキシコ)にちばく新聞・荻野正蔵、春日カルロス、松本孝(メキシコ・シティ)ペル(ペル・新報・新家シモン(リマ)、ブラジル)サンパウロ新聞・内山勝男(サンパウロ)、ペウリスタ新聞・上田鉄三(同)、日伯毎日新聞・重光英(同)、パラグアイ)日系ジャーナル・高倉道男(アスンシオン)の各氏。

午前十時、田付景一協会理事長が開会を宣言し開幕した。ついで岩動道行協会長は「激動する国際情勢のなか、海外日系新聞協会及び会員各社がマスメディアの機能を發揮し、経済交流、人物交流、文化交流、スポーツ交流等幅広い分野でそれぞれの日系社会、国家への寄与ならびに日本とのつながりを一層濃密にする役割は益々重視されるものであります」

と述べた。

さらに中曾根康弘首相の祝辞が代読された。首相は「政府レベルでは出来ない草の根レベルの様々な面で国際的相互理解の増進に寄与されておりましては、私ども致しましては誠に心強い限りであります」と、日系マスメディアの活動を高く評価した。続いて渡辺毅日本新聞協会会長(代読)は「海外日系報道各社が、

ますますその機能を高められ、使命の達成に当されることを切にお祈りします」と述べ、稻山嘉寛経団連会長(代読)の祝辞が続いた。

さらに安倍晋太郎外相から海外日系新聞協会に国際協力に功績があつたとして表彰状を贈られ、三宅和助同省情文局長から岩動会長に手渡された。

功劳二十氏に感謝状贈る

このあと、協会加盟各社から選考された次の二十氏に、岩動会長から感謝状と記念品が贈られた。

▽岩崎与理喜元大陸時報社長(トロント)
▽杉本幸八郎シカゴ新報最高顧問(シカゴ)
▽浅野七之助日米時事名譽会長(サンフランシスコ)
▽池添一馬日米時事会長(同)
▽今関ハワード松次北米毎日最高顧問(同)
▽日比谷隆美北米報知編集長(アトル)
▽佐多つる加州毎日新聞文撰工(ロサンゼルス)
▽丸谷潤子加州毎日新聞業部長(同)
▽熊崎熊一ワイ報知

社長(同)
▽三国繁雄ハワイタイムス工場長(同)
▽斎藤千仁ペルー新報西語編集長(リマ)
▽崎原幾先同植字工(同)
▽並里清祐同編集次長(同)
▽石火矢俊秋パウリスタ新聞文撰工(サンパウロ)
▽新宅イシ亞国日報社主(エノスアイレス)
▽菅井栄四同社長(同)
▽川田美一らぶらた報知工場主任(同)
受彰者一同に代わり内山氏から謝辞が述べられた。また、式典参加者を代表して円福ハイ報知社長から、岩動会長、田付理事長、伊藤専務理事、川島克己事務局長に感謝のプラグが贈られた。

丹羽兵助総務官らが祝辞

創立十周年記念式典に統いて第十回年次総会に入った。丹羽兵助総理府総務長官(國務大臣)、三宅外務省情文局長、河村欣二(フォーリン・プレス・センター

専務理事、中平立国際協力事業団理事、

仙石敬国際交流基金専務理事から祝辞が述べられた。

総会では事業報告、会計報告があり、役員改選では会長、理事長、専務理事が再選、新しく副会長に駒井明羅府新報社長、松尾明北米毎日社長、円福ボール・ハイ報知社長、中林敏彦日伯毎日新聞社長、菅井栄四亞国日報社長監事に飯田一夫ペルー新報社長、中田滋海外日系人協会理事がそれぞれ選出された。

社友(ホノルル)▽平井隆三コホ放送副社長(同)▽三国繁雄ハワイタイムス工場長(同)▽斎藤千仁ペルー新報西語編集長(リマ)▽崎原幾先同植字工(同)

▽並里清祐同編集次長(同)
▽石火矢俊秋パウリスタ新聞文撰工(サンパウロ)
▽新宅イシ亞国日報社主(エノスアイレス)
▽菅井栄四同社長(同)
▽川田美一らぶらた報知工場主任(同)

受彰者一同に代わり内山氏から謝辞が述べられた。また、式典参加者を代表して円福ハイ報知社長から、岩動会長、田付理事長、伊藤専務理事、川島克己事務局長に感謝のプラグが贈られた。

十月十二日午後から開催の記念特別プログラム(別項参照)、翌十三日のシンポジウムを終えた一行は長野市で開催の第三十六回新

聞大会に参加、長野、群馬両県下を視察、筑波学園都市の科学万博博会場を見学した。

記念特別フォーラム

「海外に伝わる日本文化」

十月十二日午後から開催の記念特別フ

ォーラムは、ビデオを上映しながら、JNプロダクション代表、エリザベス・みさお・キース夫人が流れの様な日本語で解説した。ハイは一八六八年(明治元年)から日本人移民の歴史がある土地なので、日本から持ち込んだ習慣、行事、武道、スポーツをあくまでも各種の文化がい

まさに脈々と生きており、会場を埋めた

フロアの学者、研究者、ジャーナリストらは嬉しい入るよう、画面と解説に耳目

を集中させていた。次はキース夫人の解説から――。

餅つき ハワイの日系人の中に、いまだに日本の伝統を守ろうとする家庭が多く、この餅つきなどもハイでお正月の準備をする行事の一つになつております。このタケウチさんというお宅では毎年餅つきの行事を中心にして家族全員とお友達が集まり新年の準備をしておりま

す。このタケウチさんというお宅では毎年餅つきの行事を中心にして家族全員とお友達が集まり新年の準備をしておりま

す。このタケウチさんというお宅では毎年餅つきの行事を中心にして家族全員とお友達が集まり新年の準備をしておりま

す。このタケウチさんというお宅では毎年餅つきの行事を中心にして家族全員とお友達が集まり新年の準備をしておりま

す。このタケウチさんというお宅では毎年餅つきの行事を中心にして家族全員とお友達が集まり新年の準備をしておりま

は恒例のモチ・パウンデング・パーティ

となっております。他にはハイでは、ガールズ・デー、雛祭り、ボーワーズ・デ

ー、端午の節句。ポン・ダンス、盆踊りなどが日系人の間では盛んで、お葬式などは仏式で、結婚式も西欧的ではなく日本の神道式の結婚式もみられます。ほかには厄年パーティ、還歴、喜寿、米寿、白寿などのパーティもよく見られます。

こういった日本の習慣でも少し変えてハイに合つたように祝われておられます。例えば日系家庭の結婚式のとき、式場にはよく幸わせを願つてお友達が折つて下

さつた美しい千羽鶴が飾られています。厄年パーティには、ケーキの上に日本の伝統的な鶴や松のデザインが飾られたり

します。こういったことは、日本の文化がハイに合つた形で保存しようという気持の表われだと思います。

初詣で ハワイ出雲大社の初詣でです。一年の計は元旦にありで、大晦日の深夜から人が集まり、元旦の午後九時がピークとなります。ほとんどが中年、そ

して二十代、三十代の人が多く日系人以

外の白人たちの姿も目立ちます。お守りを買ったり、お賽銭を投げて、新しい年が幸多い年であることを祈ります。

ハワイの宗教別人口では仏教の信仰者が全人口の十一・八%です。仏教寺院は何とハワイでは九十六カ所あります。神社は七カ所あります。宗教は、例えば天理教などは七十七あります。いかに宗教が日系人社会に強い存在か、この統計でおわかりかと思います。このほか護摩法要、灯籠流などの宗教的な儀式が行われております。

長唄 長唄に出演しているのは、J.N. プロダクションのスタッフで、オフィスマネージャーのカレン・ヤマダなのでですが、彼女は日系三世です。日本舞踊は阪東流の名取で、長唄は七年間、勉強しているそうです。ハワイでは一九二〇年代に東京の長唄師匠、杵屋ヤエミツ（弥恵光）が初めて長唄のレッスンをスタートしたといわれています。ハワイには長唄では杵屋流と吉村流があります。一九七三年ごろから、ハワイ大学で国際歌舞伎が始まられ、鳴神、勧進帳、助六が英語で演じられ、若い世代に人気があります。以来、日本語が話せない日系三世、四世などが長唄や日本舞踊に興味をもち勉強し始めたということです。現在ハワイには十八の日舞や邦楽団体があります。

尺八とお琴 日本で外国人として初めて尺八の名人の資格を得たライリー・リ

ードさんはハワイの生まれです。一九七〇年に日本へ観光できて尺八の音に魅せられて勉強を始めたそうです。そして初めは趣味だったのが本格的に始めて七年間、日本で修行しました。いまはハワイで西洋や東洋の音樂祭によく出演しています。いまハワイ大学で尺八を教えています。最近では尺八でレコードティングしているミュージシャンです。

次にご紹介しますのは、ジューン・フリップスさんでお母さんは日本人、お父さんはアメリカ人の混血児です。はじめピアノをひいておりましたが、琴を始めたのは、つい二、三年前。生田流の彼女は現在ではコンサートで活躍しています。どこの国でも言葉を問わずにけるのは西洋の樂器です。日本の樂器の場合、日本語で音譜が書かれていますので、日本語がわからない人は弾けないわけです。彼女の最大のチャレンジは、日本語の樂譜で書いてある、日本の古典音楽をそのまま西洋の樂譜に書きかえること、そうすると日本語の読みない若い世代の人でも西洋の樂譜を読みながら、日本樂器を弾くことが出来るわけで、もつ

て、日本語がわからぬ人は弾けないわけです。彼女の最大のチャレンジは、日本語の樂譜で書いてある、日本の古典音楽をそのまま西洋の樂譜に書きかえること、そうすると日本語の読みない若い世代の人でも西洋の樂譜を読みながら、日本樂器を弾くことが出来るわけで、もつ

て、日本刀研ぎ師 ロバート・ベンソンさんは、一九六〇年代に日本へ行き、日本刀を趣味として集めていたところ、趣味が

こうじて現在は生活の一部にしておりまます。骨とう品店をもちハワイでは日本刀の研ぎ師として有名な方です。彼によりますと、昔、侍のつかつた日本刀は世界中でも知られており、その永続性と鋭さは、世界のどの武器にも劣りません。刀は現在、美術品として評価されております。ハワイでは、チャンバラ・ムービーやサムライ・テレビ番組の影響から刀に興味をもつ人が最近、ふえています。忍者番組の陰の軍団などが人気を博し、武道クラブには小さな男の子や女の子が勇しく忍者の千葉真一さんの真似をする光景がよく見られます。現在、ハワイには柔道、剣道、合氣道、空手など日本の武道をするスポーツ。クラブが十七カ所あります。

茶道 日本的な静けさと神秘を象徴する茶道。ハワイのワイキキにあります裏千家ハワイ支部はハワイに進出してきてから、すでに三十年以上たっています。週に一回、一般の人々にお茶を披露しております。ですが、ワイキキにありますので、よくアメリカ本土からきた白人の観光客の人々が興味津々、見に来るそうです。他には日系人商工会議所、ハワイ大学の東西文化センターなどにも、古風な日本のお茶室があります。茶道クラブはハワイには四団体あります。茶道につきもの生け花クラブも女性の間で人気があり、生け花クラブが七団体あります。

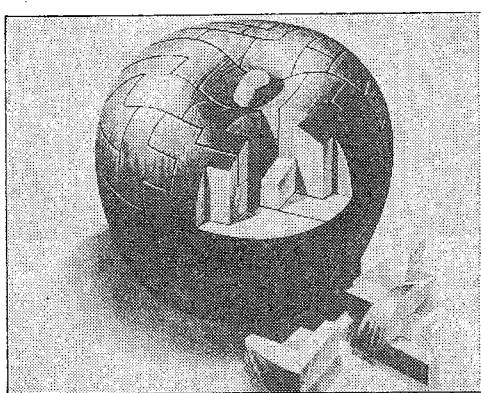
刀研ぎ師 ロバート・ベンソンさんは、一九六〇年代に日本へ行き、日本刀を趣味として集めていたところ、趣味が

“システム”を組む。

ダイナミックに変動する現代。社会のニーズもますます個性化、多様化しています。こうした状況下、トーメンは世界を結ぶネットワークと総合商社として長年培ってきたノウハウを駆使、情報・技術・人材・資金などあらゆる要素をクロスオーバーさせ、新しいニーズへの効果的な対応を図っております。

未来への展望を持ち、トータルオーガナイザーとして活躍するトーメンにご期待ください。

トーメン



所は頑丈に建てられましたので現在も昔の建物がそのまま建っています。酒米にはカリフォルニア米を使い、蒸してから冷やすのですが、これはいまでも手で行っておられます。日本から初めてお酒を輸入したのは一八八八年で官約移民が来布して僅か三年後です。記録によりますと、暖かいハワイでお酒を醸造することは容易でなく大型の冷蔵庫をつくることが先決でした。醸造を始めてから五年後の一九一三年には、すでに五万ドルの利益を記録しました。いまでもほとんど昔とかわらない方法でお酒を造っているホノルル酒醸造会社は、現在、生産高の七十%を米本土に売っています。ハワイにおいては他の日本食品メーカーまたは日本の食品はほとんど何でもハワイで買えるのではないかと思われます。

の皆さんのがゲームを一般に普及し、いまでは毎週水曜日と土曜日に楽しんでおります。ビデオに収録した、このグループは、熊本県人会の皆さんですが、ハワイには他に二十五の県人会がありまして、新年宴会、県人会ピクニック、忘年会などを楽しんでおります。

弓道 ハワイの弓道会は現在メンバーが合計三十四人おりますが、そのうち二人だけが、日本語を話す、日本から来た日本人です。他の三十二人は白人、日系人その他のいろいろおりまして、日本語を話せない人たちです。ハワイ弓道会は一九〇八年に日本からきた歯科医の朝比奈貞先生という方、他二十一人で結成され、メンバー・シップは今も昔もあまり

變らず、平均して三十人前後だそうです。現在、弓道を指導しているのは、ハイ石橋神社の宮司、藤野茂夫氏。彼によりますと、週一回、レッスンを受けて六ヶ月位である程度、弓をひけるようになると言ております。一番重要なことは心を静め、的に集中することだそうで、さきほどから、このビデオをご覧になつて気がついたことだと思いますが、こういった日本の趣味などには必ず白人その他の、いろいろな他の人種が参加しておられました。ほとんど人が日本語を話せない人たちですが、それにもかかわらず日本の文化が大好きで、何か日本のなことをしようとする人たちが多いのです。

いま、「たしかさ」を
求めて。

DREAMS COME TRUE THROUGH TRADE

NISSHO IWAI
日商岩井株式会社

トで、ハワイでは日本ケーブル。ボーリー協会の理事の一
人である、KZOの放送の総支配人、佐藤圭男さんが一九七九年に紹介し
まして、四年前に熊本からゲート・ボーリーがハワイに来て、ハワイ熊本
県人会に、このゲームを教え親睦試合を行いました。その後、熊本県人会
トして帰りました。

の皆さんのがゲームを一般に普及し、いまでは毎週水曜日と土曜日に楽しんでおります。ビデオに収録した、このグループは、熊本県人会の皆さんですが、ハワイには他に二十五の県人会がありまして、新年宴会、県人会ピクニック、忘年会などを楽しんでおります。

弓道 ハワイの弓道会は現在メンバーが合計三十四人おりますが、そのうち二人だけが、日本語を話す、日本から来た日本人です。他の三十二人は白人、日系人その他のいろいろおりまして、日本語を話せない人たちです。ハワイ弓道会は一九〇八年に日本からきた歯科医の朝比奈貞先生という方、他二十一人で結成され、メンバー・シップは今も昔もあまりよりますと、週一回、レッスンを受けて六ヶ月位である程度、弓をひけるようになります。現在、弓道を指導しているのは、ハワイ石槌神社の宮司、藤野茂夫氏。彼によると、心を静め的に集中することだそうです。さきほどから、このビデオをご覧になつて気がついたことと思いますが、こういった日本の趣味などには必ず白人その他、いろいろな他の人種が参加しておきました。ほとんどの人が日本語を話せない人たちですが、それにもかかわらず日本の文化が大好きで、何か日本的なことをしようとする人たちが多いのです。

リーサーリーズで、「ハワイ・イン・フオーカス」という一時間番組ですが、一九八一年九月にスタートしまして、一九八三年六月まで続けました。毎週日曜日の夜六時から放映しまして、最終回には、一番思い出に残ったものを集めて、特別番組として放映しました。その中から三十分間位にまとめて持って参りました。いま私たちは「週間ビデオ」と新しく名前を変えまして番組を続けております。(注)以下、ジョアン・二宮J.N.プロダクション社長のナレーションとキースさんのナレーションで組立てた)

燈籠流し 一九八一年九月二十日に戻りまして、オアフ島の北にあるハレイワ

いま、「たしかさ」を求めて。



の町で行われます。面白いことに、灯籠はアルファベット順に並べられてあります。ですから、アベさんはAのところに、スマミさんはSのところに、ワタナベさんはWのところに並べられています。いまでは大陸から来る白人の観光客の皆さんも喜んでこの珍らしい儀式を見に来ます。ですから何千人という観客が浜辺に並んでおります。今年は五百近い灯籠が出ました。人出も前の年を上回つています。読経が始まっています。感謝と喜びの心をこめて、灯籠流しでもつて、あの世へ還える魂、観客はおとなしく親身になつて、この静かな風景を眺めました。年齢を問わず、生まれた国を問わず、人々は灯籠を手にし、亡き先祖の

灯籠は遠く沖に流れていきました。

頑張れシニアーズ 現代のあわただしい生活の中で私たちは、人と人とのふれ

あい、人に尽くすこと、人間の心の暖かさを忘れがちです。しかし、ワインマ・ホームでは精神薄弱児施設にボランティアの人たちがおりました。私たちは、この子供たちに対する愛の気高さに心を打たれました。このボランティアを続ける岩本つる子さんですけれど、NHKの取材班からもインタビューを受けています。私たち、この「頑張れシニアーズ」の取材をして、とってもフルに老後の生活を過ごしている沢山のシニアーズの皆さんにお会いすることができまし

た。シニア・シティズンのクラブでフランダンス、民謡、カラオケ、手芸など、レインをつくったり枕をつくったり、毎日外出でお友達と楽しい時間を過ごしていらっしゃいました。現在ではハワイの人口の約八%が六十五歳以上の人たちです。

日本語学校 官約移民時代から現在まで、五十年前の日本語学校独立運動のお話、そして現在のハワイの日本語学校の状態などを先生方に語っていただきまし

た。パラマ学園。七十余年間の歴史をもつパラマ学園は一九五〇年代が生徒数のピークであったそうです。当時は千八百人の生徒が通い、現在の園長先生、田中静喜先生は一九三二年からパラマ学園にお勤めになり、同じ学校に五十年も教

えていらっしゃるのです。

田中先生は——。こういうと教育界に

叱られるかも知れませんが、昔の熱心な先生の様な方が現在いらしゃらない。先生自体が熱心でないのではないかと思ひます。子供はやはり先生の鏡ですから。先生が怠けると、それが子供に影響するということでしょう。昔の子供がちゃんととしているのは、そういうことでしょ。昔は晩鐘令があつて夜八時以後は出てはいけないことになつていて。親の言いつけを守れ、学校にいったら先生の言いつけをよく守って偉いものになれよ、という教育だった。いまは何でもいいから一ドルやるから学校へいって遊んでこいといふ親の仕組みの違いがそこにあるのではないかと思う。日本語を話せないから子供に日本語学校へといふ方もいますし、最近では、日本語が必要だという声の方が強くなりまして、おかげ様で皆さま熱心に教育に打ち込んでいらっしゃり、お子さんを学校へいかしたら何かを学んでくると思うようになります。その点では私たちもやりいいと思うようになりました。

初めは十二人の生徒と校長先生一人で開校しました。当時、日系人の方はお百姓の皆さんで子供たちを学校へ通わせられなかったのですが、いまでは広い畑を

まで発展してきたのではないかと思います——とおっしゃっていました。
和敬学園 戦後の一九五三年に復活した和敬学園は、多分、一番ユニークな点は、バスで送り迎えすることだと思います。ヌアヌ地区だけではなく私立校、そのほか他の場所から、毎日、和敬学園に生徒が通うのです。ハワイでは進歩的な中に入る和敬学園、園長の町田時保先生のお話を聞いてみましょう。先生は——「私がここに来た時分は生徒六十八人位でした。四、五年位の間に生徒がふえ始めまして、バスを使うようになつてから生徒が急激にふえて、三百人位になつたのは、十五、六年前です。募集人数に限度がありますので、あまり大きくすることはできません。ここ十年間位、アメリカの経済と多少かかわりがあると思うのですが、最近はお父さん、お母さんが働くことが極めて一般的になりました。兩親が働いている場合、子供が公立学校で午後二時十五分に授業が終りますと、このあと、子供のことが配で仕事を途中、休んで子供を連れていって家に帰つても多分困るだろうと思ひます。そういう意味で、うちの学校がバスで公立学校に迎えにいきますから。現在三百七十五人のうちの三百人以上がバスを利用しています」

町田時保先生はハワイ日本語学校協会の会長をしておりますが、町田先生によりますと、現在、日本語学校の傾向とし

て、日系人だけではなく混血児や他の人種の子供たちが、とても多くなってきたということです。一九八三年五月一日に出されたレポートによりますと、現在、ハワイ州では四十九の日本語学校がありましたが、昨年では五十二校ありました。ハワイの全島で日本語を勉強している生徒数は、三千八百九十五人。昨年は四千三百五十人。一九八〇年は四千七百八十二人で、年々生徒数が減つております。将来、日本語学校が海外で栄えるためには、日本の政府にもっと経済的援助をして欲しいと、町田先生はおっしゃっておられました。

現在では、日本語の単語が、ハワイのビジョン・イングリッシュの中に沢山含まれております。ここで一九八一年に初めて発行された以来、十万冊売れた本を紹介します。「ビジョン・トゥ・ダ・マックス」(Vision to the Max)です。試して徹底的にビジョン——いうのをどうか。AからZまで、ハワイのビジョンの単語をユーモラスに漫画で描いています。あまりの人気に、最近、パト・ツーも出版されました。

いくつかを紹介しますと、例えばCHAN(ぱあちゃん)。BENJO(便所)、クリキニの養老院にはTOILETとは書いてありません。SASHIMI(刺身)です。SHIBAI(芝居)ですが、That Politician making SHIBAIと言えばウソをつぶやぐことになります。SHISHI

は、おしゃれです。HABUTERUは広島地方や日本の西の方の方言で、「くくれ」を意味する「こと」で She was HABUTERU todayなどと使います。あとは BENTO(弁当)、BOBRAもあります。広島地方でカボチャのことです。カボチャのか、日本から来た田舎ものを言います。She has DAIKON legs。大根足ですね。MUSUBI(おにぎり)です。これはピクニックに欠かせません。BACHI(罰)、OBAKE(お化け)、SAMURAI(侍)、TOJO(東條)などもハワイの英語の中でも、そのまま使われています。

有吉知事の母・みつえさん この子

は負けず嫌いで、汚れたのが嫌いなところでも手が汚れる、お母さん、ハン

カチちょうどいい、と言つて手を洗つてふ

ります。三歳頃のこと、同じ年頃の子と

遊びに出た。戸外でギャッという声がす

るので見に出ると、よその子の頭の鉢か

らちょっと血が出ていました。その子の

お母さんが來たので「お医者に連れてい

へ」「へい」と言いましたら、お母さんは

「この位の傷は何でもない、毎日です

よ。心配なく」と言われた。主人が帰

宅したので「お父さん、きょうはね、ジ

ヨージがお友達にちょっと怪我させたの

よ」と言いました。お父さんは「そんな

らのう、酒屋へいつでお酒二本買つてこ

い」と言うので買ってきて、あげたの

よ。そしたら、そこのお父さんは喜んで

うちは貧乏だから酒なんか飲めない。

島地方や日本の西の方の方言で、「くくれ」を意味する「こと」で She was HABUTERU todayなどと使います。あとは BENTO(弁当)、BOBRAもあります。広島地方でカボチャのことです。カボチャのか、日本から来た田舎ものを言います。She has DAIKON legs。大根足ですね。MUSUBI(おにぎり)です。これはピクニックに欠かせません。BACHI(罰)、OBAKE(お化け)、SAMURAI(侍)、TOJO(東條)などもハワイの英語の中で、そのまま使われています。

有吉知事の母・みつえさん この子

は負けず嫌いで、汚れたのが嫌いなところでも手が汚れる、お母さん、ハン

カチちょうどいい、と言つて手を洗つてふ

ります。三歳頃のこと、同じ年頃の子と

遊びに出た。戸外でギャッという声がす

るので見出ると、よその子の頭の鉢か

らちょっと血が出ていました。その子の

お母さんが來たので「お医者に連れてい

へ」「へい」と言いましたら、お母さんは

「この位の傷は何でもない、毎日です

よ。心配なく」と言われた。主人が帰

宅したので「お父さん、きょうはね、ジ

ヨージがお友達にちょっと怪我させたの

よ」と言いました。お父さんは「そんな

らのう、酒屋へいつでお酒二本買つてこ

い」と言うので買ってきて、あげたの

よ。そしたら、そこのお父さんは喜んで

うちは貧乏だから酒なんか飲めない。

こんな怪我なら毎日でもいい」と言いました。有吉知事は政治生活二十八年間、唯一人の日系の知事です。今回は知事として三期目で、一九八六年に知事としての任務を終ります。彼のおだやかな優しい人柄が人々の人気的ではないかと思います。アメリカでは唯一人の日系人の州知事さんです。『有吉内閣』には現在、局長が十五人で、このうち三十三%が日系人です。州政府に勤める公務員も六十%が日系人です。

キース州政府経済開発局長 (この番組は、KOHO放送大高一広アナウンサーが担当した) キース局長はニューヨーク生まれ。ハーバード大学、オックスフォード大学を卒業して早稲田大学へ留学し、一九七四年、ハワイに戻ってきてハワイ大学法学部を出て司法試験に合格、二年間、法律事務所に勤めました。日本文化を理解するために日本語の勉強をして歩き、わからないことがあるとすぐ辞書を引きました。授業では難しい漢字や文法などの勉強をしました。夜中の二時、三時までよく宿題をやりました。これを二年間続けてやつと話せるようになります。現在、ハワイ州政府の主なプロジェクトとしまして、太陽発電の開発、マンガン鉱の探鉱、天然エネルギーの開発などの研究に、ぼくが参画しています。経済発達が大切だと思いましたので、州政府に入りました。

ホテルパシフィックは、皆さまの幅広いご利用に、多彩な設備とゆき届いたサービスでお応えする国際ホテルです。交通至便な品川駅正面で都心のオフィス街や銀座・六本木などのショッピング街にも至近距離です。プライベートにビジネスに、皆さまの快適な旅の拠点としてご利用ください。

■客室1000室 ■レストラン・バー11ヵ所
■宴会場19室 ■600台収容駐車場完備

ホテルパシフィック
MERIDIEN HOTELS ASSOCIATE

東京・高輪 品川駅正面

Tel. 03(445)6711

INTERNATIONAL OFFICES

•Los Angeles ☎(818)792-0266

•Paris ☎(1)256-1286

360°自由開拓。



国際川柳大会と花嫁柳人の詩

日本文化の伝承者たち

村井孝夫

る。

この仏教会のホールで国際川柳紙上大会が開催されたのは、一九八三年九月四日であった。二十年前の十月に、当時、タコマ仏教会の大内定磨聞教使（現、シアトル別院輪番）夫妻の提唱でタコマ川柳吟社が創立された。これを記念して、米国西北部川柳大会とあわせて、全米紙上川柳大会の開催となつたのだが、応募した柳人は、地元ワシントン州からシアトル十四人、ベルビュー一人、タコマ十二人、オレゴン州ポートランド七人、カリフォルニア州五十一人、シカゴ七人、ニューヨーク一人、ニュージャージー州一人、ミネソタ州一人、ペンシルバニア州一人、ハワイ州一人。米国以外では日本十人、カナダ一人、ブラジル一人の国際カ国、百九人に上つた。つまり、全米川柳大会ではなく、事実上、国際川柳大会となつたのである。

紙上大会なので各国から柳人たちの直接参加はなかつたが、それで予め決めた席題によつて投句する仕組みで、選者は「子供」がタコマも、当日はロサンゼルスから「つばめ吟社」の花見留雄夫妻はじめ、ポートランドの川柳バラ吟社から斎藤竜子、タコマ川柳吟社創立者の大内輪番も駆けつけ、賑やかな川柳句会となつた。

タコマの川柳吟社があり、タコマ仏教会を中心とした文化活動が行われていた。タコマ川柳吟社があり、タコマ仏教会を中心とした文化活動が行われていた。タコマ川柳吟社があり、タコマ仏教会を中心とした文化活動が行われていた。

四百九人の歌人たち

アメリカ本土の北の玄関、ワシントン州シアトル市にある国際空港は、シアトル空港ではない。シアトル市とタコマ市の中间にあるので、シアトル・タコマ空港といい、略称は「シー・タック空港」である。タコマは、日本人にあまり耳馴れない地名であるが、ここは日本人移民にとって大層歴史的に古い土地である。タコマはかつての明治移民が「田駒」の宛字を呼んだ地で、いまは見る影もなくなつたが、当時は、日本人街が栄え、邦字週刊紙が発行されていた。領事館が出来たのは、一八九五年（明治二十八年）で、全米ではサンフランシスコ、ホノルル、ニューヨーク、シカゴについて五番目に日本の在外公館が設置された都市である。タコマ領事館は一九〇〇年（明治三十三年）にシアトルへ移り、この地方の日本人移民の中心地はシアトルになつていった。文人、永井荷風が渡米留学したのもタコマの高校であった。かつては、洗濯屋、床屋、料飲店、雑貨商から日本風呂屋まであった日本人街も、いまは、さながら「移民史上のゴースト・タウン」となつたが、日本からの文化的伝統はなお生き続けている。タコマ日系人会（辨本テッド勝会長）やタコマ川柳吟社があり、タコマ仏教会を中心とした文化活動が行われていた。



タコマ川柳吟社20周年記念大会参加の柳人（タコマ仏教会前で）

見留雄各氏がそれぞれ務めた。

持点は、天5点、地4点、人3点、客2点、秀吟1・5点、佳作1点、選者0点と決め選考の結果、一位（木田商店杯）ロサンゼルス・横見美佐子、二位（峯岸不二夫杯）日本「川柳あさか」・玉木柳子、三位（タコマ吟社杯）ロサンゼルス・望月悟朗、四位（伊藤一男杯）サクラメント・田中繁、五位（オリンピア牡蠣社杯）タコマ・安保由紀子、六位（タコマ吟社賞）サクラメント・渡辺多朗、七位（同）ロサンゼルス・森脇幽香里、八位（同）リードリ・北岡弥寿、九位（同）タコマ・吉村美和、十位（同）ポートランド・遍照寺幽香、十一位（同）タコマ・平冬子、十二位キャストロバレー・橋本紅柳、十三位ロサンゼルス・松本美甫、十四位カルバシティ・藤広松於、十五位タコマ・福岡千鶴子、十六位サクラメント・戸田みのる、十七位タコマ・谷口みどり、十八位シアトル・粹華智恵子、十九位タコマ・佐藤江陽、二十位シカゴ・野尻南海の各氏の順となつた。

プラジルからも応募作品

ブラジルからただ一人応募の上野明星は残念ながら上位入賞できなかつた。披講された受賞者の代表的川柳は次の通りである。

半時を待つ間も母の水の音	横見美佐子
動搖を隠す煙草の輪がゆれる	玉木 柳子
振り子まだ動き明治の時刻む	望月 悟朗
きまぐれの賭へ自戒の鈴が鳴る	田中 繁
おかげばのペンが開いた鉄の門	安保由紀子
核兵器よ聴け被爆者の血の叫び	渡辺 多朗
立ち聞きの後殊更音をたて	森脇幽香里
「男です」笑顔集る呱々の声	北岡 弥寿
人情にあれかたくなゝ影動き	吉村 美和
抜き足で追つても蝶に先越され	遍照寺幽香
客で来て母さんぢつとしておれず	平 冬子
子供から子供にされて父老いる	橋本 紅柳



『タコマ川柳吟社の柳人たち』(左から3人目が佐藤江陽師)

ためらいもなく動いている自動ドア

天皇の声は日本に平和呼び

水溜り子供の好きな帰り道

青い鳥見付けるまでの在米史

掛け声が揃うと動く庭の石

ハンサムの夫に子供つけて出し

足音もなく勤労の父帰る

波の音だけを残して島が暮れ

花嫁柳人も上位入選

特筆されたのは、以上の二十位以内に地元川柳吟社から、吉村美和、平冬子、福岡千鶴子、粹華智恵子の四人が入ったことだろう。何れも夫君は元アメリカ軍人である。そこで、これらの四女史をふくめ六人のかつての『戦争花嫁』に「戦争花嫁」のテーマで改めて川柳をつくっていただいた。(順不同、カッコ内は出身地)

(東京) 吉村 美和

ウォーブライドと云う代名詞背負され
運命に結ばれ海を越えた愛
海越えた野薔薇立派に根をおろし
デモクラシーの中に差別も居住する
振り向けば懐し過去の日の起伏
目をとじてじっくり憩う日本風呂
心から安らぐ故郷の灯にとける

(長野) 平 冬子

松本 美甫

藤広 松於

福岡千鶴子

戸田みのる

谷口みどり

粹華智恵子

佐藤 江陽

野尻 南海

世帯苦も平氣たしかな愛を持ち

食べ残す罪を意識の戦中派

戦傷が夫にきびし冬にする

(群馬) 福岡千鶴子

夕焼けの赤さに思うくにの事
どんどん焼き匂いまでする夢だった
古里は何處にも行かず待ってくれ
海こえて私に会いに父が来る
帰省して昔遊びし大いちょう
幼き日遊んだ寺に父母眠る
墓参する細道までも懐しき

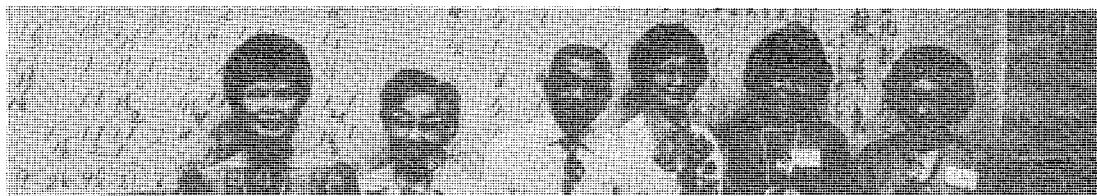
(東京) 三上 静子

あたたかい出会いもあった戦火の日
メロディが忘れさせないあの出合
爆弾の音忘れかけた平和な日
浜に来て向う岸の里想う
古里と同じ景色の浜に立ち
暖かい温泉なつかし凍る夜
母に似た何時もやさしい老婦人

(長野) 粹華智恵子

国越えた愛の実りの共白髪
移民史の貞は差別に耐えた声
離れ来た故国帰化して未だ思い
嫁ぎ来た異国田舎で摘むトマト
怒つてゐるらしい日本語皆黙り
三味線の慰問故郷偲ばす音で弾き
躊躇して転んで人生智恵がつき

据えかねる言葉明治へさからえず
うつかりの口から言葉という刃物
西爪割り世界のどこかは飢えている
アイディアも封建の壁寄せつけず



(山形) 梅津 和子

見つめたまま、笑顔で言つた。

日本語で祝うたセチ料理

日本語を忘れ英語が飛んで出る

日の丸のお握り好きな孫三世

故郷まで続いた空に話しかけ

久方に白髪の夫と里帰り

じっくりと囁んで楽しむ故郷の味

デデッパー昔のままで鳴いてけれ

これらの句には、彼女たちが異郷で生き抜いてきた逞しい足跡と、そこはかとない望郷の想いがこめられている。というのは、今日でこそ明るく笑って過ぎ去った日々を語る戦後派一世だが、各自それぞれに言うに言えない苦しさを味わってきた。平冬子の「据えかね——」と「アイディア——」の句は明治生まれの先住一世とのジェネレーションギャップを詠んだ。三上静子の「あたたかい——」と「メロディ——」の句は、夫君との出合いか。粹華智恵子の「国越えた——」もまた夫君との日々の回想を盛った一句である。それまで戦前派の一世や二世からさえ「あれは戦争花嫁さ」などと軽んじられ、うとまれたこともあった彼女たちは、子供たちを大学に入れ、医者、経理士などプロフェショナルと呼ばれる社会的ステータスの高い職業につかせたことを誇りに私の子供を見てもらいますと胸を張つて言つた。彼女たちと向いあつて語つてみると、日本にいる日本の女にない土性骨みたいなものがひしひしと伝わってくる。たしかに一部の花嫁は、信じ切つた夫のアメリカ人がロクデナシの酒飲みで、日本以上にシュワツメや小ジユウトにいびられ、ぼろぼろになつたものもいたが、彼女たちの多くは様々なショックや障碍を乗り越えて生きて、生きた。

ある日、花嫁（横浜市出身）の一人が運転する車の助手席に同乗してフリーウェーをとばしていた時、淡雪の様な彼女の髪をふと見て、戦争花嫁も老いたなあと思う反面、白いびんのはつれの横顔に、豪雪や酷寒に耐えて生きぬいた東北女のしたたかさを読み取つた。石臼のごと構えた女のそれである。私が思わず「日本の女って、こんなに強かつたかな」と呟くと、彼女は、私をふりむきもせず、ハンドルを握つて前方を

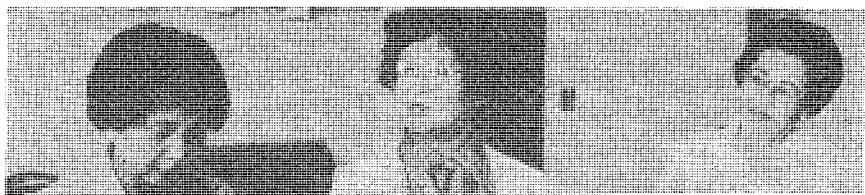
見つめたまま、笑顔で言つた。

「強くなければ、アメリカで生きられません」
私は肯くだけだった。日本にいたら、何かにつまずいたり、困れば「農耕社会」の常として周辺から助けの手が伸びる。アメリカに渡つたばかりの花嫁たちは、それがなかつた。一人、異郷の地で生きるには、かなり強毅な精神力と体力を要求される。私は大西洋を越えてきた初期開拓時代のヨーロッパ女性の逞しさを連想した。それとも、ヨーロッパから来た女は、自然の厳しい条件はあったものの、言葉の通じあう、同じ習慣を身につけた同種同族の中での生活である。右に向いても左を見ても、何も通じない異国での日常は、さぞや心労の連続であったに違いない。百キロ前後のスピードでフリーウェーをひた走るこの日本女性には、なよなよと、男にしなだれかかって生きようなどという様子は全く見られなかつた。男社会の日本で日常のこととしては、女の逞しさ、したたかさを見ることは少ないが、異質文化の中に投げ出された日本の『一人女』は、生きるために、わが子のために野性的に起ち上がつたに違いないとさえ思った。

それでいて、他方では「故郷の灯」「夕焼けの赤さ」「故郷まで続いた空」「暖かい温泉」「三味線」に郷愁を抱きながら異郷で暮らして詠い続けている。ことに、故郷忘れ得じと詠んだ句のうち、私は千鶴子の「どんと焼き匂いまでする夢だった」と和子の「デデッパー昔のままで鳴いてけれ」に魅かれた。デデッパーは野鳩である。初めの句は「鳴いてくれ」だったが、私は「和子の故郷、山形では鳴いてけれ、ではないのか」と注文をつけ、和子たちの師である佐藤江陽が「くれよりは、けれがいい。山形弁を生かそう」と判定を下した一句である。

アメリカ川柳発生の地

タコマ川柳吟社の歴史は戦後のものであるが、全米各地の日系社会で短歌、俳句とともに栄える川柳活動のそもそもは、タコマと同じワシントン州の東部にあるヤキマが発生である。「北米川柳吟社」のリーダー小冢野道風（どうふう）が一九八〇年（昭和五十五年）九月二十二日、急死する直前、私に書き残した遺稿によると、アメリカ川柳が産声をあ



(左から) 平冬子、粹華
智恵子、梅津和子さん

げたのは一九一〇年(明治四十三年)である。ヤキマは日本人移民が「焼馬」の死字を使つた位に夏には華氏一〇〇度を超す内陸部である。インディアンと米国正規軍との古戦場のあるヤキマに、最初日本人が入ったのは一八九一年(明治二十四年)で、パイオニア第一号は、石川君太郎夫妻(神奈川県出身)であった。その後、次第に日本人移民がふえ、一九一〇年(明治四十三年)に「蛙鳴会」という川柳吟社が生まれた。主唱者は華芳の柳号をもつ本多新太郎(静岡県出身)で、黒川剣突、上野鈍突、片井星子、大村酒落才、鞍立圭三、浅井北米、岡部閑人、佐々木通人、上田晋吉、三宅茶目坊ら十数人であった。本多華芳は、一九四二年(昭和十七年)九月三日、ワイオミング州ハート・マウンテン収容所で死去するが、死の直前まで川柳活動を続けた。華芳の残した次の句は句碑としてシアトル市のキャピタル・ヒル墓地にある。

生きてよし死ねばさばく世話はなし

戦後もこの伝統をうけて、西北部に「北米川柳吟社」と「タコマ川柳吟社」が生まれ、盛んな川柳活動が続けられている。日系社会が一世から二世、三世と世代がかわると、日本語を使う日系人が次第に数少なくなる。日本の詩歌の後継者不足から、何れは詩歌の集いも消滅の運命に、とみられていたが、戦後派の移民であるウォーライドらの国际結婚組が、詩壇の担い手として新しく登場、月一回の川柳会を開催している。

さらに、シアトルには川柳吟社のほかに「シアトル短歌会」があり、ここにも国際結婚のワグナーミキ、ウイルソン智恵子らが戦前派一世とともに作歌活動を続けている。

春着の尻つきぎわの膝に在り
同胞の稀の集ひや屠蘇を酌む
郷愁や幼きころの羽子の音
春着きてスラリと母の丈を越し
餌足りて鳴く声はがらか初雀

ブランザーズ恒子
モントゴメリーア和恵
ペリー光子
エリックソン清美
キング智恵

同じ西北部のオレゴン州ポートランドにも、俳句の「フード吟社」があり、ジェニングス藍子、エドワーズ清子らが参加している。同市には川柳グループの「バラ吟社」もあり、ここでもアメリカ人と結婚した花嫁が川柳文化活動に参加している。

今日生きた喜び埋める日記帳

スタッフ芳江

同

強がりの切れ目で女は泣いている

ベルンガーヤ子

同

難難のさ中友寄る有難さ

ありし日を懐ぶ面影町で逢い

バトラーしげ子

こうした花嫁参加は、ホノルル、ロサンゼルス、サンフランシスコでも盛んで、日本語、日本的な感覚を通しての一種の母国回帰を始めたといえるだろう。

川柳句会の日本文化

五月七日、土曜日。川部ハウス(注)日系の福祉アパート)で行われた北米川柳吟社とタコマ川柳吟社の懇親会は大成功であった。田城藤枝さんははじめシアトルの柳人の皆様の協力もあって、細かな心づかいで組まれたプログラムが進められた。あいにくのお天気だったが、会場の窓から見える紅葉に当たった雨粒や風にゆきぶられるバラの薔薇が風情を呼んで、この日の懇親会は美事であった。

誰が飾つたのか、テーブルに三本のカキツバタの深緑、参加者の粹華智恵子さんが胸につけたオーキッドのエレガントな美しさ、小皿に盛つた苺の赤さ。向う側のテーブルには、皆様が持ち寄った日本の味——ワラビと松茸の三杯酢から、カニのむき身、手造りのカマボコまで。最初は互選で題が「何ともかも」を二句。句箋に番号をつけた句をテープルにならべ、皆なで十句ずつ選び高点者が勝ちとなる。さわやかな夏

一人よがりの運動と批判

この記事は加州サンフランシスコ近くのモントレー市に住むキリスト教宣教師でモントレーYWCA日本社会文化プロジェクト(JSCP)の主事、小島節美さんの呼びかけから始まった。小島さんは朝日新聞(昭和58年7月28日付)の「論壇」欄に「悲しき戦争花嫁の老後」の一文を投稿して母国日本に呼びかけた。それによるとかつて米兵と結婚して渡米した日本婦人は「高齢化とともに深刻な問題に突き当っている」として、行き倒れ状態で保護された花嫁、疲れ果て精神病院で治療を受けている花嫁の例を引き、「これら同胞のために、また、日米友好の皆様のご協力をお願いいたく存じます」と物心両面の援助を訴えた。小島さんの一文は激励や救援金となって反響を呼んだのは本詳既報の通りである。ところが、モントレー半島のデル・レー・オーランズに住む戦争花嫁、フリップ敏代さんから、小島さんの一文に対する批判の手紙が本誌宛に送られてきた。

生活に疲れはてた婦人達に物心両面の助
けが必要です云々。この様に掲載されま
すと、真に戦争花嫁のイメージに大きな
傷をつけることになります。その上、日
本に住む親族にいらない心配をかけてし
まいました。ほんどの戦争花嫁は、ど
んなに苦しくても、つらいことがあって
も遠く離れている日本の家族には心配を
かけたくない一生懸命頑張ってきました
。朝日新聞の投稿は、戦争花嫁の現状
を知らないで書かれたものです。三十年
前もの一婦人の体験を現状のように扱っ
たり、自分一人で日本社会文化プロジェ
クト企画（ボード・メンバーの方達は
全員下りてしましました）したり、募金
が集まらないで難民センターまでいっ
て断られ、さらに日本に手をのばして募
金した。その尊い募金は一体何に使われ
るのでしょうか。自分の名誉のため、自
分の生活費のための募金は、お金を送っ
て下さる方をあまりにも欺いた行為では
ないでしょうか。

ただかなくとも、米国の福祉制度が見て貢献しております。婦人たちのほとんどが立派の人々は、戦前の教育を受け、修身をして育ちました。戦時中は学徒動員でお国のために尽し、戦火をこうむった、強く立派な大和撫子です。だからこそどの様な苦労にも打ち勝つことができた。

子供たちの巣立つていったあと、大学に復学される方、趣味を生かされる方、またご主人と二人で旅行なさる方など、皆様幸せな日々を送つておられます。

フイリップ敏代さんの手紙では、小島節美さんの一文は事実を伝えていない。しかも、集めた資金は、小島さんの生活費に当てられているのではないか――という主張である。この種の社会福祉運動には、当然、運動を開催する人にとって生活費が必要であり、ある意味では、このカバーも重要な前提条件となるが、フイリップ敏代さんの抗議文は、モントレー地域に住む戦争花嫁たちの社会で重大な何かが起つたことを示唆している。ほどなく、本誌編集部では、小島節美さんが、朝日新聞や関係方面へ出した。次の「訂正文」のコピーを入手した。

「悲しき戦争花嫁の老後」の記事に対する訂正と説明（原文のまま）

今年の七月二十八日に掲載されました
記事が社会奉仕の働きのごく一部が強調
され、全体を含む様な印象を与えてしま
いました為に、当地の婦人たちの感情を
大変害することになり、特に心配なさつ
た日本の家族の皆様には誠に申説けなく
思い、重々お詫び申上げます。
見出しの「悲しき戦争花嫁の老後」は
「アメリカにあって生きるたくましき婦
人達」と言い換えるのです。社会奉仕
分野で上げた婦人たちの例は歴史的背景
として二十数年前の出来事を申しの
べましたが、「日本社会文化プロジェクト」
ト」が、約二年前、モントレー郡の社会
奉仕地方事務所よりの連絡で、婦人たち
にお会いし、社会奉仕員の通訳をして、
共にお手伝いさせて頂いた方々です。現
在、お二人は幸わせに暮らしておられま
す。

長年にわたる誠心誠意のご努力の結
果、立派な成果を上げて、幸福な生活を
営んでおられます。多數のご婦人達はグ
ループ、教会活動を通じて、米人と親し
くお交わりし、市の特別行事や催しに参
加され、楽しみ、かつ日米親善に貢献さ
れております。特に国際結婚された老後
の生活は保障され、アメリカの社会施
設を十分に活用できる様に成っておりま
す。

モントレー半島の婦人達は色々の面で
恵まれ、幸わせに暮らしております。ご
安心下さい。

戦争花嫁モントレー



いわゆる『戦争花嫁』を特集した本誌第14号に様々な反応があつた。なかでも、特集『戦争花嫁の昭和史自分史生活史』その③「戦争花嫁に救援の手を」については、意外な波紋がひろがつた。(写真は事情を語る鶴山和子さん)

尚「年額一千円近い資金」と書いてありました。が、これは二四〇円の間違いでありますので、訂正させて頂きます。「日本社会文化プロジェクト」の涉外活動は日米間の理解を深めるための尊い働きをしており、特に文化活動は地域社会の多数の皆様からの応援を頂き、アメリカ社会の人々から大変好評を頂いております。プロジェクトの活動プログラム及び公的業務所からの連絡のために、ご本拠となる事務所を維持するために、ご寄附をお願いした次第です。

何分、記事が説明不足で皆様に誤解を与えたことを衷心より残念に思い、お詫びを申し上げます。

一九八三年十一月三十日 小島節美

つまり小島さんは朝日の「論壇」に自分の原稿がのったあと、わずか三ヶ月と少しかたたないのにこの「訂正と訳明」を各方面へ配布したわけだ。この文書を読む限り、小島さんは朝日紙への投稿記事をほとんど全面的に撤回したことになる。それにしても当の朝日紙には、この「訂正文」はのらなかった。本誌編集部では、事情が許すなら、直接モントレーへ調査取材をするか、サンフランシ

スコの「北米毎日」か「日米時事」に事実関係の調査を要請することを検討していた。そのうちに、去就が注目される当の小島節美さんから、本誌あてに一九八四年二月二十一日付の手紙が来た。それによると「私はウソを言ったのではないか」とあった。

まませんが、何分表現方法がまづかったのです。日本婦人は色々苦労してきているので、哀れに思われたくないのです。この怒った婦人達を静めるために訂正と説明文を書いて配りましたが、何の効果もなかつた様です」とあった。

何が起こつたのか

やはり、モントレーの戦争花嫁のコミュニティで、事件ともいっていい何かが起こったようだ。この問題は北カリリフォルニア州の一地方で起こった、ささいな事件ではない。戦後、アメリカ人と結婚して海を渡った日本女性は八万人から十万人といわれている。彼女らはほとんどアメリカ国籍を取得した戦後派の「移民花嫁」である。第二次世界大戦で太平洋沿岸から奥地に立ち退いた移民およびその子孫は十一万人と少しである。この数と「アメリカ花嫁」の数とはそ

違わない。見方によると、これは民族の大移動といえる。

よき妻として異人種の夫とともに、子供を育て、ようやく一息ついた彼女たちに、様々な意味で「母国回帰」が始まっている。衣食住の生活文化から、短歌、俳句、川柳の詩歌活動、日舞、琴、三味線、長唄、小唄、生け花、茶道、書道など彼女たちがアメリカ社会に独自でくりひろげている文化活動は、日米の国際交流に大きな役割を果たしている。

にもかかわらず、国際文化交流は、彼女たちの頭ごしで行われている。移民の歴史から見ると、数的にも記録的な移動であったが、官民を問わず日本サイドは全く傍観ないしは無視してきた。この間にあって、小島節美という宣教師が何かの理想をもって、戦争花嫁の文化活動をやろうとした。運動の主旨は立派であったらうが、運営に問題を残したのではなかつたらうか。

小島さんの運動に日本側にあって協力を続けていた篤志家、鶴山和子さん(東京都文京区千石)は、一九八三年十一月に渡来、モントレーを中心にして、こうした問題を調査して帰国したので実情を聞いた。

真相を聞く

——本誌の「戦争花嫁に救援の手を」について、モントレー市の戦争花嫁から

小島節美さんをきびしく批判するお手紙をいただいた。また、当の小島さんからは、朝日の投稿は、小島さんの原文に、二、三の人が手を入れた結果、戦争花嫁は悲しいとか疲れ果てたという言葉があり、怒りを買った、というお手紙が来た。本当のところはどうなのでしょう。「小島さんの投稿は、朝日の論壇担当記者が字句とか文脈に多少の手を加えたかも知れませんが、掲載されたのは、小島さんの原文とほとんど変わりません。実は私は、投稿が花嫁と在日本の肉親に影響を与えてはと思い、別の角度で原稿を書き、小島さんの原稿と一緒に朝日新聞に出したのですが、採用されたのは小島さんの原稿でした。小島さんは一九八一年秋以来、私宛に送ってきた手紙、JSCPのニュース・レターで小島さんを信頼して日本側で協力してきました」

そこで、鶴山さんは、この間、モントレーへ出むいて実情を調査してこれらたのですが、小島さんはどういう立場で小島さんを支援、協力されたのか。「かねがね海外の日系の方々に深い関心をもつて、クリスチヤン仲間五人と東京で有力出版社の協力をえて海外の日系人に書籍を送る運動をしました。もう一年半前になりますが、この書籍の一部がモントレー方面にも届けられ、小島さんを知ったのです。一九八三年四月に、小島さんが日本に来られたので、私も協力し

——そうすると、小島さんと共に各方面に働きかけたのですか。

「はい、ある財団にお願して小島さんの帰国後、五千ドルの援助を受けました。

東京のY.M.C.Aにお願して一般募金の窓口になっていたときました」

——小島さんが宣教師という聖職にある方なので、全面的に信用なさって、協力したのですね。

「そうです。多数の米国人が日系の花嫁を援助しているのに、私たち日本人が知らん顔は出来ないと思いました」

——ところが実地調査をしてみると。

「え、昨年の十一月十七日、モントレーに着いて、小島さんに三泊しました。連日、方々で、小島さんの投稿をめぐって集会があり、現地の戦争花嫁の現状が、小島さんの投稿とはかなり違っていることが判ったのです。私は小島さん方に宿泊してはいけないと思い、そこを出まして、さらに四泊して戦争花嫁に会つたりして実情を伺いました。それによると、あわれな戦争花嫁というのは、もう二十年も三十年前の話で、いまは苦難を乗りこえて立派に子育ても終り、良き市民として生活していることが判りました」

——そうすると、すでに過去のものとなつた事実を現状であるかの様に訴えて、朝日紙その他を通じて救済の手を求めてことになるが……。

「そう言われても仕方がありません。現

地でもベトナムの難民センターにまで補助を求めて『日本人は難民か?』と言わされたそうです」

——本誌で入手した別の資料では小島さ

んは、日本の自動車メーカーに、戦争花嫁救済のため走るまわるのに必要だからといって乗用車の寄付を要請していました。社会福祉運動にはかなり費用がかかるので、それをどこかに求めようとするのは判るけれど、戦争花嫁のあわれさを訴えて救援を求めたところに問題が残りますね。

「そうなんです。それでモントレーの花嫁たちの思いが爆発したのです。それ以前にも、小島さんの運営の仕方に疑問があり、何か歎然としないもやもやしたものが判ったのです」

——と、言いますと。

「例えば、文化交流と称して入場料一人十ドルもとて日本舞踊のショーを公演する。出演を依頼した地元の仏教会などからボランティアで踊り手が出演してくれますが、この収支が不明朗だといふことがあります。演出を依頼した地元の仏教会など

——オレゴン州ポートランドに、いまはもう消えたかも知れませんが、日米交流のプロダクションがあつた。映像を通じて日米の交流をというのですが、実体がさせておきながら、会計がはつきりしない。これでは、私たちは一方的に利用されている、という批判がくすぶつていたところに、朝日の記事が出たので、日本側に、戦争花嫁であわれみを乞うた、として問題が表面化したものなのです」

——細かいことですが、運動を推進する

場合、この辺のところをキチンとしておかなければ、正しいことをしても、あとで言われますね。その後、また小島さんから手紙がきまして会計にやましいところはない、としてカリフォルニア・ファースト銀行の預金通帳のコピーを送つてきました。事実はどうなのか、この段階では、小島さんの言を信じるしかありませんが、小島さんは一人でやっているのか

ですか。

「ピアソン夫人というアメリカ人がいたて、この方とともに運営していましたが、事実上、小島さん一人の運営といつていいでしょう。催しものをするとき花嫁たちや地元の米国人にも呼びかけのボランティア活動に頼っていますが、J.S.C.P.といつても一時、Y.M.C.A.の組織につながつていただけで、それも切れていましたから、小島さんたつた一人の運営といつても差支しない位のもので、組織だけ

——オレゴン州ポートランドに、いまはもう消えたかも知れませんが、日米交流のプロダクションがあつた。映像を通じて日米の交流をというのですが、実体が

——当然、数多い花嫁の中で、こんどの小島さんの行動に反対する人たちと、そ

うでない人もいると思いますが。

——私が七日間、モントレー地区に滞在し

て知った結果では、彼女たちは三つのグ

ループに分れていました。私がお会いし

たところでは、小島さんの行動に反対す

る方が二十三、四人。小島さんを支持す

る方が二人、その他は無関心派であると

のことでした。彼女たちの家庭は、例え

ばブライツップ敏代さんは、ご主人が退役

後、加州は日本の友人も多勢いて、日本

食も自由に入手できるからと、妻のこと

を思いモントレーに落ち着きました。リ

ーダー格のベニック浩子さんも幸わせそ

うで、アンドリュー順さんなんかも、病

気になつた時、献身的な夫の看病に感謝しておりました」

——朝日新聞の「論壇」担当のF記者に

電話で聞いたところでは、小島原稿に対する反論の投書があつたそうです。F記者として、この「論壇」で甲論乙駁の論争をと期待していたようですが、小島原稿への反対投稿は、記者によると「女の感情が先走っていて、議論にならない内容だったので採用しかねた」と言つていただきました。記者は私（伊藤）に「これには女の感情が入り混っているから、あなたも介入しない方が賢明ですよ」と言われました。（笑）もちろん、当方としてお節介をするつもりは全くありませんが、戦争花嫁への日本側の対応は大きな「内なる国際問題」だと思ひますので改めて考えてみたいわけです。

「私も、東京において小島節美さんにお手伝いしたのは純粹に、戦争花嫁問題は日本側として無視してはいけないと思ったからです。彼女たちは、親（きょうだい）が日本にいる間は、日本とつながつていますが、この血縁関係が切れるとき、日本とは無縁の存在になります。言ってみれば、戦争が生んだ国際的棄て子ではないかと思ひます。一体これでいいんじょうか。しかも現在は、それぞれの立場で日米の友好交流に尽しています。全ては自力の奉仕活動です。ご自分たちはアメリカ人の奥さんですから、この方々の奉仕活動に何かご協力してあげたい、といふ願いでいっぱいです」

——それは全く同感です。一九八三年五月の第二十四回海外日系人大会の代表者

会議で、要望事項を各国の日系人代表がとりまとめました。五項目にわたる要望事項の中で一番目にあげたのは「移住の振興と新しい海外日系社会への対応策について要請する」とあります。この中で「二世以降、あるいは国際結婚によって海外へ居を移した日本人一世を単に国籍が外国だからといって、非日系人と同列に置き、いわゆる『ガイジン』扱いすることは、日系人社会の現状と将来から考へて、きわめて当を得ないものである」と明記しております。そうして、これらの人系人を中継とする国際交流をと要望しています。亀山さんの様な篤志家がもつと数多く出て、日本側の国際的なパワーを強めていただきたいのです。ある意味では小島節美さんも、フリップ敏代さんも有力な友軍だと思います。

「そう期待されても、私の力には限界があり、何もかもは出来ませんが、かつて一部から蔑まれたという戦争花嫁方は、私がお会した限り、愛と理性と節度のある素晴らしい方達です。日本側こそ、もっと暖かく接する必要があると思います」

*

生活のなかの旅を大切に

明治38年創業以来、信用とサービスであらゆる旅のニーズにお応えしています。



日本旅行
NIPPON TRAVEL AGENCY co.,ltd.

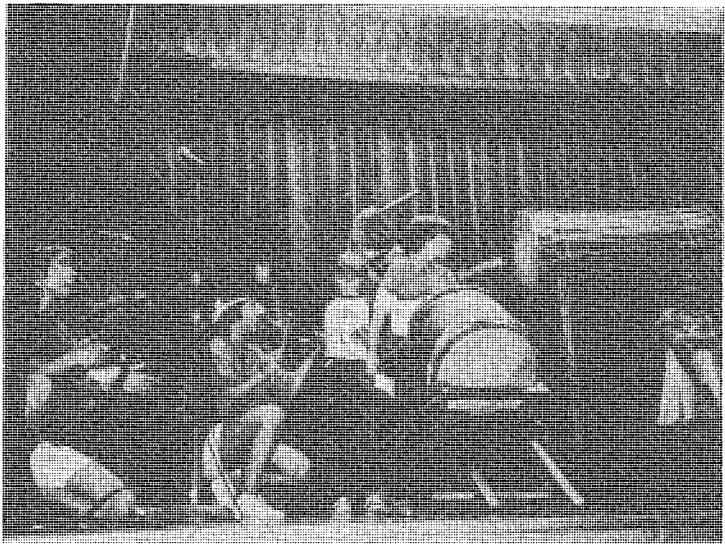
運輸大臣登録一般旅行業第2号

日本の旅、世界の旅。
ご相談・お問合せは…

N.T.A. PACIFIC, Inc.,
 ●HONOLULU……808(922)2781
 ●LOS ANGELES 213(627)2820
 ●SAN FRANCISCO 415(543)3073
 ●NEW YORK……212(986)7393

赤坂海外旅行・団体旅行センター
 〒107 東京都港区赤坂1-6-19 勝永ビル
 ☎ 03-586-4631(代)

もつと国際交流にお金を



「日本週間」を盛り上げたテンバー太鼓グループの熱演。最後にアメリカの子供たちにも手ほどき

スなど東海岸、西海岸の日本人のたくさんいる大都會で多く行われてきたが、一九八二年の在米公館長會議で、「地方でも日本のPRをしようと」決めて実現したものである。

ムは、毎晩行われた日本映画、貿易セミナー、プレス・シンポジウム、ティーチャース、ワーカーショップ、会期中ずっと展示された「現代の日本生活」写真展などである。十一月七日、「マリオット

ロッキー山脈の東側にあるコロラド州デンバーで「ジャパン・ウィーク」が開催されたのは昨年十一月七日から一週間である。これはサンフランシスコ総領事館の主催で、貿易や防衛問題など日米間の摩擦がとやかく言われているおりから日本への理解をもっと深めてもらおうと、いう目的で行われたものだ。この種の催しは今まで、ニューヨーク、サンフラン

・ホテル」でサンフランシスコ総領事の西山健彦夫婦が出席して、オープニング・セッションが開催された。この日の招待客はデンバー市長のフェデリコ・ペニヤ氏をはじめ、日頃、日本と交流のある米国人グループ、コロラド大学、デンバー大学など大学関係者、日本企業懇話会メンバー、日系団体代表者など約百八十人であった。ペニヤ市長はスピーチの

日本人も米国人もそうかけ離れた暮らしをしているのではないことを知らせる。とだ。日頃からそう思っていたので、この写真展の写真の選び方はよかつたと思う。どれだけの人がこの写真展をみたかについては見当がつかないが……。

フィルムシリーズの方は、デンバー・センター。シネマを会場にかりて毎晩上映された。総領事館インフォアメーション

生活を伝える普通の家庭の食事風景や、通勤電車、オフィスの様子といったものや、新幹線の車両工場など日本の技術、まさに現代日本をとらえた写真であったことはよいことだった。日本紹介というと歌舞伎や能、浮世絵、ということにならがちだが、それらのものは現代の日本人にとっても遠い存在だ。日米相互理解は、いま生きている米国人、日本人を知り、その社会を知ることに意義があり、

中で、この日本週間を「デンバー市民のための日本を知る週間」と公式に宣言し、日本側の熱意に応えてくれた。

ノン・サービスで貸し出し用に持っている
フィルムのほかに日本から今回送られて
きたものもあり、日本人だからアメリカ人
人だからということに関係なく、どれも
すばらしいフィルムであった。たとえば
手塚治の作品「火の鳥」や子供用の日本
民話のアニメーション、動物好きの人な
ら誰もがみたくなるような「北きつね物語」
など。その他、テーマを決めて、短
篇を六、七本まとめて上映する日もある
といふように多彩なプログラムであった
が、残念なことに一般への宣伝が遅れ
て、私もくわしいプログラムをのせたチ
ラシを手にしたのは、ジャパン・ウイー
クのはじまる三日前であった。

「対日貿易——障壁と可能性」と「日本的な人事管理——ソニーの場合」は、二百人近い自治体関係者や経済人が出席した。石炭、牛肉といった対日輸出品はある程度、外国とのビジネスにはうといコロラド人がどのように受けとめたか。私はこの経済セミナーに出席できなかつたが、日本週間を取材にきた朝日新聞ロスアンゼルス支局長・青木公氏の報告によれば、「日本側は『日本とつき合ふには、辛抱強さが必要』『たしかに障壁がある』ないわけではないが、米国産品をたくさん輸入している実事は知るべきだ」「米国流儀と違うから日本はおかしい、というのは納得できない。日本の違いをわかつた上で商売すれば成功する」と実例を挙げて述べた。

かけて下さい

〔デンバー〕

今田順子

ひいて説明、質疑がかわされた。アメリカ側からの質問は『対日投資をするにはどうすればよいか』『日本語を習った方がトクか』『米国にも日本の通産者のような政府機関がある方がよいか』『パーソナルコンピューターは日本では売れるか』『日本での取引はナイトライフ（夜の社用パーティ）が大切というが、どうすればよいか』など、初めて接する日本側の専門家に、素朴な疑問をぶつけた」ということである。質問の感じからでもわかるように、対日関心は今までのところ低く、最近、商社などのメンバー進出によつて、やつと目ざめつつあるといふところだ。

日米の官民が集中して活動しているワ

シントン、ニューヨーク、日本企業の進出が目ざましく日系社会も大きいカリフオルニア州など西海岸どちらがって、コロラド州は対日関心と理解という面ではまさにフロンティア時代である。

デンバー・プレス・クラブで行われたプレス・シンポジウムは、ジャーナリストと大学生、学校の先生などが出席者で講師はビル・細川氏（元デンバーポスト編集主幹）、河村欣二氏（フォーリンプレス専務理事）の二人で、コミニケーション・ギャップが主題となつた。河

村氏は元朝日新聞ワシントン総局長であ

り、細川氏も新聞社での実際の活躍が長かったただけに具体的な質疑が多くなつた。またデンバー大学とスタンフォード大学が共催した先生方の研究会では、出席者は主に小学校の先生であったが、テーマ別にくつかのクラスにわかれ、あるクラスではビデオを見ながら、別のクラスでは日本文化紹介の実演など、また何を通して日本に興味を持つかという話しあい等々、一日がかりのティーチャース・ワークショップであった。

日本への関心を呼びおこし、どう深め、理解させるかは、これら小、中学校の先生の手にかかる。こうした担当の手を育てるこそこそ、日本にとって必要なことではないだろうか。

それにはもっと人材交流をはかつて、



プレス・シンポジウム（左）
二日 河村欣二氏と細川氏

知識人であり、次代の米国の担い手を育てる先生たちに、日本ファンが増え、理解者になつてもらうことが大切ではなかろうか。

この「日本週間」は映画会、写真展、セミナー、シンポジウムのほか、地元の三世グループによる太鼓公演が加わり多彩なものであつた。メンバーに前後して、東部のメイン州バーモント、南部のジョージア州アトランタでも同じ催しがあった。ところをかえて三週間続けて日本政府主催でこのような米国民の草の根に接して、日本人の理解を深めてもらおうという催しを行なつたことは、今までにない画期的なことである。が、これで

本への関心をどう深め、継続していくか。それにはくりかえし、くりかえし草の根レベルの広報活動を続けていくことだろう。一朝一夕には何事もないかない。激しい対日非難が出てからそれを解消しようとしてもなかなかむずかしいことだ。

幸いコロラド州では海外のことについて、対日批判もそれほどきかれていなくて、対日活動もそれほどきかれていなくて、近復活しつつあるといわれるK.K.K.などの人種差別団体の活動や一部のはねつかえりを除けば、東部や太平洋岸に比べて、日米関係でいわば白紙に近い環境にある。

「日本週間」をきつかけに、今後も地道なPR活動を続けていくならば、必ず実り多いものになるにちがいない。主催の総領事館は限られた予算、遠く離れた本省との交渉、現地での準備など、大変であつたに違いない。日本は「インターデペンドント・カントリー」であるといふ。いわば世界なしにはひとりだらで生きない相互依存の国、というわけである。

日本の全世界に対する対外広報予算が、このコロラド州に進出している日本のカメラメーカーの一年分の宣伝費よりも少ないということを最近知り、貿易摩擦の矢面に立たざれる海外日系人としてはいささか心細い思いがする。

（いまだ・よりこ「ロッキー時報」主幹）

私の本名は日本名。国籍が日本。

配偶者はデンマーク系のアメリカ人である。アメリカでは極く珍しい姓のため、スペルを見ただけで正しく発音してくれる人が、まずいない。

ましてや、日本式に片仮名に置き変えようとなると「インボッショブル」の一言に尽きる。そんな理由もあり、処女作「東京ローズ」の出版のさいに、本名の日本名を使うつもりであった。時として非常にしんどい外国での暮しきを、せめて日本では忘れていたいという「隠れ蓑」的期待が意識の奥にあったはずでもある。

協の悔いは、自分の名前への、ノイローゼのように今も私に残っている。

まず、配偶者の名にミセスが付いてのアメリカでの暮しがある。それと似たようでは遠い日本でのペンネーム。常に自分の名前を意識している歳月とはなつ。

三年に一年は日本暮しという特殊な生活条件上、結局はすべてにどっちつかずの生活でもある。その点では「ドウス」という中途半端な名前は、私に打ってつけなのかも知れない。自分の生き方への反省を突きつけてくるという意味では、ごまかしの効がない名なのだから。名前の過度の意識は、私にとって、アイデー・ティティへの旅へ繋がる、といえるだろうか。いや忘なく自分が息をする空間を意識させられる。

でイメージが伴わないというのである。アメリカに住む立場があつてこそ書かれた作品ではないかと最後に迫ってきた。それも一理あるなあと描いでいる内に、決ったのが「ドウス」というカタカナ名である。

私にとって、サバイバル学なのかも知れぬが、いや应なく自分が息をする空間を意識せられる。

私の最近作「ブリエアの解放者たち」は第二次大戦中、ヨーロッパで参戦した日系兵士（第百一大隊及び第四四二連隊）たちの物語である。かつての兵士を訪ねる取材はアメリカ各地へ及んだ。「自分への旅」は、手持ちのアメリカ大陸地図へ縦横に赤鉛筆が走る大規模な旅とはなつた。

九

日本人移民がかつて入った土地で、まず團結を誓ったのが県人会であったといえる。それぞれの氣質をお互に言いつつたほどの対抗意識であった。

二世にかつての県人意識があるはずはない。しかしながら、それなりにローカル色濃厚なのが、取材で各地を回つてのおもしろさであった。大きく分ければ、ハワイの日系人と本土の日系人の違いがある。

お互に別種のアメリカ人を見ることが本からの移民を親を持つても、こんなに

コトングクはハワイ兵と違って何事にもイニシアチブがなく、先きを見透して物を考えない。常に自分の身のことだけ考えて、スケールが小さい。本土で数にもならない少数民族として強い排日に耐えてきたコトングクへの、ハワイ兵の反応であった。

サバイバル法がそれなりに違つたのだから、受け入れかねるところがあつて、当然のことである。しかし、ひとまとめにコトングクといつても、大陸のことであつた。コトングクはコトングクとして、かつローカル色があるのは、取材での実感として、無視出来ない一面であつた。

方や行動には隔たりがある。

ボストン、ニューヨーク、ワシントンで出逢ったかつての日系兵たちは、例え生れ育ったのがカリフォルニアだったといつても、今やそれなりにフォーマルで

二世の顔 様々なアメリカ

—取材の旅の思い出から—

のカリフォルニア日系人を田舎者と見る傾向さえある。北のサンフランシスコではロサンゼルスこそ野暮と反発する。サリナス、フレズノ等の農作地の日系人は自分たちを田舎者と卑下するところ、なきに非ずだ。

「コトングはマニニさ」

現在でもハワイ兵が口にする本土兵評である。マニニとはハワイの海でとれる

た日系人は東京人を思わせる気忙しさと、テンションを感じられた。

それに比べてピッグ・アイランドと呼ばれるハワイ島は、かつての良きハワイを思わせる生活のテンポがまだ残っている。ホノルルからジェット機で四十分余り、「ヒロ市」の空港に着くとホッとするよ」、とはホノルル日系人の弁である。

コナの町は火を吹き続けるキラウェア。

あれは私道なのだろうか。舗装されていないでこぼこの脇道を長々とたどって行き着く一軒家が、クキタさんの住いであって、出入口を兼ねている裏のボーチに出て初めて、かなりの高台であることに気付く。

一メートルもない灌木が一面に広がる向うに、青々とひかえる太平洋。目の奥まで染まるような緑と青の空間である。

クキタさんも親のコーヒー烟を手伝つた
ものだといふ。

ソフィステケートな東部人の体質を感じさせた。アイダホ州で農場を営む日系人には素朴な農夫のにおいと同時に中部アメリカ人の排他性ともいえる保守さがある。

テキサスもメキシコ国境に近い生れ故郷で、テンガロンハットをかぶつての郵便配達人となっていた元日系兵は、正に西部劇で見るテキサンの物腰と、「アメリカで一番大きい州」的思考を身につけていた。

魚である。口が妙に小さく、その口先きで餌を突きながら食べる。マニニとはケチという以上の意味の、強い蔑みのハワイ言葉なのだ。

限られた海岸沿いに過ぎない。中心街から十五分ほどもレンタカーを走らせただろうか。

潮風にさらされ色がすこかり変わった椅子に腰を下し、ゆっくり、クキタさくわ話をベースで話を聞く。そばのテーブルに広げて乾してあるタンマリンを、すすぐられるままに口にする。



ドウス昌代

(ノンフィクション作家)

火山をはさんで西へ、ヒロとは島の反対側に当る。結局、数年にわたった取材で、私にとって最も懊かしい土地となつたのが、このコナの町である。更に一昔

眼下の土地は他人の所有であり、いつかは観光業者の手に渡ることになろう。

この数年やつぎ早やに、本土からの資本による、ファンシーな観光ホテルがコナにも建てられている。だが、まだ極く

て素朴である。壯絶な戦場の話さえ、何やら日常事に聞える暖かみさえ感じさせ
る。

何回も聞きかえしての取材がたびたびであった。コナの日系人は、日本人である私にそのピジョンを使わなかった。皆そろって流暢な日本語で話した。移民が土着しだし明治末期から大正期、コナの人口の九割は日本人だったと聞く。クキタさんの同世代で、やはり志願兵だったM・ホリウチさんが語るところによると、小学校へ入るまで英語を使ったことがなかった。

家庭でも遊び仲間とも日本語だけで通じてきた。入学の日に、「スタンダード・アップ」と先生に言われて、何のことか全く分らなかつた。トイレに行きたいと先生に告げられなくて、泣きながら濡れていった仲間もいたという。だが、公立小学校へ通う以前から日本語学校の生徒であった。ABCは読めなくともすでに幾つかの漢字が書けた。因みに調べてみたら、コナに最初の日本人小学校が設立されたのは明治三十一年である。

タンマリンをしゃぶりながら、一瞬、明治、大正に引戻されるような、現在の日本人の言葉とはテンポや表現が多少違う日本語はある。フーッと酔つた思いに似た、暖かく丸みのある語感。

どこかの地方の訛のようで、今一つはつきりとは指定出来ない。

「ワシが兵隊いきよるのに、ママが泣くのじやけ、やりきれんのう」
語尾に絶え間なく、「け」「のう」「れ」又は「どう」がつく。何せ移民は広島県いのである」

と山口県を中心として入っている。各县人雑居ともいうべき集団で、当然、「数の征服」ともいふべき、広島、山口の方のなまりが混つて、いわばピジョン英語にも似て、ハワイ独特の日本語が二世を通して残つたといえそうだ。学校での標準語はそれほど身につくものではなかつたといえよう。

一世を日本へ留学させたいとした理由の一つは、しっかりした日本語を身につけさせることにあつた。ひいては正しき日本への理解をといふわけである。昭和十年にハワイ邦字新聞の記者が書いた「日系市民の日本留学事情」という本が出てゐる。今でいうところの日本留学へのハウ・ツウ物だが、日本留学の可否論でもあり当時の移民社会を知る上にも有意義な書となつてゐる。「一人の足を踏むと、仲の十人も『痛い』と叫び出すのが、日本人の特徴だといわれる」

知人の一人が子供を故国へ送ると、誰もがその気になりたがる、と冒頭から、現在に通じる日本人論としても面白い。

「第二世は第一世の粒々辛苦して開拓した地盤を完全に継承し、之を守り、其の発展を助長し、更に自らは大和民族の長所を受け継ぎ、日本文化の融合と、和

第一次大戦の後に、ハワイでは一世の人種好さも否定するがとき風潮が流れることがある。他のアメリカ人、いうならば白人にアメリカとして受け入れて欲しいばかりにいささか走り過ぎたともいえようか。

著者、山下草園はこれを「偏狭なる米化運動」と呼び、「癪に触つた時代」という。しかし、彼は感情に流されではない。

日本留学は悪いことではないが充分考慮を要するはずである。二世が教育の場を日本に求め、かつ親が行けというから行くのでは、と疑問符をつける。

「日系市民は純粹の日本人を親として生れ、血に於て日本人たることに間違いはないのであるが、併し彼等は生れながらにして既にアメリカの市民であり、権利を獲得し、保護を約され、日本国籍を離脱し、アメリカに生活し、将来其地に繁栄すべく運命付けられている者達である」

「それは恰も合法的に他人の所有に帰した庭石の如く、それが依然ととして庭石たことに間違ひはなくとも、それはや異った環境と約束の下に在るのであって、それと無視して同一の扱ひを其上に及ぼし、同一の義務をそれ等に要求することは、根本的に於ての合理であり、結果相互の繁榮幸福を來すものではない」

日本でなければ勉強出来ない特殊の学問とか目的があつての日本留学でなければ、結局将来においてマイナスである。完全なる日本教育を受けさせるとすれば、「優秀なる帝国臣民」を作りこそすれば、決して日系米国市民の養成にはつながらない。再び出生国アメリカへ帰つて、アメリカ市民として生活する時に「不便と矛盾」、出世出来るアメリカ人とはなるまいと指摘している。同じように明治末期からヒロ市郊外で、二世教育に力を尽した曾我部四郎という一世がいる。キリスト教の牧師であるが、彼もまた、当時の人に分かり易い独特的の比喩で二世論を開展している。曾我部は二世を悟空にたとえてその使命を説く。

「布珪生れの諸君が有して居る市民権こそ即ち勅計雲であり、諸君が自由自在に操つる處のイングリッシュ、ランゲージこそ即ちこの如意棒である」（もう三千字）

日本人側からは母國のため忠勤を勧めと強いられ、アメリカ側からは星条旗下の忠誠を疑われ、「未来では六道筋で迷ふといふ話もあるが」、ハワイ生れは氣の毒だ。だが、迷つてはならぬ、「米国市民となつた子孫は既に米国へ養子に行つた者である」。一たん養子にやつたからは実父が親権を振り回すのは不条理である。「若し日米にして開戦しなば」、二世の取るべき立場は明白とさえ述べて

日本でなければ勉強出来ない特殊の学問とか目的があつての日本留学でなければ、結局将来においてマイナスである。完全なる日本教育を受けさせるとすれば、「優秀なる帝国臣民」を作りこそすれば、決して日系米国市民の養成にはつながらない。再び出生国アメリカへ帰つて、アメリカ市民として生活する時に「不便と矛盾」、出世出来るアメリカ人とはなるまいと指摘している。同じように明治末期からヒロ市郊外で、二世教育に力を尽した曾我部四郎という一世がいる。キリスト教の牧師であるが、彼もまた、当時の人に分かり易い独特的の比喩で二世論を開展している。曾我部は二世を悟空にたとえてその使命を説く。

「布珪生れの諸君が有して居る市民権こそ即ち勅計雲であり、諸君が自由自在に操つる處のイングリッシュ、ランゲージこそ即ちこの如意棒である」（もう三千字）

日本人側からは母國のため忠勤を勧めと強いられ、アメリカ側からは星条旗下の忠誠を疑われ、「未来では六道筋で迷ふといふ話もあるが」、ハワイ生れは氣の毒だ。だが、迷つてはならぬ、「米国市民となつた子孫は既に米国へ養子に行つた者である」。一たん養子にやつたからは実父が親権を振り回すのは不条理である。「若し日米にして開戦しなば」、二世の取るべき立場は明白とさえ述べて

大正五年の筆である。現地で実体験をして思考した人々の先見の明とばかりもいえない。戦前の日本人からの声には例えれば次のこときが多い。

「第一世日本人と称する者も日米親善の、國際協調のと謂つて、この人々を利用することをやること。彼等を本国の為めにのみ利用したがるやうでは、民族的に大きくなれることはない」（評論家清沢）。

「米国にあって善良なる市民として、押しも押されもしない生活を嘗むやうに懸けて貰ひたい」と二世を激励したのは救世軍の山室軍平であった。

半世紀以上も前のこれら二世論に共通しているのは、「親は出稼ぎとしても、子の二世はアメリカ人」であるという一点だ。現在、日本では日系人ブームといわれるほど日系問題への関心が深い。それでいて、この明白すぎるほどの肝心要の一点が、何やら霞がかかったようにもやつくのは何故なのか。「祖国」とか「日本の血」等の言葉ばかりが空回りしている。

反動的な感情論でのみ日系問題を焦点を当てるのは、日米関係にとても危険といえるだけではない。日本での反応は一般アメリカ人を反射鏡として、日系人へと帰すのである。「日本人の血」のセンチメントで、確実に迷惑をこうむるの彼らだ。又しても忠誠心に疑問符がつくことなる。多民族社会からなるアメリ

力に暮す、この難しさを、まず理解しなくては空振りの日系論といえようか。

クキタさんは九人兄弟の長男である。

日本への留学など親の考慮ではなく、彼は考えもしなかったという。コナ高校を出て、すぐ志願した。

激地となつた北部フランス山中では常に間髪の差で無事だった。兵力を回復するために連隊が下つた南フランスで、イタリア国境沿いからたまたま威嚇的に撃ち込んで来た砲弾に重傷を負う。

「背中やられて、三ヶ月入院でのう」幸い後遺症はない。帰還後しばらく親のコーヒーライを手伝っていたが、相場の変動が激しく、いつの間にか大工に鞍替えしていた。

どうして志願したかと改めての質問に、クキタさんはむしろ不思議なという表情を見せた。

「アメリカ人じやけのう」

じく当り前のことを見かれた当惑がこの一語に十分こめられていた。

ドウス昌代さん略歴 II 一九三八年、北海道岩見沢市生まれ。早稲田大学卒。七年に「東京ロード」で第八回講談社出版文化賞（ノンフィクション部門）受賞。

「敗者の贈物—国策慰安婦をめぐる上級下秘史」「私が帰る二つの国」「かりふおつめた『蒼氓』の歳月（内山勝男氏）他

▽ハドキュメント「笠戸丸」異聞▽I・II（伊藤一男）▽笠戸丸移民その後（賀集九平）（124頁・残部僅少）

第四号（昭53年11月）

- ▽ハインタビューコー特集・ニッポン文化の伝承者▽日系白人が描く東洋文化の理解と未来（R・N・マッキンノン氏）/ 移民がはたす文化的役割を問う（宇野文平氏）
- ▽ハドキュメント「笠戸丸」異聞▽追悼の影に秘めた虫ヶラ地獄（伊藤一男）（96頁・品切れ）

季刊海外日系人 バツクナバ

創刊号（昭52年5月）

- ▽ハ特別寄稿▽海外日系人への認識を▽特別記事▽在外企業は何をなすべきか（村井孝夫）▽ハ座談会▽海外日系人と日本を語る▽日系マスコミ観察報告（伊藤一男）

第二号（昭52年10月）

- ▽ハ講演▽私の見たブラジル移住問題（田野信夫）
- ▽ハインタビューコー特集・北米灯を絶やす（田中喜子さん）/ 日本の漁業進出に日系の活用を（新村安正氏）
- ▽ハ座談会▽中南米留学生ニッポンを語る（84頁・残部僅少）

第三号（昭53年5月）

- ▽ハジル日本移民70年特集号
- ▽ハ記念インタビューコー新しい出発と發展のために（中澤源一郎氏）/ 新聞人が見つめた「蒼氓」の歳月（内山勝男氏）他

第六号（昭54年10月）

- ▽ハ20回海外日系人大会記念号
- ▽ハ特別企画▽浸透するステレオタイプ確立への問い合わせ/ ハ対談▽めりけんじゅぶの回想
- ▽ハ移民史研究ノート▽沖縄にある通信▽精力的な執筆活動を続け、一九八三年の「ブリエアの解放者たち」で第四十四回文春読者賞を受賞した。一男の母。現住所
- ▽ハドキュメント「笠戸丸」異聞▽I・II（伊藤一男）
- ▽ハペルー報告▽日秘友好元年の開幕にビバの歓呼（88頁・残部僅少）

（第七号以降は69頁に続く）

元臣道聯盟幹部
の手記〔ブラジル〕

「勝ち組事件」の真相

川畑三郎

暗殺テロ事件の真相

戦後、サンパウロで臣道聯盟が創立された当時、私は北パラナ州の一寒村で、児童を集めて日本語を教えるながら、病後の療養生活を送っていた。だからサンパウロ市内で起こった、いわゆる「勝ち組」運動については何も知らなかつた。後日、私が関与したのは事態收拾を依頼されたからである。

一般に臣聯（略称）即暗殺テロ団と見るむきがあつたが、それは結果論である。臣聯の創立主旨は、戦時中、日本で唱えられた臣道実践のブラジル版であつたと思う。もし臣聯が暗殺テロを目的としているなら、団体としてブラジル政府に公認申請をするため、首脳部をふくめ全役員の名簿を当局に提出する等の愚を為す筈がない。

暗殺テロ事件が続発したのは、いわゆる「敗け組」との対抗抗争の悪化の結果である。祖国日本の伝統批判、軍部への悪声罵倒、ついには皇室に不尊を及ぼすに至っては、もはや制圧、鎮撫の術なし

である。そもそも「勝ち組」運動は、日本人の心情としては、内部発火を起こしたものであつて、何時、何處の何、

ということを確かめ搜することは不可能ではないか。それは流行性感冒の犯人（？）を捜す様なものではないのか。臣聯が代表的な大組織を誇ったのは、地の利、人

の利、時流の利がもたらしたに過ぎない

と思う。

従つて他団体の合流や合体にあつたとしても、要するに同志獲得運動に止ま

り、具体的活動目標ではなく、日本人としての自覚という啓蒙運動が全般的に日本社会に遼原の火の如く燃え拡がつたもの

と思われる。

百七十七名収監の件

「狂信」（高木俊朗著）によると、「勝ち組」国外追放に関する記述の中で、「事件で同民族が一度に百七十七名も

の国外追放処分の重刑を出した事は、ブラジル法制史上最大の事件であると、裁判官を慨嘆させた」とある。然し著者は、その重刑が実施されたのか、どうな

ったのかに就いては何等の説明もして居ない。勿論、何も判らずに、知らずに書いているのであるから無理もない。

私は「勝ち組」に理解の深いリーマ・フィゲレード大佐より既に大統領の意向が伝えられて居り、又司法大臣に直々に事情を聞いてるので、只時機の来るのを待つていたのである。然し島に収監されている人々や、その家族は不安な日々を送つていたに違ひなかつた。それらの家族の中には、サンパウロ市の宿屋に泊り込み、情報を求めて歩いたりしてい

る。然しだね、国外追放といつても一人や二人の話じゃないんだよ。百七十何名といふ事は別室で秘書から聞いてもらいたい。司法それで、私も人が絶えなかつた。司法それで、私もついに当局に当つて、その意向を確かめ

て平田実君を同道して、サンパウロから首都のあるリオデジャネイロに赴いた。その事情を次に略記する。

強制送還不可能と司法相

「私は今一寸、急ぐ用事を控えているので、ゆっくり話している暇がない。精しい事は別室で秘書から聞いてもらいたい。然しだね、国外追放といつても一人や二人の話じゃないんだよ。百七十何名といふ事は別室で秘書から聞いてもらいたい。司法それで、私も人が絶えなかつた。司法それで、私もついに当局に当つて、その意向を確かめて平田実君を同道して、サンパウロから首都のあるリオデジャネイロに赴いた。その事情を次に略記する。



燃料と相当数の船員も必要だ。そんな無駄な錢を使うのを知つたら、今度は国民党が黙つて居ないだろ。第一、その百何十人かの日本人は、ブラジルに対して何の罪も犯した者じゃないんだ。それどころか、彼等は国家にとって大事な農業の貢献者たちなんだ。君たち、そんな事は心配しないで早く帰つて安心して待つ様に皆に伝えてくれ。一緒におくと君たちが対立し争うから、これ以上悪化させないため、一時隔離せざるを得なかつたわけだ。今、当局ではその法的処理の手続きをすすめているところだ。」

大体予想していた通りの話であつた。

それで感謝の意を表して退出し、別室で暫らく秘書官から話を聞いた。最後に彼は、苦笑いしながら次の様なことをつけ加えて言った。

「とにかく、この問題は法令外の大統領の胸三寸にある事だから、いくら錢を使って弁護士を頼んでも無駄だ、そのことをよく皆に判らせて欲しい。この応接にわれわれは大変迷惑している。」

われわれは愁眉を開き、急ぎサンパウロに戻ると、待ち兼ねていた一同にこの吉報を伝えた。皆、充分に納得し、安心した様であった。そこでさきに記した高木俊朗氏が引用した裁判官の慨嘆を読み返してみた。

高木俊朗氏にもの申す

「狂信」の著者、高木俊朗氏は、相当な日時を費やし、広汎な取材活動の結果、この「狂信」をものされた様であるが、私としては一読、作家としての氏の「良心不在」を感じざるを得なかつたのは遺憾であつた。

良きこの「勞作」は「財界紹介」誌論述室のため、貴重な役を果たしたであらうが、そのためにこの「一文が、あたら「金に買われた虚構の文」となり果てたからである。

特に私に閲する虚構の羅列は許し難いものがあるが、精しくは後述するとして、私の第一に不審に堪えないのは、山内静雄（元大尉）とか朝川甚三郎（元巨賊）

聯合本部書記、現、昭和学院院長）とか或いはまた、深津増太郎（元臣聯留本部会計担当）とかの各氏に執念深く取材しながら、何故、最も重要な対象であるはずの私を省略或は敬遠したのか。コチア

産業組合の故下元健吉氏が一まず、川畠三郎を葬れ。彼こそコロニアの癌、諸悪の元凶」とまで放言したことのある、私への取材を高木氏は何故、回避したのか。何とも合点のゆかない片手落ちの取材活動ではないか。

然も、取材を避けた私に関する記述は、事実無根の虚構の羅列である。日本

鬼の首でもとつたつもりで書き立てるから、余計な恥を搔くことになる。

「昭和新聞」発行のいきさつ

田聯の留守本部を預った私が「昭和新闘」を発刊したイキサツは――。当時、コロニアを代表する知識層、実力者層を背景とする敗戦認識運動の積極的攻勢の前に、「狂信の徒」「愚民集団」の嘲罵を一方的に浴びながら、一矢を酬ゆる術もなかつたのは、「勝ち組」の思想・心情を世に訴えるべき言論機関をもたなかつたからである。直接行動に出る者を産んだのもその辺に起因するのかも知れなかつた。

孤立無援、徒手空拳の私が、新聞発行を決意し、踏み出したのもその故である。当然、それは、反対者からの警告、

妨害に暴らされることを覚悟しなければならなかった。そこで、私は発刊準備の整った時点で、平田実君を伴って勝ち組

最大の理解者、リーマ・フィゲレード大佐を訪ねて援護を懇請した。大佐は快く承諾すると共に「昭和新聞」の葡語訳名

を「オ・パンフィイカドール」と命名してくれた。平和建設者という意味であるのも、大佐の信頼のほどがうかがえて嬉

かつた。然も表玄関まで送つて来た大佐は、私の手を固く握りながら「貴君たちは、信念の勝利を祈る」と激励されたので

あ
つ
た

【解説】川畑三郎氏（鹿児島県出身）は「敗け組」といわれた認識派に対抗するため「勝ち組」を背景に発行された週刊昭和新聞の社長を務めた。本誌に寄せられた手記で明白になったのは、①暗殺テロ事件は臣聯本部からの指令で起つたものでないこと②「勝ち組」「敗け組」抗争の中で偶発的、部分的に発生した予期せざる事件であったこと③勝・敗抗争の中で逮捕された百七十七人の「勝ち組」は、刑罰を課すためのもの、とうよりも保護拘束的な色彩の強いものであったこと④作家・高木俊朗氏はブラジルで「狂信」の調査に当たり、何故か臣聯留守本部を預った責任者の川畑三郎氏にインタビューをして、『事実』の裏打ちしなかったこと⑤日本人コロニアの沈静化に当つたノロエヌチ鉄道総裁のフィゲレード大佐が、「昭和新聞」のポルトガル語版の題字を「オ・パンティカドール」と命名したことなどが明らかとなつた。川畑氏は「自分について高木氏が『狂信』の中で書いた『虚構の羅列』は許し難い」として、これについては改めて述べると明記している。

【解説】川畑三郎氏（鹿児島県出身）は「敗け組」といわれた認識派に対抗するため「勝ち組」を背景に発行された週刊昭和新聞の社長を務めた。本誌に寄せられた手記で明白になったのは、①暗殺テロ事件は臣聯本部からの指令で起ったものでないこと②「勝ち組」「敗け組」抗争の中で偶発的、部分的に発生した予期せざる事件であったこと③勝・敗抗争の中で逮捕された百七十七人の「勝ち組」は、刑罰を課するためのもの、とうよりも保護拘束的な色彩の強いものであつたこと④作家・高木俊朗氏はラジオで「狂信」の調査に当り、何故か臣聯留守本部を預った責任者の川畑三郎氏にインタビューをして、『事実』の裏打ちしなかつたこと⑤日本人コロニアの沈静化に当つていたノロエスチ鉄道総裁のフィゲレード大佐が、「昭和新聞」のポルトガル語版の題字を「オ・パシフィカドール」と命名したことなどが明らかとなつた。川畑氏は「自分について高木氏が『狂信』の中で書いた『虚構の羅列』は許し難い」として、これについては改めて述べると明記している。

船中日記①の
ブラジル移民

学童の歌と一角旗で神戸を出航

末永花

昭和八年五月四日(木)　だんだん…だんだん…。決ったリズムを繰り返して汽車はやみの中をひた走りに走っている。ぱしばしと激しい雨が窓を打つかと思ふと、又急に止む。坂を上っているのか、車輪の音が激しく背にひびく。「あ、あー」と寝苦しさそうな声を出したのは、修学旅行の中だろう。とても眠れないと思ったが、一時から三時頃までまどろんだった。目が覚めたらスチームは冷えていて、窓の外はしらじらと明けていた。湖が見える。一帯に低地である。江

州は彦根の駅、大津の駅を通り屋根に擬宝珠のある寺々が見えてくる。越中で見た事がない。もり山を通って、大平記の「しぐれもいたく守山の」を憶ひ出し、大石良雄の隠宅のあった山科を通り、関の清水で有名な逢坂を窓から見て汽車は京都の町へはいった。

こちらの山は、お仏供飯のよう円い山で田圃は水田ではなく、菜の花と麦のんだら模様である。京都の駅で三四、五の前だれ掛の男の人との細君、二人の子供が乗り込んだ。見送る人が五十円(子供は半額)が支給されるようになつた。郷里から神戸までの汽車賃、小荷物料金も半額という優遇措置がとられた。日本政府の積極的な移民送り出し政策である。

これは大正十二年の関東大震災で都市に失業者があふれ、大正十三年、米国排日移民法施行でアメリカ移民の門が閉ざされると同時に伯国サンパウロ州政府が日本人移民の渡航費を補助しなくなつたためである。増加する人口の受け口を南米に求めるとともに、移民が外国人から本国に送る金を目当てにまで無料で宿泊できるようになった。一九三二年(昭和七年)からは一人当

【解説】末永花さんがブラジルへ出発した昭和八年(一九三三年)はブラジル移民がピークに達した年で、月二回、移民船が神戸を出帆し、この年だけで二万四千四百九十四人を数えた。日本政府は一九二四年(大正十三年)からブラジル移民の船賃を全額補助し、それまで移民個人が支払っていた、移民会社への手数料三十五円を負担した。さらに、一九二七年(昭和二年)には神戸に移民収容所(のちの海外移住教養所)が開設され、移民はここで出帆まで無料で宿泊できるようになった。一九三二年(昭和七年)からは一人当

り五十円(子供は半額)が支給されるようになつた。郷里から神戸までの汽船賃、小荷物料金も半額という優遇措置がとられた。日本政府の積極的な移民送り出し政策である。

これは大正十二年の関東大震災で都

校を見て來たが、コンクリート建の小学校の校庭に遊んでいる児童らは、五色のおはじきを播いたやうに美しく見え

六、七人。男の人も女の人も泣きしきつてゐる。老いた父親と見える人も泣いている。血気な三十男も泣いている。

自分も昨夜の別れをおもひ、目を外らす。弁当(一つ三十銭)とコーヒーを買つて朝食をした。ふと故郷の煤けた台所を思ひ浮べた。母の涙に曇つた目を思ひ浮べた。今頃は母の心はどうであらう。御飯のどを通らないのではないかと思つたら、どう堪へても涙をかくせない。主人は何故、涙をこぼしていると、しつこく尋ねている。神戸、灘、西の宮を通ると何とすばらしい住宅が並んでゐる事か。ステーションのホームに立つてゐる人も、すっきりとした折目の服を着てゐる人ばかり。窓から幾つかの小学

校を見て來たが、夕食に遅れたので主人に叱られた。外出もしてみたけれど面白くなかった。

五月五日(金)晴　朝六時に屋上で国民体操をさせられた。それから朝食で葱と豆腐のみおつけを戴いた。午前中は航海の際の荷物の注意があった。午後から種痘があり、女医さんが少し生意気な風に見えた。夕食の前に荷物の整理をしていて、夕食に遅れたので主人に叱られた。外出もしてみたけれど面白くなかった。

午後は入浴を許され、夜は後の高台の夜景を眺めたりした。洋式建築の家に、IGジョンだのGMダーリングなど横文字の表札がかかっている。高い丘の上に赤い屋根の堂々たる建築が見える。その後は松林の茂みである。私等の室は寝台が六つづ二列に並んでいて、真中が通路。浜黒崎から来た人と言葉を交はす。

横には東京府から來た若いハイカラさんがいる。晩の食堂には赤飯が出た。富山県庁の移住係の福島さんは昼に旅館へ帰り晩に又来て下さった。

策移民”である。神戸港には動員された小学生が整列して小旗を振り、楽隊にあわせて大声で歌った。小学生は自発的に旗を振ったのではなく、兵庫県当局が神戸市に働きかけ、各小学校が学童を動員したものとのようである。ちょうど“出征兵士”的見送りみたいな扱いであった。

行けや同胞海越へて
南の国やブラジルの
未開の富を開くべき
これぞ雄々しき開拓者

当時、神戸市内で移民宿の神戸館の支配人をしていた久徳正彦さん（海外日系人協会理事）は、次の通り思い出を語った。

「昭和八年といえ、私のいた神戸館のほか移民関係者の宿泊したのは、高谷旅館、岩国屋旅館、今泉旅館、えびす屋旅館、薩摩屋旅館があつた。移民は各地から神戸に集まつてきて最終的に身体検査に合格すると、海外移住教養所に入り一週間、講習を受けた。検査に不合格になつた者は、次の船が出るまで神戸にとどまつて眼の治療に当つた。あの頃、身体検査ではねられる理由のほとんどはトラホームで、長峰さんという医師が大正時代から移民の検査医をしていた。不合格者は郷里の近いものは、次の船が出るまで帰郷して待つたが、北海道、東北、九州、沖縄出身者は、兵庫県が開設した施設に入つて働きながら治療を続けた。男は労務者、女は簡単な手伝い仕事をした。男は労務者でも一日に一円五十銭もとれば良い方であった。神戸館では、アメリカ、カナダ移民、ブラジル

とアルゼンチンゆきの自由渡航者が宿泊した。一泊二食つきで、町の旅館なら三円五十銭位のところ、移民宿では二円五十銭しかとらなかつた。海外移民は金持ちがいるわけではないので、いわば一種の奉仕料金だった。三階建ての神戸館ではお客様の収容能力百五十人。食事はかなりのメニューだった。朝食にはご飯、みそ汁、漬けもの、野菜の炊きあわせに焼魚。夕食はこれに肉料理がついた。海外興業株式会社の支店が生田区浪花町の商船ビル五階にあり、ここで一切の渡航手手続きをとつた。支店長が森島さんで、他に福田さん、巽さんがいて、一般事務員が男二人、女一人でした。商船ビルにはブライルの領事館もあって何かと便利だったが、出航前は荷物の世話などがあつて、まるで戦場の様な忙しさであつた。」

*
末永花（まつえい・はな）さん略歴
一九〇七年（明治四十年）、富山県射水郡二塚村（現、高岡市）の農業中村長助、くにの娘として生まれ、同県立教養所に入り一週間、講習を受けた。高田高女、同県女子師範第二部卒。同県東礪波郡蓑谷小学校、同県射水郡二小学校訓導を勤め、夫君、辰次郎氏とともに一九三三年（昭和八年）に農業移民として「らぶらた丸」（七、二六七トン）で渡航。ノロエーステ線第三アリアンサ富山移住地に入植。七年間、農業に従事。夫君が病気のためカンボス・ド・ジョルドン高原に転地、夫君の死後、田中信男氏と再婚したが離別、同地の日本人メソジスト教会員現住所。

Hana Matsuei Tanaka
C.P. 339 Campos do Jordão
São Paulo Brasil

五月六日（土）晴 朝五時頃からボツボツ各室のドアを開ける音がする。直ぐ起きて洗濯をした。午前にはブラジル事情の講話があった。要するにブラジルは二年程は苦しくて、婦女子などはこぼすそうである。

午後からは右の腕にチブス予防の注射をさせられた。主人は風邪をひいていたので注射をしなかつた。同県の飯野氏の家族からは、注射のせいで二人程度にして、まるで戦場の様な忙しさであつて、夜中に額を冷やしておられた。午後五時頃、着物を着替えて散歩しようとすると外出止め。主人は屏を越えて少し買物をしてきた。教養所内の売店と外の商人とが競争で商売しているやうである。所内の売店で畠で着る雨合羽やテンントを買った。

五月七日（日）晴 今日は荷物の検査があるので、洗顔する間も惜んで行李を持つて広場へ出た。私等の荷物は倉庫のどこにあるかと思ったら、掛りの人夫の人が頼んだ事を忘れずに、ちゃんと広場へ持つて行ってあつた。早速、繩を解いた。主人の兄が丁寧に繩を掛けて下さつたのも、ここで皆解いた。主人が人夫に心付を五十銭渡したので、便宜をはかつてくれ、検査も一番先にしてもらつた。

検査員は年とった方で割合簡単に、親切にしてくれた。不合格なのは漬物桶一個、主人がこんなものを用意するから。

さて、解いたは解いたが、後の荷造りが又大変だ。飯野氏も大童で指揮して居られない。交替で食事に行つたが、其の間の長い事。一人の、顔の角形の丈夫の人に頼んだら、ゆっくりと荷物をくぐり上げてゆく。やうやく一段落ついたので、すぐ屏の下の崖を隔てた立派な建物は何かと聞くと「東亜ホテル」と答へた。二階のヴェランダに椅子が出てゐる。窓にレースのカーテンがゆらいでいるが、誰の顔も見えない。庭につづじの花が色紙を散らしたやうに咲いている。藤棚の藤が五月の風にゆれている。

私等の境遇と正反対に閑静だなあと暫らく眺めてから、荷物の処へ帰つてゆくと「室で手荷物の検査があるから早く行つて居なくちゃ」と云われた。やれやれ忙しい事。やがて、検査に廻つて来たのは、昨日、ブラジル事情を講義した若い人であった。手をポケットに入れ帽子をあみだし冠つて私に「反物はないか」と聞いた。「いいえ、ありません」と答へた。

飯野方の検査でお母さんが「台所道具も見て下さい」と寝台の下にあるのを指して二度程催促したのが、気に障つたのかも知れない。「お前は船の中へ行つて煮炊をする積りかい」。茶碗を見て「何故赤印にしなかつた」「こわれ物は手荷物にせいと倉庫掛の人が云ひましたので」と娘婿の中島氏が言ひと「倉庫掛

りの誰が言ったか、連れて来い」と言つた。これは大変と思った。

汗と埃と風に一日中晒した顔と体を浴場へ運んだ。夕食は牛肉のはいった五目飯と、はんぺんとじゅん菜の吸物であった。教養所は此の国土を離れてゆく我々に出来るだけ御馳走をして下さっているのだ。大きなタンクに湯を張ってお皿を手品のように投げ込み、洗い上げていくのを目を見張つて見る。

晩の六時から講堂でブラジル事情の活動写真があった。ブラジルは風景一つ見ても单调だと思った。かくて忙しかった日も暮れた。教養所で世話になる日も残り少なくなつてゆく。主人と日暮れに堀の際で洗濯物を干して居ると、堀の向ふを若者二人がステッキと愛犬をお伴に御散歩だ。蔑すむような、憐れむような視線を投げて行く。世は様々。運命は別々。主人の姉上、佃田夫人より面会に來るとの葉書が来た。今は宝塚のあたりに住んで居るとの事。

五月八日（月）晴 六時に振鈴が鳴つたので屋上へ出た。今日は違う指揮者で元気がよい。舟漕ぎの運動なんか初めは遅く後々は早くしたのは変化があつた。反対に呼吸運動ははじめは早く次第に遅くさせられた。

六甲の山の峰の濃く淡く浮き出ているのを見ると、二、三度見た廣重の絵を思い出した。縮緬を延べたような目の前の海を黒い汽船が浮いている。かすかに白

波の尾を引きながら走っている。蒸氣も見える。ドラの鳴るのが聞えなかつたので少々御飯に遅れた。主人は食堂掛りと

口喧嘩をしながら、おみおつけをもつて朝食をすまして室へ帰つて見ると、小使氏が書留が來ているから事務室へ来るようと言つてくれた。山本村長と日野氏から來ていた。山本村長からは一ヶ月の俸給に添えて懇意な手紙があつた。

村長も市編入問題や学校改築問題等忙しい中を私の為に手数をかけて済まないと思つ。日野氏からは義弟吉平氏の縁談が成立しなかつた事を知らせ、饋別として十五円送つてきた。過分である。従姉のもと子氏から身体検査の内容を問合せて來た。午後から主人と飯野氏の一族は外出した。私は婦人会、山本村長、日野氏に礼状を書いた。今日も風呂を貰ひ夕食後ボルトゲースの講習があつた。退屈させない為か冗談が多かつた。内容はブラジル語と言うのはポルトガル語である。

ブラジル人はゆつくり話すのですぐ覚えられる。とにかく解らなかつたら勇敢に肩を上げるのださうだ。或西洋婦人が旅館の中に蜜柑を指し「みかんの着物さやうなら」と言つたそつだが、その要領でやれば笑いこそそれ決して怒られる事はないという話であった。室へ帰ると一行は帰つていて。一しきり買物の披露。おしゃべり、何とこぎやかな事よ。

五月九日（火）晴 昨晩は種痘がかゆ

かったので落付いて眠れなかつた。起きて着替え、物干場で髪を結つた。眼下に川神社に参詣に行くと言つて出られた。簡とはんぺんの煮付であつた。食後、写真をうつすと言ふのでセルに着更へて出た。広場で他の県の人達が写真を撮つてゐるのをほんやり見ていると、私の名を呼ぶ声がする。見ると屋上から飯野方のとみ子さんやきみゑさんが手を振つてゐる。佃田家の人に達と写真をとる。それから見送り旁々坂を下りて町へ出る。

外人がたく山歩いているところへ出る。混血の女がコーヒー色の肌をして細い足で歩いてゆく。何国人か知らないが、変つた型の帽子を冠つてニコニコと群がつて歩いてゆく。

衣裳が沢山出ている。外国人目当のものであらう。日本人の好みとこんなに違ふ

間に合わない。五十錢貸してもらへないか」と走り込んでくる。

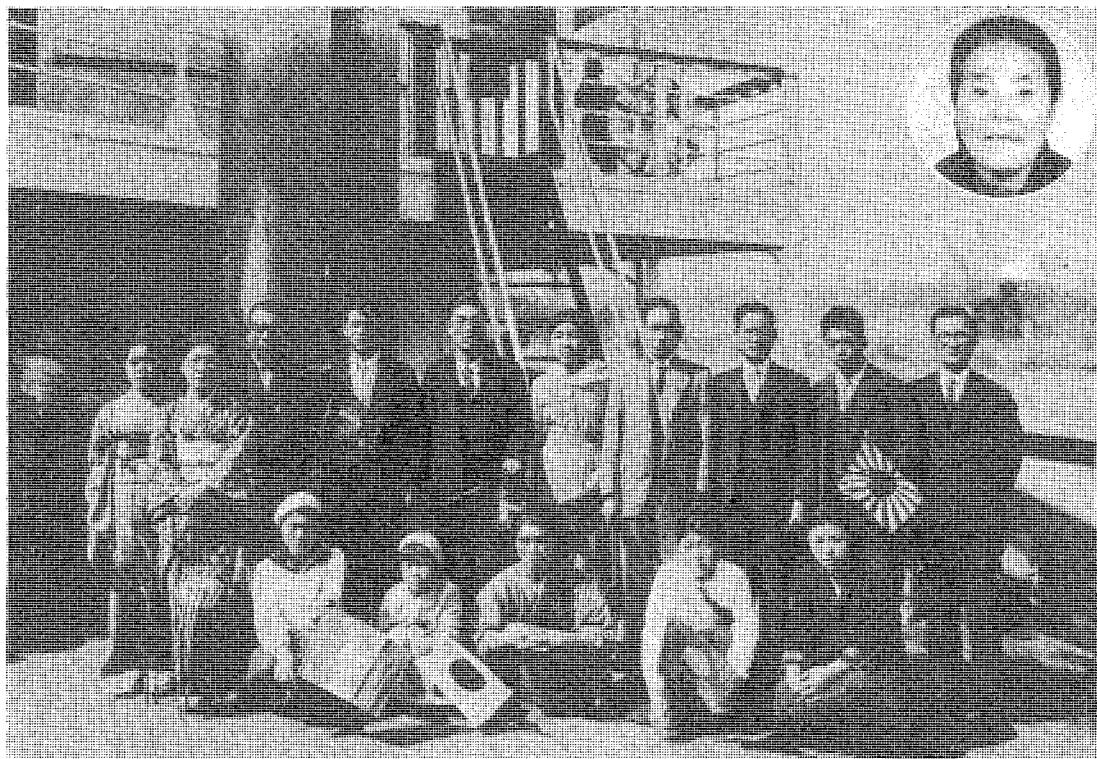
氣の毒と思つて貸したが最後、戻つて見る此の美しい港の景色とももう少しで口喧嘩をしながら、おみおつけをもつている。

朝食をすまして室へ帰つて見ると、小使氏が書留が來ているから事務室へ来るようと言つてくれた。山本村長と日野氏から來ていた。山本村長からは一ヶ月の俸給に添えて懇意な手紙があつた。

村長も市編入問題や学校改築問題等忙しい中を私の為に手数をかけて済まないと思つ。日野氏からは義弟吉平氏の縁談が成立しなかつた事を知らせ、饋別として十五円送つてきた。過分である。従姉のもと子氏から身体検査の内容を問合せて來た。午後から主人と飯野氏の一族は外出した。私は婦人会、山本村長、日野氏に礼状を書いた。今日も風呂を貰ひ夕食後ボルトゲースの講習があつた。退屈させない為か冗談が多かつた。内容はブラジル語と言うのはポルトガル語である。

ブラジル人はゆつくり話すのですぐ覚えられる。とにかく解らなかつたら勇敢に肩を上げるのださうだ。或西洋婦人が旅館の中に蜜柑を指し「みかんの着物さやうなら」と言つたそつだが、その要領でやれば笑いこそそれ決して怒られる事はないという話であった。室へ帰ると一行は帰つていて。一しきり買物の披露。おしゃべり、何とこぎやかな事よ。

五月九日（火）晴 昨晩は種痘がかゆ



「らぶらた丸」甲板での記念写真。前列右端が末永花さん。後列右から3人目が夫の辰次郎氏(神戸港)。円内は現在の筆者

のか。蜜豆を御馳走になつた。義妹みよ子氏は何度も無理をしない事、金銭の出入りに注意する事を繰り返される。あんまり渡航に反対した人が「ブラジルはのん気で却つてよいかも知れない。出来たらやはり教員になるようしなさい」と力づけて下さる。それから自分の教員時代の奮闘談、御主人の経済に対する用意周到な話を八時十五分の電車で帰られた。

私達が子供さんに絵本を一冊づつ買って上げたら「今あなたの金を一円でも少なくしてはいけないから」と代価を無理に下さった。私は心中この義姉を自分の主人よりも尊敬している。かういふ人と一生涯の交際も出来ないで海外へ行くのは本当に惜しい。

五月十日（水）午前雨あり、午後晴

朝食後、飯野氏達と生田神社へ参拝を行つた。出航する者は必ず参拝との事で。雨がパラパラ舗道に落ちるので傘を持って行く。鈴懸が薄緑の葉を伸し出した。辻の柳を見ても房々として気候の良さが感じられる。生田の森へはいった。大きな榎が多くて幹が三つも四つも別れていて、小鳥の羽のようやはらかな葉が室を覆ふている。境内は榎の目もうるはしく掃き清められてある。玉垣をめぐらした千木の立派な本殿で柏手を打つて拝んだ。すぐ後から来た立派な外人も拝んで行つた。

絵馬堂に古い浮世絵風の絵馬などかか

つていて願を掛ける為か、紅白の布が下っている。「甲子十八歳の男」などと書いてあつた。この美しい山と海を眺めて暮せたら、外に何の願かけをする事があらう。私達はこの国に縁がうすく明日はあの波の上を行くのに。生田の森の油絵が掛っていて、その由来が書いてある。梶原の景季が般に八重梅を挿してこの森で奮戦した事。父景時が我が子が遅いのでさがしに来て加勢した事などが書いてある。境内の一隅に「梶原の井戸」という苔むしたささやかな井戸があつて、父子が清水を掬んで武運を祈った跡といはれている。すてきな史蹟に今の自分の境遇も忘れる。

中食後は最後の外出といひので、共和国におられる福島氏を訪ねる事にして出て、公園の方（加納町一丁目）で福島氏に逢つた。「それじゃ布引の方へいきませう」といはれて、その方へ夕暮の山の連なりを登つてゆく。松が多く、その中に楓が交つて夕風にそいでいる。布引の男滝は今日は水嵩がふえて、どうどうと落ちていた。岩が鼠色に光つて立派である。女滝は石でたたんだ水槽に溢れた水がたらつたらつと落ちるさまなど、どちらも特長があった。三人で静かな裏通りを教養所へ歩きながら、福島氏はこの旅行で胸ポケットにさしていた万筆年をすられたといつて淋しい顔をされた。東の間の憐わせであった。教養所生

五月十一日（木）晴 朝四時半に起きて、手荷物の整理をして前庭に運び出した。すると倉庫掛りが「不合格の桶があるが、何とか責任を以て処分してくれなくては困る」と言つて来た。「さてこそ……」とどきんとした。「掛り員にでも上げませう」と言つても、「お前は黙つとれ」と主人は言ふ。私は足止めされているのに、辯を越へて買物を行つたり、食堂の掛りの人と言い合いをしたり、桶を無理して持つてゆこうとする主人に賛成出来ない。然し知らぬ他国へ行くには主人に頼るより仕方がない。私は何の為に止める老母を振り捨てて親不幸をして何を目的に南米へ行くのだらう。

出立を祝つて赤飯に鯛の焼物をふるまつてもらつたけれど、おいしくなかつた。食事をすまして倉庫へ行つた。五十銭ポケットへ入れてあげてやつと船へ上げてもらつ事になつた。

十一時出発、坂を下りて港まで長い列をつくつて歩いた。店の人も大通りを歩いている人も皆振り返つて見る。暑い中を手荷物を持って三十分程歩いてやつと波止場へ出た。

待合室で暫く待つて甲板へ上つた。Cの8号という部屋へ入つた。入口の右手に円い船窓一つある。寝台は上下に並んで六つあって、ブリキの壺が一つづつしている。寝台には皆サラサのカーテンが掛つている。甲板からケビンへ手荷物を運んだ。

福島氏がケビンへ来られて「いいところですか、これなら苦勞なしに行けますよ」と言はれる。移住組合からだといつてサイダーを一打もあらぶ。ともかく移住教養所からのパンで空腹を充たす。

午後二時、甲板で福島氏と富山県人である飯野氏一族と私達で写真をとる。橋は神戸市の小学生や見送り人で一ぱい、早や五色のテープが投げられてゐる。

三角旗を振つて絶間なしに歌を歌つてくれる小学生。幼ない頭に移住という事を何と受け留めてくれるだらうか。テープはくものがれの巣の様にふえてゆく。

丁度、四時に長い汽笛がなつた。船は徐々に棧橋を離れてゆく。テープはずん伸びる。私は黄色いテープを持って福島氏に何度も礼を言つた。テープは皆切れてしまつた。女性の一群が舟で追いかけて送つてくれる。

海から眺める緑色そふ神戸よ、さやうなら。この七千トンのらぶらた丸だけがたよりになつた。ゴトゴトと言ふ汽笛の音、ザアザアと洗ふ波の音、それに船の揺れで頭が安定しないから眠れない。

(つづく)

日本人の心のふるさと

富士山を仰ぐ

230万m²(70坪) の

大公園墓地



園内には、菊地寛以下物故 200柱をまつる「文学者の墓」のほか各種団体の記念碑、慰靈碑用地があります。日本の表徴「富士山」を仰ぐ聖地に「海外日系人の慰靈碑」建立をせひご計画下さい。ご相談をお待ち申し上げます。



財團
法人
富士靈園

霊園。静岡県御殿場よりバス20分

東京事務所。丸ビル内 TEL03(213)8101代

A mild way MILD SEVEN

Japan's Best Selling Cigarette



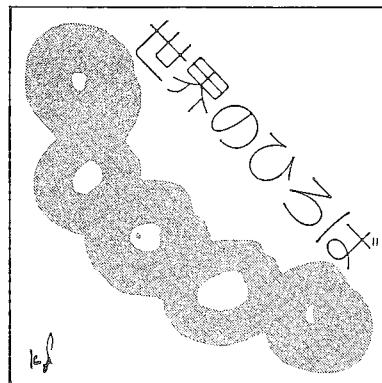
**Make it a Mild Smoke. Mild Seven.
Smooth, rich, rewarding.**

© 1990 Philip Morris Inc. 100's

アリゾナ州フェニックスで開会の第九回日米知事会議に参加の帰途、ホノルルに立ち寄った中川平太夫福井、林田悠紀夫京都、田川彦三重、恒松制治島根の四知事を迎え、ハワイ連協主催の歓迎会が八三年十月二十八日、料亭「欽樂」で開催された。米沢薦運協会長が「ハワイ日本人移民史」を贈呈、有吉州知事が日本語で「一世の皆さんが苦労しながらも子供の教育をしたお陰で、今日のハワイがあることを理解していただきたい」と述べた。

ハ
ワ
イ

連協が25周年記念行事
　　ハワイ日系人連合協会（略称、連協）は創立二十五周年を迎える八三一年十一月一日から三日間、次の通り記念行事を開催した。



茨城から身障者の「希望の翼」
茨城県から身障者六十六人をふくむ
「希望の翼」（団長・後藤武一郎茨城新聞社長）一行百四十七人は八三年十二月十六日、来布。十八日、マロロ・ジムでハワイ側と車イスのバスケット試合を行なうなど友好を深めた。

月五日から、KSHO(UHF局26チャネル)から週十二時間半の放映を開始した。このため従来、JNNプロ放映のチャンネル12、同17は中止となり、日本語テレビ放送は六局から五局になった。スタートに当つて二月二十九日、記者会見で二宮社長は「ローカル性を活かし、視聴者に喜んでもらえる番組を製作したい」と語った。

ハワイ報知創立七十周年記念公演「松村和子ショーア」が八三年十一月四、五の両日、NBCコンサートホールで開催された。「津軽じょんがら節」「北海盆唄」など二十八曲を二時間余歌つて、万雷の拍手を受けた。

行の境地法人NTA・バシフィック社。収益の一部は一九八五年六月開催の官約移民百年祭委に寄付される。ハワイ場所のあと、六月六日から三日間、ニューヨーク場所、さらにロサンゼルス場所と統一予定。

福岡県から友好親善使節団
ハワイ州と姉妹県の福岡県から奥田八郎知事を団長とする友好親善使節団が一

口サンゼルフ

日系公務員に五千ドル補償

▽十一 日ハリバニアン・ヒレ・シで祝賀晩餐会、一人二十五ドル▽十二、十三日アラモアナ公園マコイ・パビリオンで茶の湯、生花、書道、盆栽などの文化展。カラオケ大会、武道、民謡など。

四 知事に連協が歓迎会

アリゾナ州フェニックスで開会の第九回日米知事会議に参加の帰途、ホノルル

日本ハワイ協会（浜田音四郎会長）のハワイ観光団三十五人は一月一日、ホルル着。同協会主催で二日夜、ハイヤット・リーゼンシー・ホテルで懇親晩餐会を開催、ハワイ側から有吉州知事代理、西ジェームス氏、同知事の母ミツエさんら四十人が出席した。アトラクションに砂絵の家元、吉川嘉秀さんが、砂絵を描いて拍手を浴びた。

JNプロが週12時間半放映へ
ホノルルの日本語テレビ、JNプロダクション（二宮ジョアン社長）では、三

太平洋沿岸から全日系人の総立ち退き命令の出た第四十二回記念日、二月十九日にロサンゼルスで四百人が参加して記

念集会が開催された。この日、南サンビードロ街の日米文化会館広場で集会、戦時補償要求の強化を訴えた。主催は、立ち退き補償・賠償実現全米連合、小東京住民の権利を守る会、JACL太平洋沿岸西南地区の三団体が共催、加州下議、労組代表、深井マス・ガーデナ市議らも参加した。

一世と新一世との対話

日系福祉擁護会の「新一世の会」で

各国で移民百年祭

小東京百年祭 海外にある最大の日本街、ロサンゼルスのリトル・トウキョウで、「小東京百年祭」が、七月二十八日から八月十二日までのオリンピックに統いて、八月十五日から十二日間、開催される。一八八五年（明治十八年）に帆船の日本人コックがロサンゼルスにやってきて洋食店を開いたのが、小東京の開祖と伝えられる。また、一八八六、七年頃にシゲタ、スマノスケという日本人が洋食店を開いたのが、第一号ともいいうが、実的には明確ではない。ただ、今はオリンピックが開催されるのでこれを機会に恒例の第四十四回二世週祭をオリンピック後にもってきて、大いに観光商戦を盛り上げようというわけ。百年祭実行委員長には、小東京の和菓子屋「三河屋」の女主人、橋本・K・フランシスさん（四十一歳）が決まり、準備を進めていく。今年は名古屋市と姉妹提携してから二十五周年で、お祭り行事が三つ重なっているだけに地元では南加日商を中心として大はりきり。一月には記録写

は、一月二十七日、日米文化会館で「一世と新来米者の対話」と題するシリーズの第一回講演会を開いた。講師はバイオニア・センターの中沢富子女史で、演題は「一九三〇年代の日系社会と今日」。

同シリーズを企画した柏木宏氏は、「在来の日系社会と、最近移住してきた日本人の間に反目や摩擦が取沙汰されているが、私たちとの対話を進め、コミュニケーションの調和をはかりたい」と語った。

真集小東京百年史を発行、六月九、十日には大相撲ロサンゼルス場所の開幕など各種行事が目白押し。八月二十六日の音頭パレードで最高潮に達する。ハワイ官約移民百年祭（一九八五年六月十三日からホノルル、ヒロ、コナなど）を中心官約移民百年祭が開催される。これは日本政府とハワイ王朝の間に移民協約が出来て、一八八五年（明治十八年）二月八日、日本人移民（五百四十六人が「シティ・オブ・トウキョウ」号（五、〇七九トン）でホノルルに到着したのを記念する祝い。

太田とバーバンク姉妹提携群馬県太田市から戸沢久夫市長はじめ川博正市議会議長、本島虎太商議会頭らを迎え、二月十四日、加州バーバンク市議会で姉妹都市提携の調印式が行われた。戸沢市長とスタンバーマー長が署名、同市長から市のカギ、プラーブ、児童画、市長から市旗、太田市旗、児童画などをそれぞれ贈呈した。

南加県人会長に津々井氏 南加県人会協議会は二月十七日、ガーデナ市の川福レストランで八四年度新役員就任式と親睦会を開催。各県人会代表百七十人を前に津々井新会長（高知県）は「日米の友好関係推進のため、日本を祖国とするわれわれはさらに努力を」と語った。なお、同協議会の名誉会長は、松田慶文総領事。

II 国本鉄次郎。 松田慶文総領事。 南加県人会長に津々井氏 南加県人会協議会は二月十七日、ガーデナ市の川福レストランで八四年度新役員就任式と親睦会を開催。各県人会代表百七十人を前に津々井新会長（高知県）は「日米の友好関係推進のため、日本を祖国とするわれわれはさらに努力を」と語った。なお、同協議会の名誉会長は、松田慶文総領事。

サリナス・キャンプ跡が史蹟に 戦時中のサリナス集合キャンプが加州歴史的ランドマークに認められ、十九日、シャーワッド公園で「ブライグの除幕式」が行われた。このブライグは、ギルロイ、モントレー、サンベニト、サリナス、ワッソンビルの各地から日系人三百八十六人が一九四二年四月から七月まで集合キャンプとして使っていたと記されている。

は、ブラジル日系議員らと交歓 ブラジル日系議員を迎える一月二十一日、南加日商會議室で鳥居甲子郎同日商頭、田中克之領事らが懇談会を開いた。羽藤マリオ連邦下議は「日本と協力を、小林パウロ。サンパウロ州議は「当地の方々と手を握り発展のためご協力を願いたい」と述べた。

日米文化セントラル恒例の行事、「お正月」プログラムの一部として小東京百年祭をテーマにした短歌コンテストが行われた。高柳沙水、服部尚の両氏が選考、三月末に入選一、二等を発表した。

日米文化セントラル恒例の行事、「お正月」プログラムの一部として小東京百年祭をテーマにした短歌コンテストが行われた。高柳沙水、服部尚の両氏が選考、三月末に入選一、二等を発表した。

日米文化セントラル恒例の行事、「お正月」プログラムの一部として小東京百年祭をテーマにした短歌コンテストが行われた。高柳沙水、服部尚の両氏が選考、三月末に入選一、二等を発表した。

日米文化セントラル恒例の行事、「お正月」プログラムの一部として小東京百年祭をテーマにした短歌コンテストが行われた。高柳沙水、服部尚の両氏が選考、三月末に入選一、二等を発表した。

は、ブラジル日系議員らと交歓 ブラジル日系議員を迎える一月二十一日、南加日商會議室で鳥居甲子郎同日商頭、田中克之領事らが懇談会を開いた。羽藤マリオ連邦下議は「日本と協力を、小林パウロ。サンパウロ州議は「当地の方々と手を握り発展のためご協力を願いたい」と述べた。

は、ブラジル日系議員らと交歓 ブラジル日系議員を迎える一月二十一日、南加日商會議室で鳥居甲子郎同日商頭、田中克之領事らが懇談会を開いた。羽藤マリオ連邦下議は「日本と協力を、小林パウロ。サンパウロ州議は「当地の方々と手を握り発展のためご協力を願いたい」と述べた。

は、ブラジル日系議員らと交歓 ブラジル日系議員を迎える一月二十一日、南加日商會議室で鳥居甲子郎同日商頭、田中克之領事らが懇談会を開いた。羽藤マリオ連邦下議は「日本と協力を、小林パウロ。サンパウロ州議は「当地の方々と手を握り発展のためご協力を願いたい」と述べた。

は、ブラジル日系議員らと交歓 ブラジル日系議員を迎える一月二十一日、南加日商會議室で鳥居甲子郎同日商頭、田中克之領事らが懇談会を開いた。羽藤マリオ連邦下議は「日本と協力を、小林パウロ。サンパウロ州議は「当地の方々と手を握り発展のためご協力を願いたい」と述べた。

二三隊のリードで参加者が忠誓を宣誓、リンカーン長老教会の松井ウメコ牧師が祈禱、ワツソンビル・シア・セントラ一世が「ゴッド・ブレス・アメリカ」を合唱した。式にはサリナス市のジム・バーンズ市長らも参加した。

和田勇氏が五輪に愛の贈物
ロサンゼルスの国際オリンピック委員、二世の和田フレッド勇氏が、ロサンゼルス五輪の聖火ランナーとして走る盲目の少女に三千ドルの出場権をプレゼン

トした。この少女は、加州グレンデール市のフーバー高校三年生、クリッシャー・ラーソン娘。羅府五輪委では聖火リレー・コース一万九千キロのうち、一万キロを「青年遺産区間」として一千キロを三千ドルを支払った個人、団体に走行の権利を与えていた。和田氏は、ラーソン娘が通っている盲人援助施設「ブレイル・インスティチュート」を参加料の寄贈先に指定したもの。

杵屋弥十郎師在米30年の会
長唄九代目家元、杵屋弥十郎師の在米三十年記念長唄の会が二月十九日、日本劇場で開演。出演者は杵屋弥曾次、弥曾藤ら五十人。出しものは「六の花」「島の千歳」など。同師は、東京・京橋生まれ、東京芸大教授、一九五三年に渡米。

平喜久男氏に伝教伝道功労賞
米國仏教団年次総会晚餐会は二月二十五日、フレスノ市ヒルトン・ホテルで開催。席上、第十八回伝教伝道功労賞受賞の平喜久男氏に沼田恵範伝教伝道協会長から表彰状と記念品が贈られた。平氏はフレスノ市の開業医で戦前、汎太平洋仏教大会の米國代表、全米仏青連盟議長。戦後は米國仏教団理事長、フレスノ別院理事長を努めた。フレスノ市生まれ。七十三歳。

ヤクザの親分を強制送還

日本からのヤクザ進出を警戒するロサンゼルスの移民局では一月六日、東京・港区に住む住吉連合系金子会の金子幸一

が、恵美子夫人と長男で現羅府新報社長・幹夫氏が勲章、勲記を受けた。

サンフランシスコ

各大学に日本語ブーム

サンタクララ大では三年前に日本語科を新設した。当時、学生が二十五人だったが、二年前に五十人に増加。サンノゼ州立大では、一九七九年に日本語クラスが五十一人のところ、八三年には百人に増えた。またスタンフォード大では日本語で修士、博士号も修得できる。日本経済の発展、科学技術の進歩などが、こうして日本研究の背景をなしているものとみられる。

コロンビア大の二教授が講演
日本文学の世界的な権威、コロンビア大学のドナルド・キーン教授は、一月十六日、桑港のワールド・アフェアーズ・セントラーホールで「谷崎潤一郎の作品に見る東洋と西洋」と題して講演した。北加日本協会と国際交流基金の共催。聴衆百八十人を前に同教授は、西洋が谷崎に与えた影響などをまじえながら小説「悪魔」など数点の作品について約一時間にわたり語った。

さらに二月一日、同セントラーホールで

伊東別院輪番が引退
約三十年にわたり布教活動に当つてき

た東本願寺羅府別院の伊東抱童輪番は引退することになり、後任に元シカゴ仏教会主任開教使で、羅府別院の副輪番、齊藤曉紅師が任命され三月十一日、同別院で継承報告法要を行つた。

駒井 明氏（羅府新報社長）八三年十一月二十八日、ロサンゼルスのUCLA メディカル・センターで死去、ロサンゼルス生まれの二世、七十五歳。UCLA 卒、一九三一年、日本大学に留学、三三

年帰米、戦時中、コロラド州アマチ收容所をへてロサンゼルスへ戻り、一九五〇

年父・豊策社長のあとを受け羅府新報社長。葬儀は十二月二日、小東京の合同

北加日商企頭に清水照久氏
北加日本商工会議所は二月二十三日、東京スカイツリで新理事會を開会、次の各

氏を新役員に選任した。

▽会頭：石崎正勝（第一

副会頭：須藤辰三（日航）▽第二副会頭：広瀬義一（CPA）▽会計：逸見

隆司（三井銀行）▽同監査：龜井正（日

百六十人の聴衆には感銘を与えた。
王田公博氏が日語協会長に
桑港の米國日語協会理事会は、一月二十一日、住銀日本町支店社文室で開催。次の各氏を役員に決めた。
▽会長：王田公博▽副会長：内藤淨、八木邦子、田丸良郎、林ヶ谷昭太郎▽一世史委員長：石崎五郎▽会報：広報委員長：府川東。
向日とサラダガ両市交流
京都府向日市から「向日市・サラダガ市友好の会」（会長：嶋田啓一郎同志社大名譽教授）の一行三十二人が二月十五日、加州サラダガ市を親善訪問した。十五年前、同市の日本庭園の管理を依頼されたのをきっかけで交流が深まり、すでにサラダガ市議会は、向日市との友好都市協定促進を決議している。両市の姉妹都市提携はもう一步のところまで進んでいる。

北加日商企頭に清水照久氏
北加日本商工会議所は二月二十三日、東京スカイツリで新理事會を開会、次の各氏を新役員に選任した。

▽会頭：石崎正勝（第一
副会頭：須藤辰三（日航）▽第二副会頭：広瀬義一（CPA）▽会計：逸見
隆司（三井銀行）▽同監査：龜井正（日綿）

日航太平洋線30周年

日航は太平洋線開設三十周年を記念し

て二月六日、吉高諄日航米州地区支配人

らがダイアン・ファイン・スタイン桑港市長を表敬訪問、桑港市民の協力と支持を感謝する式を行つた。同市民は吉高支配人に日航の功をたたえるデクラレーションを渡した。

なお、日航では二月五日、三十周年を記念して桑港の報道関係者ら三十人を日

本へ招待した。

シ ア ト ル

国際生花支部25周年展示会

生花インターナンヨナル・シアトル支部創立二十五周年記念の展示会が三月十六日から三日間、ウェスティング・ホテルで開催。初日はローヤル・シアトル市長、機員肥男総領事が会場のキャスケード・ルームでリボン・カットして開幕した。出品は百点以上り、地元各流派によるデモンストレーション、裏千家シアトル支部による回り花のお点前があり、最終日には小原流工藤和彦師の生け花の実技が披露された。

窪田竹光氏(会長)に四選

シアトル日系人会は一月十日、日会ホールで総会を開催、次の各氏を役員に選出した。

▽会長：窪田竹光(四選)▽副会長：日高重、坪田実▽理事：松井堯、堀家毅▽会計：景山昇、堀隆▽同監査：中村寅次郎、佐前ケン。

日本語学校維持会長に日高氏、シアトル日本語学校維持会は二月十四日、日会ホールで総会を開き、次の各氏を役員に選んだ。

▽会長：日高重▽副会長：景山昇、藤井義人▽書記：平山裕▽会計：小島伊造、森敏造▽同監査：窪田竹光、太田種一郎。

二世在郷軍人会が一世慰勞

二世ベッツ(在郷軍人会)主催の一世人懇宴食会は一月二十一日、二世ベッツ会館で開かれた。この催しは今年で十年目。昼食後、歌や踊りがあり、おみやげが贈られた。

「如月会」が親睦会

国際結婚した花嫁を中心とした親睦会は二月二十一日、二世ベッツ会館で開かれた。この催しは今年で十年目。

ボートランド

シアトル市南キング街の理髪師、神宮寺政代さんが二月、出身地の望月幸明山梨県知事より長寿者表彰を受けた。神宮寺さんは一八九二年(明治二十五年)、同県東八代郡一宮町生まれ。吉三郎氏と結婚して一九二四年度米、タコマで神宮寺床を経営、戦時立ち退きのあとシアトル市で開業、一九三八年に夫と死別したのちも理髪業を続けている。

河野寿平師(元牧師)二月十四日、プロビデンス病院で肝臓ガンで召天。広島県出身、八十六歳。ブレイン記念合同メソジスト教会牧師として、日本人キリスト教会同盟の組織に尽力。一九七一年秋に勲五等瑞宝章授与。告別式は十七日、同教会で行われた。喪主は久子夫人。

「憩の会」が五周年記念

ボートランドの福祉団体「憩の会」

日本銀行に強い風当り

シカゴ市議会財政委は二月二十四日、同市発行短期債二億五千八百二十万ドルを三菱銀行が引き受けることについて審議した結果、十三対二で可決した。同銀行はこの短期融資に百五十万ドルの利息を提示、地元のファースト・ナショナル銀行は利息三百十万美元で引き受けた。

を開いた。垣内ワシントン大学教授の乾杯、食事のあと、狂言小舞「雪山」、津軽三昧線、日舞、歌舞伎狂言「釣女」など、地元の芸能人も参加しての熱演がくりひろげられた。

百働会シアトル支部(片岡績支部長)の総会、新年親睦会は三月四日、嘉代レストランで百七十人が参加して開催。十八歳から百一歳までの一世、二十三人に記念品が贈られた。

春秋会長に川浪三菱支店長照夫三井物産支店長を選んだ。

神宮寺さんに知事表彰

寺政代さんが二月、出身地の望月幸明山梨県知事より長寿者表彰を受けた。神宮寺さんは一八九二年(明治二十五年)、同県東八代郡一宮町生まれ。吉三郎氏と結婚して一九二四年度米、タコマで神宮寺床を経営、戦時立ち退きのあとシアトル市で開業、一九三八年に夫と死別したのちも理髪業を続けている。

玉井好孝師(山東三州仏教会名譽開教使)八三年九月二十四日、デンバー市セント・アンソニー病院で死去。富山県生まれ、八十三歳。東洋大学卒、講談社記者、一九三〇年渡米、デンバーを中心に献身的に布教活動を続け、日系社会の象徴的存在であった。デンバーの日本人町シード・マネーは二万五千ドルとして、施設の予定地、募金などについての運動をさらに進めることになった。

川崎徳義氏が日系人会長に

玉井師の名をとつて「タマイ・タワー」と命名された。「コロラドの聖者」としてあがめられ、九月三日、入院するまで粗衣をまとって町々の肩を拾い清掃に当っていた。葬儀は十月三日、同教会で開催され、五百人の参列者が続いた。

下した。

安井氏は一九四二年三月二十八日、日系人に対する夜間外出禁止令を破ったとて逮捕。禁錮一年、罰金五千ドルを受けたが、市民権があるので同令は適用されないとして法廷で戦っていた。

日本文化祭と紅白歌合戦

ボートランド日本総領事館主催の日本文化祭は、三月十八日から開幕。十八歳から百一歳までの一世、二十三人に記念品が贈られた。

ボートランド日本総領事館主催の日本文化祭は、三月十八日から開幕。十八

デ ン バ ー

安井ミノル弁護士に謝恩会

デンバー市役所に長年勤務していた安井ミノル弁護士が八三年引退したのでJ.A.C.S.が中心となり謝恩デナーを三月三日、リージェンシー・ホテルで開いた。

益栽クラブ創立25周年

デンバー益栽クラブは二月二十五日、

仏教会で創立二十五周年記念のパーティを開いた。同地方では、非日系のアメリカ人も益栽に関心を示し、年々盛んになっている。

玉井好孝師(山東三州仏教会名譽開教使)八三年九月二十四日、デンバー市セント・アンソニー病院で死去。富山県生

まれ、八十三歳。東洋大学卒、講談社記者、一九三〇年渡米、デンバーを中心に行なうとして、同教会会社交室で理事会を開催。日系高齢者の養護施設設立について協議した。シード・マネーは二万五千ドルとして、

玉井師の名をとつて「タマイ・タワー」と命名された。「コロラドの聖者」としてあがめられ、九月三日、入院するまで粗衣をまとめて町々の肩を拾い清掃に当っていた。葬儀は十月三日、同教会で開催され、五百人の参

列者が続いた。

田桂二郎(幹事)井上ジエリー、岩本サム

「憩の会」が五周年記念

ボートランドの福音会「憩の会」

は二月十二日、メソジスト教会で創立五周年祝賀会を開催した。参加者百五十五人、体操、ダンス、日舞などを楽しんだ。

日本銀行に強い風当り

シカゴ市議会財政委は二月二十四日、同市発行短期債二億五千八百二十万ドルを三菱銀行が引き受けることについて審議した結果、十三対二で可決した。同銀行はこの短期融資に百五十万ドルの利息を提示、地元のファースト・ナショナル銀行は利息三百十万美元で引き受けた。

したため、三菱に決まった。

市議の一人は「私は第二次大戦で三菱航空機工場の爆撃を命じられた。その三菱から金を借りるとは」と反対。別の市議も「真珠湾の海底に沈んだアリゾナの将兵二千人の両親に何といえばいいのだ」と提案に反対を表明していた。

アジア系市民が結束集会

第一回アジア系市民パーティは二月三日、ナイル市のレストラン・ホワイト・イートで開催された。これは、日系はじめ中国、朝鮮、フィリピン、ベトナムなど政治的にも弱いアジア系が一つにまとまり、政治面でも存在を訴えようというもの。参加代表は千三百人。日系社会から牛島マイク・J・A・C・L・シカゴ支部長、ノース・ウェスタン大加藤紳機教授、森光アーサー定住者会長、南部勝同専務らが出席。招かれたトンプソン・イリノイ州知事は、アジア系市民の声を州政府に反映させるため、州知事補佐に韓国系の全信愛女史を任命したと発表した。

内本忠日系人会長が八選

シカゴ日系人会は二月十七日、定住者会で八四年度総会を開催、次の各氏を役員に決めた。内本会長は八選。▽会長内本忠、▽副会長本田登、小泉精一、久保瀬曉明、向山英文、新井仙太、山田寛、菅野武雄(専務理事兼任)、若松シゲオ▽会計本田九州男、磯田善一郎▽同監査日浦樹夫、前田謙、竹下國雄。

シカゴ東京テレビ開局

米本土ではロサンゼルス、桑港、ニューヨークなどで日本語テレビが放映されているが、シカゴでも四月十四日から桑港の東京テレビ系「シカゴ東京テレビ」が開局した。放送は毎土曜日午後四時から一時間 UHF 26 チャンネル、社長は岡本ジョージ氏。

日経シカゴ支局を開設

日本経済新聞社では三月二日付でシカゴ支局を開設、四日、同社の森田康社長が来市、ミッド・アメリカ・クラブで開設記念セレブションを開いた。初代特派員は鳴沢直樹記者。

清水メリーサンが金賞

シカゴ市のレーン・テクニカル高校四年の清水メリーサンは、一月二十一日、ジヨーンズ・コマーシャル・カレッジで開催の「シカゴ市高校生音楽コンクール」で、ウェニヤンスキーア作曲のバイオリン・コンチェルトを演奏、参加四百五十九人の内から、特賞に選ばれ金メダルを得た。メリーサンはハーバード大から入学許可が出ている。

二ユーヨーク

日本人・日系人の懇談会

日本米カウンセリング・センター、J·A·C·L、ニューヨーク日系人会の共催で二月二十五日、「日本女性と日系女性の親睦会」が日系人会ホールで開催された。これは、とかく日系人側に、日本人のものと、同時に日系人側が在ニューヨークの日本人について先入観もあり、誤解が定着する恐れもあるので、両者が話しあつた。このプログラムは今後も続けられる。

蘇木謙が日系人会長に

ニューヨーク日系人会の第三十二回総会は八三年十一月二十日、同会ホールで開会。役員に次の各氏を選任した。

▽会長蘇木・Y・フランシス(弁護士)▽副会長江見啓司、稻垣茂、村瀬

太郎、佐藤登、湯沢ジョージ▽主事木村敏夫▽会計原・Y・ジョージ▽同監査宮平長助、岡村フランク、佐々木直広。なお、新しく事務局長に社会学者、

片山昇孝氏が八四年一月に就任した。

移民の貴志さん百六歳

日系一世の長寿記録保持者、ニューヨーク市ブロンクス区オーランドの貴志駒太郎さんは二月十五日、百六歳の誕生日を迎えた。日系ソシアル・サービス(JASSI)の清水きみさん(七十五歳)とコロンビア大留学生の中西茂秋さん(二十七歳)が貴志さん方を定期的に訪れ身の回わりの世話を当っている。

現代日本の交響曲の夕べ

在ニューヨークのコントラバス奏者、三浦尚之氏が奔走して生まれた「ニュージック・オブ・ジャパン」の「現代日本」の交響曲の夕べ」が二月二十二日、カーネギー・ホールで開演。アメリカ交響楽団を指揮したのは岩城宏之氏。とくに、北爪道夫作曲、バイオリン協奏曲「循環する風景」佐藤喜美作曲「どこかで」、浜雄氏、元鬼太鼓座の和太鼓奏者、林英哲氏らがソリストとして共催した。曲目は

加藤壮一氏(ラジオ「ジャパン・アワトリーズの変容」など。入场料は五ドルから二十五ドルまでの六段階。

一加藤壮一氏(ラジオ「ジャパン・アワトリーズの変容」など。入场料は五ドルから二十五ドルまでの六段階。

ベルト病院で急性肺炎で死去。台湾生まれ、五十九歳。一九六四年のニューヨーク世界博で渡米、PR関係の仕事を続け、案内書「ジャパン・アワトリーズ」を発行、日系人会の涉外部長を務めた。独身だった。追悼会は十二月十日、日系人会で開催、中華時代、同窓の浅尾新一郎(ニューヨーク総領事大使)も参列した。

二カナダ日系人協会が賠償要求へ

カナダ日系人協会(NAJC)と戦時補

債委員会の組織を再検討する全カナダ日系人全国会議は一月二十日から三日間、ウイニペッグ市マールボロ・ホテルで開催された。

全加十三地区から六十人が出席、討議の結果①連邦政府に公式謝罪を求める②全加日系人協会は、戦時中の強制収容、排斥、国外追放など自由と人権侵害に対する補償を求める③再びこの様なあやまちを犯さないため「戦時法」と「人権法」の修正を求める、ことになった。当初の案では「金銭補償を求める」となっていたが、バンクーバーの松根ケン代表が「カナダの世相を考え金銭という言葉は入れない方が適切である」と提案、金銭の言葉は削除された。

なお、全加日系人協会会長には、ウインペッグの三木アート氏を選出、全国補償委員会の委員長に今井ジョージ氏を選出した。

一一世会でも戦時賠償要求

カナダの一世で組織するバンクーバーの「明治、大正生れ有志会」発起人二十人は、一九八三年末、会合して同会を発足させるとともに次の三項目を決議した。

①戦時中、カナダ政府が日系人に対する処置は誤りであったといふ政府の正式謝罪を要求する②損害賠償は日系人全体をひとまとめにして要求する③損害賠償についてはグレーター・バンクーバー日系人市民協会を全面的に支持する。

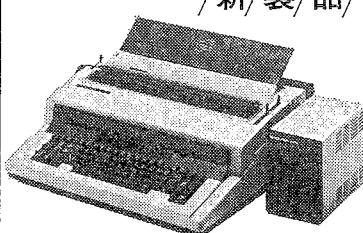
なお、同会発起人は、杉山岩吉、福井弥一、数田喜代三、岩中基、森田勝義、藤原良之、佐々木繁孝、浦勇清治、木下善智、西川利夫、荒川武男、平野渡、番野孫八、菅侃一、矢田源一郎、藤本英雄、田坂耕二、藤本英雄、田坂耕二、小島寿、堀井良太郎、若林忠男、角知通の二十一氏。

SILVER REED

日本の心でメカトロニクスを考えます。

今や第二段階に入つたといわれるOA化を先取りすべく、ワープロとタイプライターの区別をなくしてしまったバイ・インテリージントマシンEX78FD。

シルバーリードは、長年にわたつて蓄積したメカトロニクス技術をもとに、人間を大切に考えたこまやかな心で各種OA機器をお届けしています。



電子タイプライターEX78FD



シルバーリード精工株式会社

〒160 東京都新宿区新宿2-16-6
☎03(356)6111

バーノンで日系人史出版
BC州バーノン日系シア市民協会では一九八四年はじめ日系人史「光明を見つめ」を発行。英語は大内雄氏、日本語は矢倉幸利、三輪猪熊両氏が担当。限定五百部、価格二十九カナダ・ドル。日系三世女優が独演の演劇

オンタリオ州ロンドン生まれの日系三世女優、ダウン・オボカタ独演の「フェイセス・オブ・ダ・ムーン」が二月八日から十九日までトロントのアクターズ・ラボ劇場で公演、好評を呼んだ。

日系女性の会が新年会グレー・ターナー・バンクーバー日系女性の会は一月三十一日、ギルフォード・オーディトリアムで月例会を開催。参加者一人一人が料理またはケーキを持参、パーティを開き、新年の企画について話しあつた。

新移住者の芸能大会
新移住者協会主催の「新春芸能大会」は一月二十八日、トロントの日系文化会館で開催。司会は三井物産の藤井昭彦氏と宮下愛弓さん。第一部お好み演芸バラエティ、第二部歌謡コメディと盛り沢山

のプログラムに楽しいひとときを過ごしました。

日系義勇兵の慰霊祭

パンクーバーのスタンレー公園にあるパンクーバーのスタンレー公園にある日系義勇兵戦没者忠靈塔で、第一次大戦休戦記念日の八三年十一月十一日、日系市民協会（JCCA）主催で、第二次大戦の戦没将兵の鎮魂もかねて慰霊祭が行われた。

メキシコシヨ

厚意のバイオリン70丁着く
メキシコ・シティの黒沼ユリ子音楽院

を主宰する黒沼ユリ子さんは日本のマスコミを通じて、使用済の小さなバイオリンを求めていたが、この第一便として七十丁が届けられたので八三年十二月十三日、日本大使館で引き渡し式が行われた。黒沼さんは、日本で読売、信濃毎日、などを通じて各方面に呼びかけた。全国各地から百丁を越えるバイオリンが東京の黒沼さんに集まつて、その第一回分として七十丁を元メキシコ觀光社長、鈴木松男氏が、日航の好意で輸送費無料扱いでメキシコへもち帰つた。

芝J W I) を購入して「にっぽく」を製作、読者から「読みやすい新聞」として好評を呼んでいる。ワープロ使用の海外邦字紙は初めてで、こんどの成果が期待される。

ベル

保崎慶太教授が「異文化」講演

慶應大学の保崎秀夫教授（神経科）は二月六日、日秘文化会館で「異文化の中の精神生活」について大要次の通り講演した。

「明治時代にパリにいった日本人研究者はノイローゼにかかった。これをパリ

本大使館では、メキシコ政府に特別通関措置をお願いして、通関。引き渡し式となつた。これで同学院には全サイズのバイオリンが揃い、式後、早速少年、少女たちが得意の絃をひいて演奏会を開いた。同協会ではかねてから印刷方法を研究（日本製のワード・プロセッサー（東芝J W I) を購入して「にっぽく」を制作、読者から「読みやすい新聞」として好評を呼んでいる。ワープロ使用の海外邦字紙は初めてで、こんどの成果が期待される。

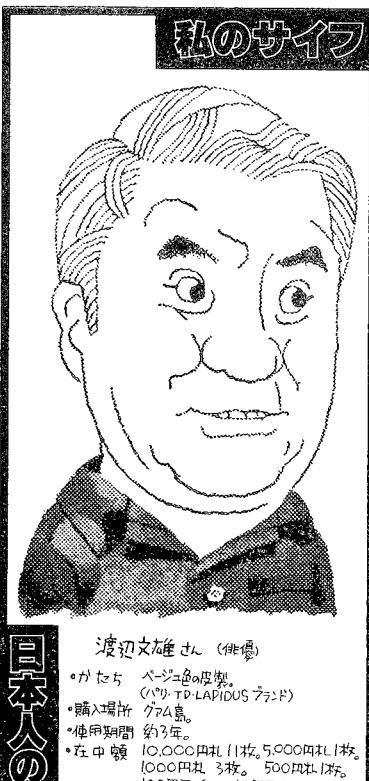
病といった。商社員の家族が外国生活をして精神障害をおこす場合がある。これを感覚遮断という。中には自殺を図つたり、外部の者に悪者扱いされたりするが、日本に帰ると二、三週間でころつと治る。移住者の場合だが、ブラジル、ボリビア、パラグアイの三カ国でアンケートをとった。もつとも困っているのは、治安の悪いこと。次は子供の教育。第三は言葉の問題であった。移住者には血圧症が多いが、これは食生活にあると思ふ。

富山県から親善訪問団

置県百年を記念する「富山県南米親善訪問団」（团长：高平公友参議院議員）の一行百余人は、八三年十月十三日、リマを訪問（日秘文化会館で富山県の民謡と踊りを披露するなど文化交流を深めた）。

リマ

専門校50周年記念式
戦前から日系唯一の洋裁学校、リマ専門学校の創立五十周年記念式と開校いらしゃる校長、内山初子先生（熊本県）の旁をねぎらう会が八三年十月八日、日秘文化会館大ホールにおいて同校同窓会（今福ロサ会長）が主催して開催された。



日本人のサイ
フ

日本人のサイ フ・中国ファンド

〔日興のテレホンシステムにより便利に〕
日興カードにご加入のお客さまなら、ご
自宅や公衆電話などのブッシュホンで
換金申し込み、残高照会ができます。

●ご利用ナンバーは――

東京03(495)4401 大阪06(311)3871

1カ月複利・出し入れ自由

中期国債 ファンド

(公社債投信・追加型)

設定・運用は日興投信委託

日興のテレホン投資相談

03[283]2222

お申し込みは――

日興證券

本店・東京都千代田区丸の内3の3の1
〒100電話(283)2211全国主要都市97店

私のサイ

サンベルナンドで日本移民史
サンベルナンド・ド・カンボ市文化部
ではポルトガル語の「サンベルナンド・
ブラジル日本移民史」を作成、二月一
日、同市のサンパウロ州立銀行支店で發
刊記念式を行った。一九一二年に日本人
移民がサンベルナンドに入植していらい
歩みが百頁におさめられている。

北海道からアイヌ工芸を
伝統のアイヌ工芸を南米で生かそう
と、北海道旭川市の水谷清さん一家五人
が八三年十二月二十七日、成田空港から
サンパウロに向け出発した。清さんは、
彫刻家・水谷博、サツさん夫婦の長男と
してブラジルに生まれ、十五歳で旭川へ
来て道立旭川職業訓練所を卒業した。

南極観測に日系人三氏
ブラジルの南極観測隊十二人は一月十
五日、チリ経由で南極へ向ったが、この
中に三人の日系人がふくまれている。池
田ヨシミネ・サンパウロ大教授と調査員
の桂川マリオ、鈴木はなさん。主として
オキアミの研究に当たる。

生きていた旗艦「三笠」の乗員
「日伯毎日新聞」(3月8日付)は、口

ンドリーナに日本海海戦の旗艦「三笠」
の乗組員の一人が健在であると報じた。
これは、味村靖さん(九十五歳)で、山
口県岩国市出身、海戦では十五歳で下士
官付のボイーとして勤務、血まみれにな
って負傷者の収容に当った。三十八歳、
一九二九年移民として渡伯、ロンドリー
ナでいまサンコートラ(手さげ袋)を編む
のを趣味に余生を送っている。

「笠戸丸」の石原さん死去
「笠戸丸」生き残りの移民、石原ウシ
さん(沖縄県、旧姓島袋)が三月八日、サ
ンパウロ市内の自宅で死去。九十三歳。
ウシさんは七十七歳で渡伯、孫三十三人、
曾孫五十三人、玄孫一人を残した。さら
に三月十六日、イグアッペの只野ウヌさ
ん(福島県)が百歳で死去した。これで
「笠戸丸」の生存者は、児玉良一(広島
県)、光永三利(熊本県)、宮平カメ(沖
縄県)、金城山房(同)、中川トミ(熊本
県)、園田猶之(鹿児島県)の六氏とな
った。一九七八年の移民七十年祭當時は
「笠戸丸」移民は二十三人を数えた。

池田会長迎え南米文化祭
創価学会名誉会長でSGI(創価学会

I 南米文化祭に参加するなど精力的に日
程をこなし、二十九日、ピラコッポス空
港発でペルーへ向かった。離伯にさい
し、色摩力夫総領事らがホテルに別れの
挨拶に訪れ、空港には尾身倍一文協会
長、竹中正援会長、森永セルジオ前州
議ら多数が見送った。

少年野球団が国際大会へ
ブラジルの少年野球チームが七月末、
東京都立川市で開催の少年軟式野球国際
交流協会主催の国際野球大会に招待され
た。参加は日本、米国、韓国、台湾、フ
ィリピン、ブラジルの六カ国。ブラジル
に草野球が始つて以来六十八年ぶりの
ことである。

北島三郎さんが愛の手
来伯中の歌手、北島三郎さんにサンパ
ウロ市議会からアンシェッタ章が二月十

三日、同議会サロンで贈呈された。北島
さんは日本病院建設のため無料公演を引
き受けたなど、日系社会に数々の貢献を
した。なお、十五日、離伯にさいし、北
島さんは日本病院建設資金に百万円(約
五百萬クルゼイロ)を寄付した。

石本恵明師(日蓮宗南米別院開教総長
主幹)三月二日、肝臓がんで聖市南米別
院で死去。福井県出身、五十八歳。葬儀
は八日、同別院で。一九五四年度渡伯、初
代開教総長。

齊藤庄志氏(サンパウロ大学教授)八
年十月三十一日、サンパウロ市のシリ
オ・リパネンセ病院でガンのため死去。
宮崎県出身、六十四歳。一九三四年、渡
伯。エメイボ農事実習所をへて雑誌記
者、パウリスタ新聞編集長。サンパウ
ロ大学教授、神戸大学助教授、経済学博
士。ブラジル日本文化協会を中心活動。
日本移民史料館初代館長。「ブラジ
ルの政治」など著書多数。「伝記・峰谷
専一」が最終作となつた。葬儀は十一月
一日、行われた。日本政府は死亡時に
さか上つて勲三等旭日中綬章の授与を発
表した。

シカゴを愛する文化的実業家

内本

忠(うちもと・ただし)氏



大
久
保
忠

アメリカン・ネームはテッド。米国中西部の商都、シカゴのシカゴ日系人会長にこの春 八選された。一九一八年（大正七年）、加州スタックトンの農業・米太郎、シズ夫妻の二男に生まれた。父親は玉ネギ耕作で一儲けしたので故郷の広島県安佐郡安佐町（現、広島市）に家族とともに戻った。内本さんは一九三五年（昭和十年）まで日本で教育を受け、松本商業を卒業して帰米。白人の家庭でス

タード。米国中東部方面を三ヶ月ばかりで一巡してくる。セールスマンなので固定給は月五十ドル。売り上げの十%が歩合給となる。

「桑港を出て各地のお得意様をまわり、ニューヨーク、シカゴまで足をのばして、帰途は別のコースで戻ってきます。成績のいい時は、月二千ドルもの歩合給がありました」というから商才はあったのだろう。この仕事を日米開戦まで続け、アーカンソー州ローワ取扱所に入った。

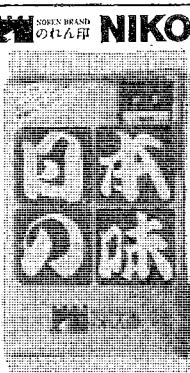
最初の夫人、波磨子さんがヒヨコのセックス・チャッカーだったので、一九四四年二月、収容所からミネソタ州に出て養鶏場で夫人とともに働く。間もなくシカゴに転住して軍需工場で一職工として汗を流した。シカゴの日系人は戦前、五百人前後で、マイノリティ中のマイノリティであったが、米国の転住政策によって、日系人は各地の収容所から続々とシカゴに集まってきた。一時は四万人近くにも及び、北クラーク街の一角は「日本村」といわれるほどであった。

クール・ボーイをしながらスタッフトン高校卒、サンフランシスコの日本貿易会社のセールスマンとなる。

車に陶器など日本雑貨の見本を積んで東部方面を三ヶ月ばかりで一巡してくる。セールスマンなので固定給は月五十ドル。売り上げの十%が歩合給となる。

「桑港を出て各地のお得意様をまわり、ニューヨーク、シカゴまで足をのばして、帰途は別のコースで戻ってきます。成績のいい時は、月二千ドルもの歩合給がありました」というから商才はあったのだろう。この仕事を日米開戦まで続け、アーカンソー州ローワ取扱所に入った。

現在、一万数千人のシカゴ日系人の中で個人所得はトップ・クラスに入る。成功の秘訣は「一所懸命正直にやる」のがモットーである。「日本の場合は、新規に製本業を始めても業界に食い込むのは難しいでしょう。こちらの場合には、競争は激しいけれど、新規のビジネスマンでも割り込めますね。全ては競争入札ですから。私のところにも見積りを専門にする社員が三人いて、いくらで落札するか一件ごとに計算して入札に当っています。時には計算違いをして損をすることもありますが——」とたんたんと語る。ここまでどこにもある商人の世界だが、内本さんは、日本文化の伝承に心を砕いている。自宅には、踊り場をしつらえ現夫の司友師（本名、ミツさん）が若柳流の師範でシカゴ司友会を主宰する。内本さん自身も海外で初の若柳流名譽名取を一九八二年末に受け、八三年七月、大阪



食品専門二幸が海外生活の皆様の食卓を日本の味で演出します。

海外で生活される方、海外出張の時に、日本の味がとても恋しいものです。日本の味シリーズは風味栄養価を損なわず、そのまま水又はぬるま湯で、簡単にもどる急速凍結乾燥(FD)食品です。軽量で無駄がなく経済的なので大変便利です。

ほうれん草・小松菜・長ねぎ・野沢菜漬・みつ葉・大根おろし
なす漬・わさび漬・あわせ味噌・納豆・きんぴらごぼう



海の幸山の幸
株式会社

二幸

お問合せ ☎ 03-542-5211
東京都中央区銀座7丁目13番10号二幸海外特需課

プラザ・ホテルで開催の祝賀会に招かれた。名前は安倍晋太郎外相や財界人ら六人を数える。内本さんは七人目。司友師はシカゴでお弟子さんに踊りを教えるだけでなくシカゴ市の民族舞踊祭はじめ銀座ハラデーなど日系のお祭りに一門をあげて出演するほか、遠くカナダのトロントやコロラド州デンバーにも出かけて伝統の踊りを披露する。東京・浅草から本格的な神輿を百数十万円で購入、市内にある日本料理店の板前さんらが日系の祭典に担いでねり歩く。京都から若柳流の家元を招待したり、歌舞伎の市川猿之助後援会を組織して支援を続け、自宅に日本のテレビ・テープ二千本を備え、実費で貸し出している。趣味で日本の芸能にうちこむ日系人は数多いが、かなりの私財を次々と投じて日本文化の紹介に当るビジネスマンはそうはない。

「日本の文化を日系の子孫に伝えたい。この地で日本文化の普及に努めることは、日米の国際交流を前進させるもの信じている。例えば、日系人が他の人種とビジネスをやるのに、日本文化を少



「チア青年二世研修訪日団の団長として里帰りした

徳留 清(とくとめ・きよし)氏

を務めた。

一九三〇年(昭和五年)鹿児島市生

まれの徳留さんは、戦後派移民である。

昭和二十三年、旧制鹿児島工業学校建築

科を卒業、国内各地の建築現場で働いて

いたが、近所に住む元海外興業会社の社

員、前田義彦さんのすすめで、ブラジル

に新天地を求めようと決意、昭和三十一

年にオランダ船「ルイス」号で第二回コ

チア青年八十七人とともに、五十七日か

かってサンクトス港に上陸した。最初はサ

ンパウロ市から六十キロ離れたイビウナ

の二世、植正雄さん方に就労した。四年

契約の雇傭農である。農地面積二十アル

ケール(約五十町歩)で、主としてジャ

ガイモを耕作していた。

「朝六時に起きて洗面をすませると、

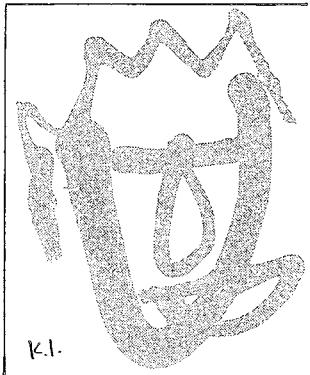
三千羽のニワトリに餌をやつて、朝食の

カフェになる。トラックターを使った

しでも知っていたなら、日系人とはどういう人種なのかも知ってくれているのだから、話はしやすくなります。私は日本人の血を受け、何かこの世に置きみやげをつくっておきたい。これが私たちの責任と考えています」

内本さんが熱っぽく語る文化論である。趣味は草花いじりと、気晴しの競

馬、ラスベガス旅行。一世が次第に少なくなり、老齢や仕事の都合で、元いた古巣の加州方面へ去り、ちとさみしいシカゴ日系社会であるが、内本さんはシカゴ新報社長で日系人会の副会長・菅野フランク武雄さんと絶妙のコンビを組んで、日系社会、日本文化普及のため心を砕いている。



14-1.

炒りたて、挽きたての味と香り

UCC レギュラーコーヒー

人と人

り、使用人たちのカマラーダ（日雇い）の監督をした。昼食は煙が家の近くなら家で、遠くなら烟ですませ、暗くなるまで仕事を続けた。私たちの雇傭契約たるや甚だしい加減な『ザル契約』みたいなもので、月給はあるようないみたいだった。タバコも買っててくれるし、何か本を読みたいといえば買ってくれ、家族的待遇は待遇だったが、きまつた月給はなかった。ただパトロンが二世で酒を飲まないので困った。たまには疲れて一パイやりたいと思い、町に出るとき、小遣いをもらっていた。そう、基本的に労働条件は第一回笠戸丸移民時代とかわらないといえるでしょう。けれど、私は、どこへいっても同じで、自分から進んでブラジルへ来たのだから泣きごとを言ってもはじまらないと思って一ヵ所で辛抱して独立しました」

「戦後派の青年移民と日系二世がサンパウロのガルボンブエノでしばしば乱闘さわぎをおこしましたが、福留さんも――」と聞くと、「そんなこと、ありましたね。昭和三十三年から三十五年の間のことです。私はサンパウロ市内にそう遊びに出ませんで喧嘩に巻き込まれなかつた。新来の日本人移民は裸一貫でいた連中なので向う気が強く、素早くて強かったから二世はかなわなかつたでしょう。それで二世たちは数を頼んでくり出し、関係のないコチア青年が五、六人、

ひつつかまつて袋叩きにあいました」と回想する。

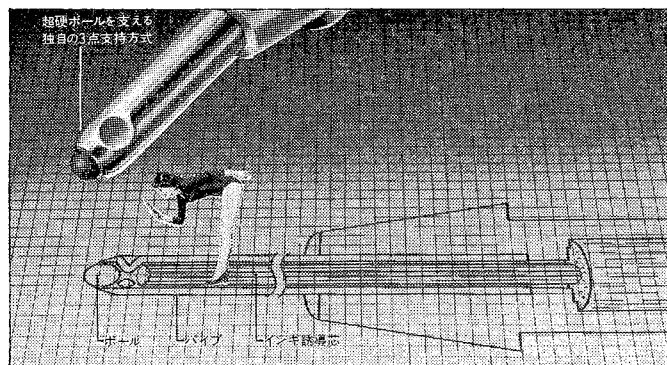
戦後の日本人移民史上、特筆されるコチア青年の歩みは、二世との乱闘事件のほか、暗い一面もあった。総勢二千五百人のうち病気、事故、自殺などで百三十人が死亡しており、このうち、異文化ショックと望郷から自殺者を六十人出している。

全体からみて異常に高いパーセンテージである。福留さんは「いわゆる田舎の模範青年はいけなかつた。いい意味での國太さがないとブラジルの大地で逞しく生きられません。今までいうノイローゼ、自閉症なのでしょう。こういう連中はさっさと日本に帰しました。帰ったらケロッと治ってしまう。たしか百数十人、帰国しました」と語った。

「けれど、日本に来ているブラジルの留学生もご同様に異文化ショックを受け、中にはノイローゼになるものもいますが――」と水をむけたら、「実はこんど日本にきて鹿児島にいるブラジルの女子留学生に会いました。彼女たちはボルトガル語が通じないので、毎日イライラしていて、私が鹿児島に行くと、遊びに来て半日間もしゃべり続けていた。別れぎわに、お菓子を買ってあげると泣いて喜んでいましたね」と、いうから、異文化ショックは日伯とも共通の現象といえ

る。「コンピュータ、原子力発電所など日本で先端科学を見学したかった」という学生。「美術館で絵画を見たかった」という女子団員ら、希望はさまざま。訪日の成果は、団員が自分と血のつながりを見つけたこと。「四十日足らずの滞在中に会えたこと。自分たちのルーツを見つけたこと。「四十日足らずの滞在でしたが、子供たちは実に日本語が上手になつた。一、二回の訪日団の場合、調べてみると母國訪問がきっかけで日本語の勉強をするようになつた二世が多い。将来の日伯交流のため、心強い。一人当たり参加費は三千ドルかかるが、金にかえられないものを体得した。農林省、日航など各方面にお世話をになりました」と福留さんは強調した。

現在、サンパウロで農産物の販売に当る。和子夫人との間に二男一女。何れも二世研修訪日団として来日している。ブラジル鹿児島県人会幹事、コチア青年連絡協議会副会長。これから相当時期は、福留さんの様な「コチア青年」が日系コロニアのリーダーシップをとることになるだろう。



書き味、新発見。 未来派の水性ボールペン。

筆記具は、ここまできました。ハイテックポイント。ステンレス・パイプに超硬ボールを着装し、走るようになめらかな書き味。筆圧にも強く、感圧複写もくらく、など、水性ボールペンのイメージを一新。100円であなたの手に近未来がやってくる。

この小窓が目じるし

PILOT Hi-Tecpoint

EXPO '85

Dwellings and Surroundings-Science and Technology for Man at Home



十ヵ月後に迫った夢の祭典 科学万博-つくば'85

日本で開かれる国際博覧会としては、大阪の日本万国博（昭和四十五年）、沖縄海洋博（昭和五十年）に次いで三番目。「人間・居住・環境と科学技術」をテーマに、未だ開催されません。

「科学万博-つくば'85」が、十ヵ月後の昭和六十年三月十七日から百八十四日間、茨城県筑波研究学園都市で開催されます。

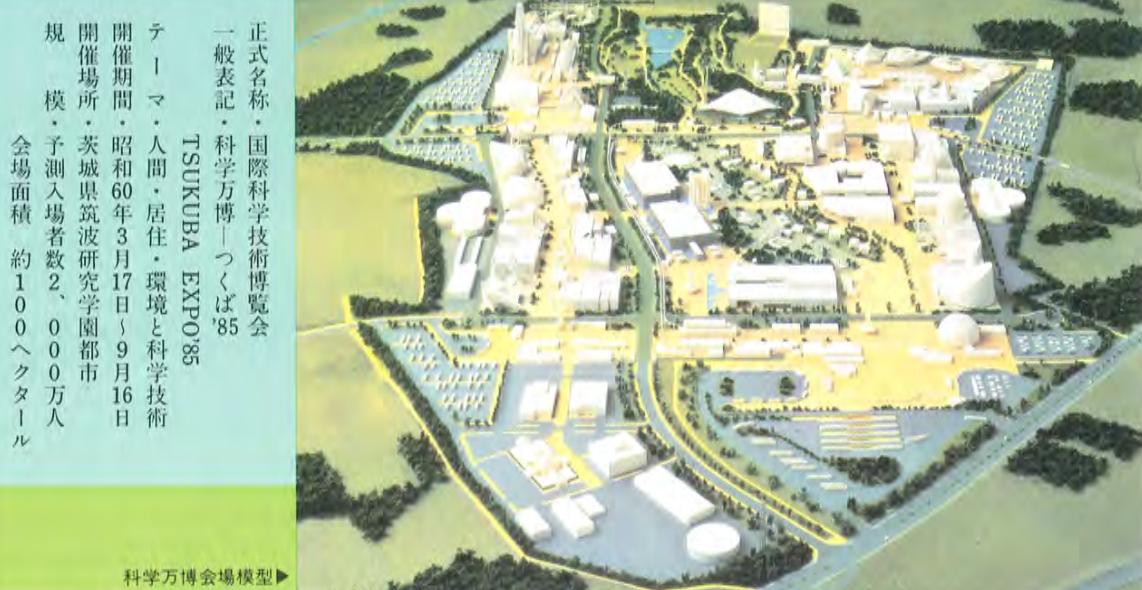
日本で開かれる国際博覧会には、日本政府のほか、国内から二十八企業・グループが出席。海外からも米国、ソ連、中国、英國、フランス、西独、韓国など二十六カ国と九国際機関等が参加を表明（三月末現在）、今後、さらに増えて四十カ国くらいになるだろうと予想されています。

この科学万博には、研究学園都市がある茨城県は、緑と水に恵まれ、古く万葉の時代から「常世の国」と呼ばれてきたところ。筑波山のふもとにある研究学園都市は、その恵まれた自然環境を生かして、国家的な事業として建設が続けられてきた新しい都市です。日本が世界に誇る「頭脳センター」として、約五十もの国の研究教育機関が活動しています。

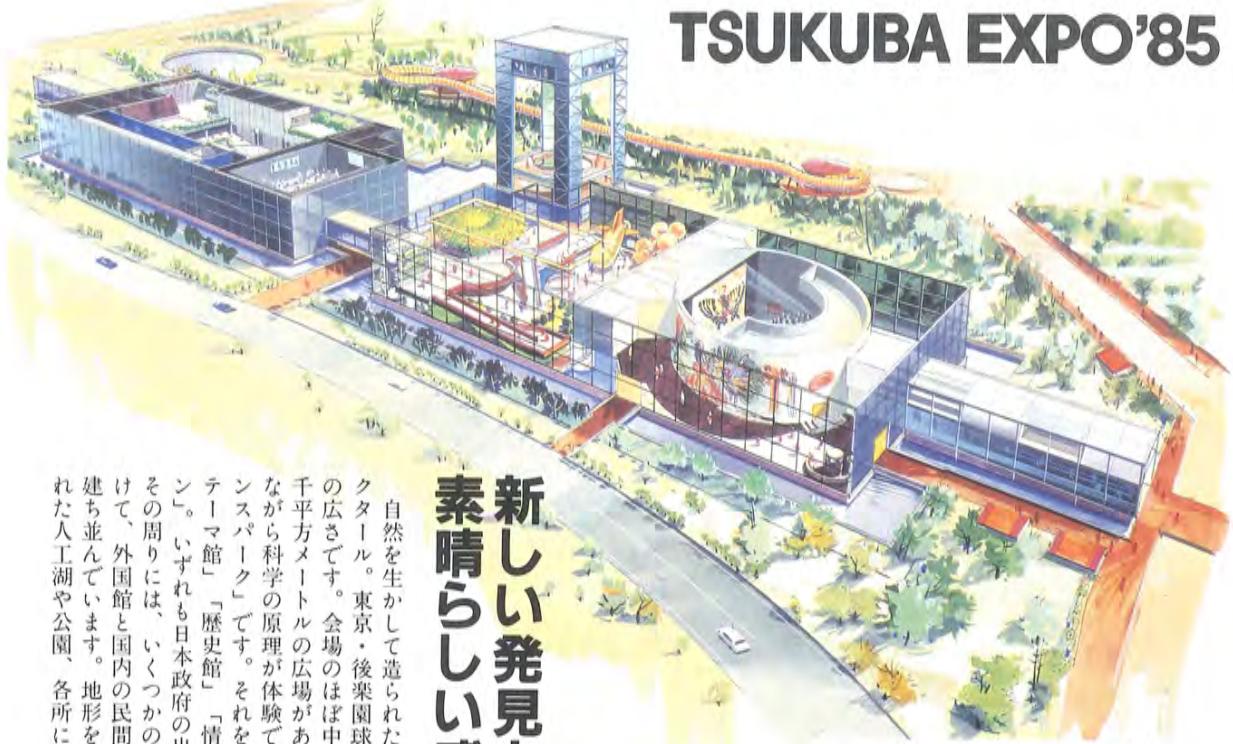
科学万博の会場地は、研究学園都市の中心部から西へ三キロメートル。東京から約五〇キロメートル、成田の新東京国際空港から約四〇キロメートルの地にあります。国鉄常磐線や常磐高速自動車道を利用すれば、東京から約一時間。新東京国際空港からは約一時間三〇分のところです。

十ヵ月後の開催に向けて、いま会場地ではパビリオン建設が急ピッチで進行中。人びとを驚かすさまざまの展示や楽しい催し物も、その秘策が練られている最中です。今回は、もうそこまで迫ってきた夢の祭典「科学万博-つくば'85」へ、一足早くみなさんを「案内」しましょう。

科学万



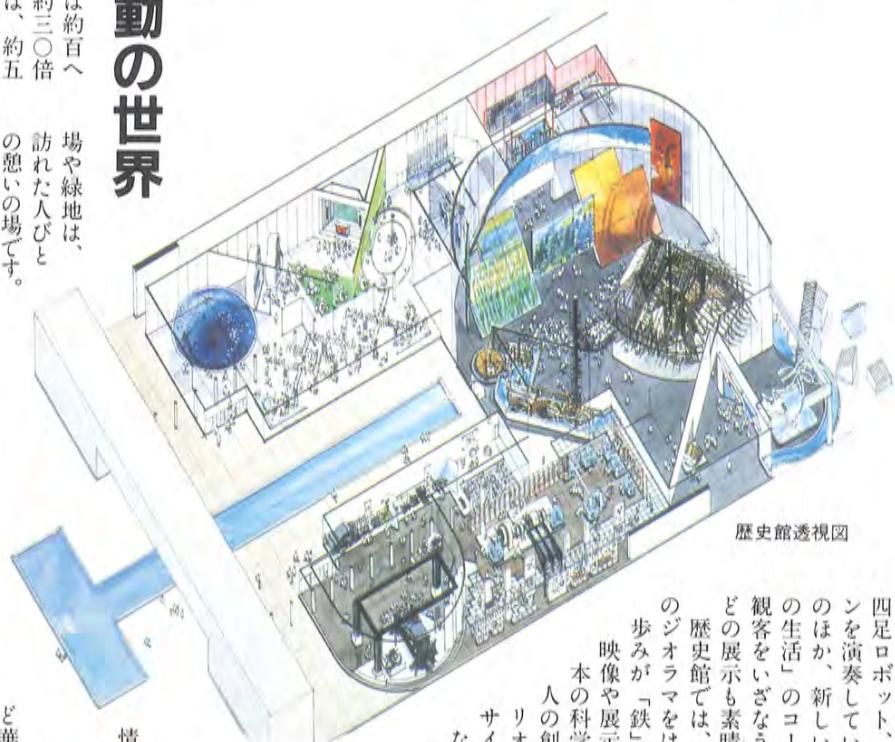
TSUKUBA EXPO'85



テーマ館全景

新しい発見と 素晴らしい感動の世界

自然を生かして造られた会場は約百ヘクタール。東京・後楽園球場の約三〇倍の広さです。会場のほぼ中央には、約五千平方メートルの広場があります。遊びながら科学の原理が体験できる「サイエンスパーク」です。それを囲むように「テーマ館」「歴史館」「情報ステーション」。いずれも日本政府の出展施設です。その周りには、いくつかのブロックに分けて、外国館と国内の民間パビリオンが建ち並んでいます。地形を生かして造られた人工湖や公園、各所に設けられた広



歴史館透視図

場や緑地は、訪れた人びとの憩いの場です。レストランや売店などいろいろなサービス施設もあり、快適に過ごすことができます。テーマ館に入ると、まず、自然に恵まれた日本の多様な国土をダイナミックな大型映像で紹介しています。人工の大滝、一万個もの真赤な実をつけたトマトの大木、ベルトコンベアで促成栽培する野菜工場もあります。また、二足ロボット、

四足ロボット、楽譜を読んで電子オルガンを演奏しているロボットもあります。そのほか、新しい科学技術が支える「未来の生活」のコーナー、広大な宇宙空間へのジオラマをはじめ、日本の科学技術の歩みが「鉄」と「稲」に焦点をあてて映像や展示で紹介されています。日本の科学技術の発展の特色と日本人の創意工夫がよくわかるパビリオンです。

サイエンスパークは、不思議な感覺にとらわれる「不思議ランド」、空中トンネルがある「サイエンスアスレチック」、遊び実験の広場「ラボランド」、日本列島を十萬分の一の大きさにした丘がある「コスモランド」と、楽しい展示がいっぱいです。

情報ステーションでは、開会式、ナショナルデーなどの公式行事、世界の祭り、地方芸能、演奏会など華やかな催し物がたくさん行われます。

日本政府の出展施設は研究学園都心部にも造られています。世界最大のプラネットariumなどの設備をもつ「つくばエキスポセンター」です。この施設は、博覧会終了後も恒久施設として残されるもので、日本の研究開発活動を十五カ国語で紹介するシステムも利用できます。



土光敏夫博覧会協会会長



会場地を視察される皇太子、同妃両殿下



岩田道行科学万博担当大臣



サイエンスパーク
サイエンスアスレチック 〈遊びと科学の空中トンネル〉などがあります。

* INSがひらく夢のあるくらし
科学する心を育む—21世紀への遺産
講談社ブレインハウス・ザ・ブレイン
くるま館 自由なモビリティを求めて
日本アイ・ビー・エム館
富士通パビリオン 人間・ゆめ・技術
TDKふしぎパビリオン 象昆蟲
科学する心・創造する心
エネルギーそして未来
テクノコスモス 超と極の世界

これまでに参加を決定した各国やこれから申し込む国々から、それぞれのお国柄を反映した多様な科学技術が紹介されることでしょう。宇宙開発の進んでいる国からは最新の宇宙開発技術など最先端のものが、また、独特的伝統技術をもつている国からも珍らしいものがなど、国際色豊かな展示が期待されています。

日本の二十八企業・グループが出展す

外國館は四つのブロックに分かれています。それぞれ、ヨットの白い帆のような屋根、メタリックでシンプルな造り、アーチ形のデザイン、障子風パネルの外壁と、ブロックごとに統一したイメージが特徴です。

これまでに参加を決定した各國やこれ

る国内館は、それぞれの個性を表現したデザイン。展示内容も映像と音響を中心には、アイデアを競い合っています。どちらも、それぞれのテーマに基づいて科学の楽しさ、おもしろさを体験させてくれることでしょう。

国内館とテーマは次のとおりです。

* いばらきパビリオン 今、新しい未来のために「自然・科学・人間」
* 日立グループ館 Interface—技術との自由な対話
* 東芝館 ヒューマンエレクトロニクス
* 滝の劇場・三井館 人と科学、人と自然
* 住友館 3Dファンタジアム
* 自然への愛・人間への希望
* ガスパビリオン 火・食・暮らし
* UCCコーヒー館 Good day! Nice friends!

* ダイエー館 诗人の家／人々みな詩人、物みな光る。詩と科学は兄弟なんだよ。
* サントリー館 鳥たちのいのち、私たちの明日
* 集英社館 遺跡と人間—その生命のいたるところ
* 健康・スポーツ館(デサント・スズケン・大塚製薬) 健康とスポーツを科学する
* KDDテレコムランド
* ふれあい・いまグローバル
* ハートピア・自然美のパビリオン
* 自然—造型の秘密
* SONYジャンボトロン



つくば エキスポセンター
筑波研究学園都市都心部にある政府出展施設。
多目的映像スタジオには世界最大のプラネタリウムがあります。

全国で盛り上がる科学万博ムード

科学万博開催の一年前にあたる三月十七日、「科学万博を成功させよう」を合言葉に、東京・内幸町の日比谷シティにて「科学万博開催一年前まつり」が開催されました。

記念式典では、土光敏夫博覧会協会会長が「立派な博覧会にするため全力を尽したい」と決意を表明。海外参加各国の子どもたちも美しい民族衣装で出席し、日本の子どもたちから「一年後に会場で会いましょう」と入場券のプレゼントを手渡されました。この一年前まつりでは、博覧会会場で二千万人もの観客を迎える協会コンパニオンなどのユニフォームを披露する華やかなファッショショーンショーも



科学万博開催一年前まつり

開催。日本の美しい四季の色の中で映える白をテーマにした接遇・通訳コンパニオンのユニフォームなど、科学万博にふさわしいデザインが人びとの目を楽しませていました。また、観客輸送に携わる国鉄上野駅駅長や航空会社のスチュワーデスたちも参加して、科学万博への期待のメッセージを述べました。さらに、この日から、東北・関東・中部・近畿の国内各地方を訪問し科学万博をPRする「科学万博ドリームキャラバン」の出発式も行われました。最初の訪問先、東京都庁へ向けて出発したパレードは、一年後に迫った科学万博を賑やかにPR。道行く人々との関心を集め、科学万博ムード



協会コンパニオンユニフォーム

を盛り上げていました。

一年前まつりが華やかに盛り上がった三月十七日、科学万博の第二期前売入場券が発売されました。期間は八月十六日まで。全国の旅行会社、プレイガイドなどで販売されています。第二期前売入場券が発売された第一期前売入場券は好調な売れ行きを見せ、最終日の二月十六日までに予想を上回る二百二十万枚が販売されました。

なお、開催一年半前の昨年九月十七日から発売した第一期前売入場券は好調な売れ行きを見せ、最終日の二月十六日までに予想を上回る二百二十万枚が販売されました。

あと十ヶ月に迫った科学万博。これらも科学万博を盛り上げる、いろいろな楽しい企画もあり、筑波山のふもとの会場地では、急ピッチで建設が進んでいます。今世紀最後の日本での国際博は久々の感動を呼び起こすことでしょう。



科学万博ドリームキャラバン

券の料金は、大人（満二十三歳以上二十二歳未満）三百円、中人（満十五歳以上二十三歳未満）一、一九〇円、小人（満四歳以上十五歳未満）六〇〇円です。

三〇〇円、中人（満十五歳以上二十三歳未満）一、一九〇円、小人（満四歳以上十五歳未満）六〇〇円です。

Video Shodo Correspondence Course



世界中で習える

ビデオ書道通信講座

日本の伝統美、書道。優雅で知的な趣味として、あなたの父祖をはじめ多くの人に愛されてきました。この美しい書の世界を体験してみませんか。

日本の通信教育界のパイオニアとして、65年の実績を誇る「東京書道教育会」。そしていま、通信教育『ビデオ書道講座』が開講。日本を遠くはなれてもビデオ画面を通じて、日本書道界を代表する先生がたが個人教授。その上、清書作品の添削など責任をもって完全指導。初めての人でも短期間に確実に上達できます。

ビデオ書道講座 初歩から順を追つて教育書道の権威
続木湖山先生が懇切ていねいに指導されます。
噛みくだいたわかりやすいお話、きめ細かな指導、巧みを極めた筆使いが、あなたを確実に上達へと導きます。ビデオを活かし、基礎から作品創作、暮しへの応用など十分に学べ、書の深い奥義や味わいが楽しめます。楷書コースと行書コースがあり、どちらも標準修了期間6ヵ月。

ビデオかな書道講座 平安朝の美“かな”的入門から作品創作、暮しへの応用、かなの鑑賞など、“かな”的すべてを学び、水墨のあともうるわしい優雅な美を習得します。女流かな書家の第一人者宇賀寿子先生が優しく責任指導、初めての方でも安心して学べます。標準修了期間6ヵ月。

◆『ビデオ書道講座』『ビデオかな書道講座』ともビデオテープ3巻と習いやすい半紙大テキスト3巻で構成されています。◆課題ごとに清書を提出すると懇切な入朱添削と成績評価が14回受けられ、しかも永久指導制ですから、その後も納得ゆくまで学べます。※ビデオテープはVHS標準モードとBIIを用意しておりますが他のタイプについてもご相談に応じます。

続木湖山先生略歴：明治44年愛知生。愛知県第一師範学校卒業。文部省検定試験「書道」合格。山梨師範学校助教授、東京第一師範学校教諭、東京学芸大学教授等歴任。文部省委員（昭和24年～現在）
現在 東京書道教育会理事長／帝京大学教授／毎日書道展審査会員
宇賀寿子先生略歴：明治35年東京生。東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）文科卒業。女子学部助教授、東京女子学部、桜陰学園講師等歴任。
かな書家、歌人。文化熱愛家。芸能界上柴舟直系の高弟
現在 東京書道教育会理事／慶應大学書道会講師／学習院常盤会講師

◆ 日本国内 45,000円
受 海 外 (合衆国・カナダの例)
講 56,000円 (教材送料、清書返送料および採点評価料、銀行振込手数料を含む)
料 ◆ 《詳しくは無料案内書をご覧ください》

案内書無料急送!!

ハガキに①ビデオ案内書希望②〒住所③氏名④年齢⑤職業
⑥電話番号⑦在住年数(海外の方のみ)を明記して右記へお
送りください。お電話でのご請求。お問合せもどうぞ。

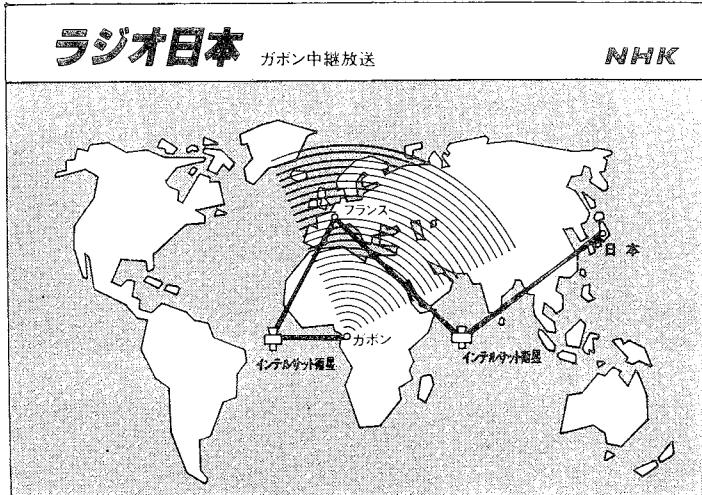
〒151 東京都渋谷区代々木
一丁目27の979の5

◎ 東京書道教育会

☎(03)370-6261

日本の主張・世界の声——N H K 国際局

ユニークな「ラジオ日本」投書番組



最近の日本をめぐる様々な対外摩擦の発生をみると、相互理解の欠如、特に日本側からの情報伝達の不備から誤解を招いている場合が多いことは否めないようだ。

外務省が昨年四月に行つた対日世論調査によると、米国の有識者の八十五%は「米国大衆は日本をあまり知らない」と回答している。日本を比較的よく知っていると回答したアセアン五ヶ国の国民でも、よく知っている分野は何かとの問い合わせに対しては「日本製品」を挙げる者が圧倒的に多く六十四%から八十七%。以下、「日本の文化、芸術、歴史」が十一%から十七%、「日本人の生活、ものの考え方」については八%から十一%と大きな落差がある。

日本でただ一つの国際放送「ラジオ日本」としては、ひたすら奮闘すべき状況だ。

長年の夢である「聞こえる国際放送」への大きな足がかりが、この四月から実現した。

ポートガルのシネス中継局に次いで

二番目の中継局がアフリカ・ガボン共和国のモヤビ送信所に設置され、中東、欧州地域を中心に非常に安定した状態で受信できるようになったことである。近い将来には、海外中継局をさらにパナマと東南アジアに各一か所ずつ設ける他、国内の送信所の増力も検討中だ。

これらの計画がすべて実現すると、ラジオ日本の電波はほとんど全世界くまなくカバーできることになる。当然、ニュース、番組の時間、内容ともに大幅な前進が伴ってこそ、国際放送の真価が發揮されることは言うまでもないことである。

誤解を理解に

「ラジオ日本」はニュースの他、政治、経済、社会の現状を伝える報道番組、各分野の平均的日本人を紹介する「ある日本人」や「東京だより」などのインフォメーション番組、「ヒットソング」などの音楽番組、日本語の普及をはかる「やさしい日本語」「正し

「ラジオ日本」受信改善の第一歩へ

N H K 国際局 高 濑 善 平

本誌「海外日系人」の昨年5月号に「小さな声への大きな期待『ラジオ日本』」という小文を掲載し、国際放送の改善計画の動きをお知らせした。その後海外の多くの方々から受信改善計画を早急に実現せよと激励の手紙が相次いだ。ブラジルの猪瀬次朗さんはじめ、十数人の方々は、各人熱意のこもった受信改善要望書を外務大臣はじめ関係機関に送られた。中でも私ども国際放送の直接の担当者をいたく感激させたのは

八月十八日、毎日新聞の「編集者への手紙」に掲載された(海外放送の

電波強力に! 賴みの『祖国の声』聴き取れず)というブラジルの設楽昭五さんの格調高い論文であった。

このような内外の強い要望と支持をうけて、N H K の国際放送(ラジオ日本)の受信改善計画の第一歩が踏み出されることになった。

三月初旬より衆参両院で審議が統一され、N H K の昭和五十九年度の予算と事業計画が三月三十一日参議院本会議で可決承認された。

これにより「ラジオ日本」ではアメリカのガボン共和国の送信所を借りて新年度番組のスタートと同時に出力五百K Wで中継放送を開始したのである。

N H K の国際放送は茨城県のK D D 八保送信所から最大二百K Wで電波を出し、全世界へ向けて放送しているが海外での受信状況は十分でな

く、日本の国際理解を進める上でも受信状況の改善を望む強い要望が内外から寄せられていた。このため、N H K では郵政省、外務省、K D D 等関係機関の協力を得て国際放送の拡充強化について検討を続けた結果五十九年四月からガボン共和国のアフリカ・ナンバーワンの送信所を借用して出力五百K Wの中継放送を開始することにした。この他四年計画で八保送信所の送信設備として新しく三百K Wと百K Wの送信機、それぞれ四台を設置する計画がまとまりた。

ガボンからの中継放送は、欧洲、中東地域へ向けて日本語、英語各二

時間それにロシア語、スウェーデン語、ドイツ語、フランス語、イタリ

ア語二時間、合計六時間放送していくもので、これにより欧州地域、中

東地域の他アフリカ北部、アジアの一部の受信状況は飛躍的に改善され

ている。

N H K の国際放送はこのような受

信状況の改善とあわせて、放送内容

の充実を求める聴取者の要望にこたえて、一日あたり放送時間を三時間ふやして四十時間として、新しく十五本の番組を編成した。

「国際放送の役割と私の提言」など。

毎週一回二十一の言語で放送してお

り、毎月千通近い投書の中から厳選し

たものばかり。投書を寄せた国の大

きらに将来に向けて中米、東南ア

ジアにもそれぞれ中継基地を確保す

ることが検討されている。海外の邦

人の方々の変らぬ、力強いご声援を

あらためてお願ひする次第である。

でもN H K のテレビ、ラジオを通じて

く話そう」など数多くの番組を放送している。

中でも、ユニークな存在は、「日本

の主張・世界の声」という投書番組。

毎月共通のテーマについて、日本国内はもとより世界中から意見を投書で募り、日本に世界中から意見を投書で募って紹介しているもの。

共通のテーマをめぐって、考え方の異なる各国の人々の意見の交流をは

かる国際討論の場を提供。国民性、人種、言語、生活習慣、宗教などの違い

や誤った先入観など、相互理解の妨げとなっている要因を浮き彫りにする。

ひいては、日本人の考え方や日本の立場を正しく外国の人々に理解してもら

うのが番組のねらいだ。

この番組が登場したのは五十七年四月から。二年間でとりあげた主なテーマを紹介しよう。「貿易摩擦と日本の立場」「広島・長崎に想う」「高齢化社会をいかに生きるか」「地球の緑を守るために」「十代の非行を考える」「女性の社会参加を考える」「南北問題と日本との役割」「核軍縮をすすめるには」

「国際放送の役割と私の提言」など。

番組の内容をちょっと紹介してみよう。

「少ない資源と、多くの人間をかかえながら上手に生きていく」という日本人の才能には、世界中の人々が、まだまだ学ぶところがたくさんあります。

その才能が、日本でどのように活かされているかを他の国々の人間に説明し、わかってもらうことが、大変むずかしいということです。ですから日本が抱えている最大の問題はコミニケーションの問題なのです。

日本には「沈黙は金」ということわざがあります。しかし、残念ながら、

この沈黙が日本にとっての最大の問題なのです。西洋では、理解を求めないで沈黙していることは罪ですから、

沈黙は金ではなくて、メッキのま

行っている。特に国内のテレビを通じての投書募集は、短波の特性上、日本

、「ラジオ日本」の放送を聞かれない人たちに、国際放送の存在をP Rす

るのに大いに役立っている。その証拠に、投書の六十分は国内の日本人から

のもので、ぜひ放送を聞きたいとの要望や問い合わせが相次いでいる。もち

ろん、国内のN H K のラジオ番組でも、採用者の投書を紹介する時間を設けているのだが。

がい物なのです。」(五十八年三月放送)

ます。

「テーマ」と注文をつける投書もみられます。

ペイン人大学教授の日本人へのアドバイスでしめくくりたい。

「長びく貿易摩擦を解消するには」この物わりのよい意見を寄せたのは、摩擦の最大の相手米国の実業家で在日中の方。

年間数通と投書のまれなソ連のイルクーツクのリストナーからは「かつて、日本製品は粗悪品の代名詞でしたが、今や品質の良さと優れたデザインで競争相手を負かし、人間の生活様式の変化に迅速に対応しています。日本製品は実用的で耐久性に優れ、何よりも他に比べて安価です。

欧米やアジアの国々の人々は、その愛国心とは裏腹に日本製品を愛用しています。

競争力の問題を解決するには、日本製品を排斥することによってではなく、自國の生産性の向上や人間の生活の中で起こっている変化に絶えず気を配ることが必要だと思う。」

アジア諸国からの投書には、日本の

製品と高度な技術に対する賞讃の声が、それぞれの文字の間から飛び交う。そのすぐ後に、自國の経済の行方を案づるうめきが聞こえてくる。

「オランダのどんな店でも日本製品が買えるが、日本ではいいたいどこでオランダ製品が買えるだろうか」「もっと我々にも日本市場を開放せよ!」と叫ぶ欧米からの投書も多い。みかんの産地の日本の中学二年の女子も訴え

「テーマ」と注文をつける投書もみられます。

ペイン人大学教授の日本人へのアドバイスでしめくくりたい。

確かに、テーマがこの番組の生命だ。

それだけに、これを決めるスタッフは何度も議論を戦わし、募集ギリギリまで悩むことしばしばである。三年目を迎えて定着したのを機会に、テーマも内外に呼びかけ、身近なものも衆たちには、日本の農家のよう困ってしまうでしょう。失業者が増えれば、不景気はますます深刻になるはずです。やはり、輸出もあるところで限度が欲しいと思います。数年後には私たちも何かの仕事につかなければなりません。将来、私たちが失業しないためにも、輸出は国どうし、お互いにある程度の自重が必要だと思います。」

もっと摩擦を

最近、「ルック・イースト」をかかげる東南アジア諸国ばかりではなく、歐米の若手のビジネスマンの間にも、「ニッポン参り」が流行していると伝え聞く。事実、あの自國の文化にひときわ誇り高いフランス政府までもが、

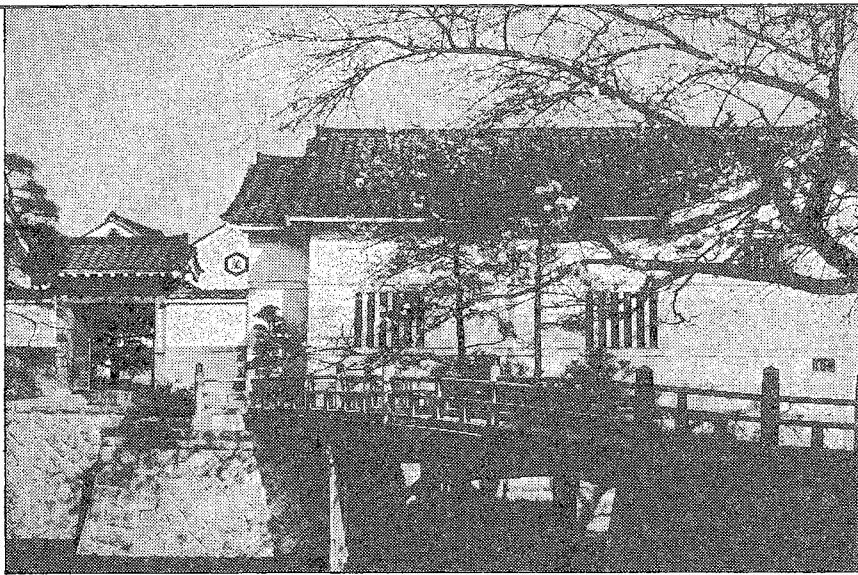
エリート官僚候補生を日本に送り込んで、経済大国ニッポンの「経営」の秘密を探ろうとしている。来月(六月)ロンドンで開かれるサミットも十回目を迎えるが、カメラにおさまる日本の首相の位置も回を重ねることに真ん中で唯一の番組では「など、おおむね好評だ。中には少数だが、「テーマが大きすぎる」「まじめすぎて退屈する」とのないよう、軽い、ユーモアのある

この番組には、多くの反響が寄せられている。「大衆参加のほかに類をみないユニークな番組」「日本人の考え方方が良くわかる。こちらも日本に対しても思い切り注文が言える」「地球上の重要な問題を取り上げて討論する世界で唯一の番組では」など、おおむね好評だ。中には少数だが、「テーマが大きすぎる」「まじめすぎて退屈する」とのないよう、軽い、ユーモアのある

最後に、この番組で放送した在日ペイン人大学教授の日本人へのアドバイスでしめくくりたい。

「日本の文化は『調和』の文化であり、それは非常に高く評価されています。しかし日本が、その『和』の文化を守り続けていくとしたら、国際的なにならないと私は感じます。日本人は個人としても国家としても外国人との摩擦をおそれています。しかし摩擦しないかぎり親しい関係は生まれないのでないでしょうか。(中略)初めて日本に来た時は、日本人の人たちはみなニコニコして私たちを迎えてくれます。こんな親切な国民は他にあまり見当たりません。しかし、10年、20年たっても、その関係が深まるということはありません。いつもちょっとと距離を置いて、私たちを見ていています。日本人はその摩擦をおそれているのではないか。日本は摩擦をおそれないで、他の国やその文化と摩擦して、互いに理解し合えば、もっと、もっと、心の豊かな日本人が生まれてくるのではないかと思います。

文化と文化の間に摩擦があつてこそもつと創造的な段階に入ることができます。その意味で、日本人は将来に向かい、他の文化との摩擦を起こしてもらいたいと私は考えるのです」



千葉県・野田市
宮内庁御用醤油醸造所

しっとりと胸にしみる日本情緒とあわせて伝統あるキッコーマンのしょうゆつくりを
ごらんになりませんか 生産高・世界一をほこる近代的な工場、日本情緒豊かな
御用倉…と日本の旅がいちだんと楽しく充実します



KIKKOMAN

Security Communication
SECOM®

SECOM®

安全システムの歴史はセコムから始まりました。

Security Communication

セコム株式会社

本社／東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル⑩160
TEL(03)348-7511(代)

約束を守ることを信頼のきずな。

ポーラは大切にします。

みなさまのお宅におうかがいしているポーラ
レディは、心のかようおつきあいをしていま
すでしょうか？ 信頼あふれるおつきあいの
ために、ポーラが最も大切にしていること。
それはお客様との「約束」です。おうかがい
する時間、商品をお届けできる日時、アフタ
サービスのお約束、どんな小さな約束もきち
んと守る……それがおつきあいのマナーであ
り、ルールだと考えています。ポーラレディ
の一人一人は、しつかりとこの考え方を身につ
けておうかがいしております。

たとえば、新しくポーラレディになる人た
ちは「ポーラ・ビューティスクール」で、自分
を磨き、美しくなる第一歩をふみだします。
お客さまに喜んでいただくための美容の専門
知識はもちろんのこと、マナーや責任感など
心と心がふれあうおつきあいに欠かせない
いろいろな約束事を身につけるのです。当りま
えのマナーをキチンと心にしまつてある人……
そんな言葉をいただいたら、うれしい限りです。

どうぞ、こんどポーラ
レディがおうかがいしま
したら、お気軽に声をお
かけください。ポーラは
みなさまとのあたたかい
おつきあいを通して、美
しい暮らしのお手伝いを
いたします。

ようこばれることに よろこびを…

POLA
ポーラ化粧品

〒141 東京都品川区西五反田2-2-3 ☎(03)494-7111

みなさまのお宅におうかがいしているポーラ
レディは、心のかようおつきあいをしていま
すでしょうか？ 信頼あふれるおつきあいの
ために、ポーラが最も大切にしていること。
それはお客様との「約束」です。おうかがい
する時間、商品をお届けできる日時、アフタ
サービスのお約束、どんな小さな約束もきち
んと守る……それがおつきあいのマナーであ
り、ルールだと考えています。ポーラレディ
の一人一人は、しつかりとこの考え方を身につ
けておうかがいしております。

たとえば、新しくポーラレディになる人た
ちは「ポーラ・ビューティスクール」で、自分
を磨き、美しくなる第一歩をふみだします。
お客さまに喜んでいただくための美容の専門
知識はもちろんのこと、マナーや責任感など
心と心がふれあうおつきあいに欠かせない
いろいろな約束事を身につけるのです。当りま
えのマナーをキチンと心にしまつてある人……
そんな言葉をいただいたら、うれしい限りです。

どうぞ、こんどポーラ

レディがおうかがいしま

したら、お気軽に声をお

かけください。ポーラは

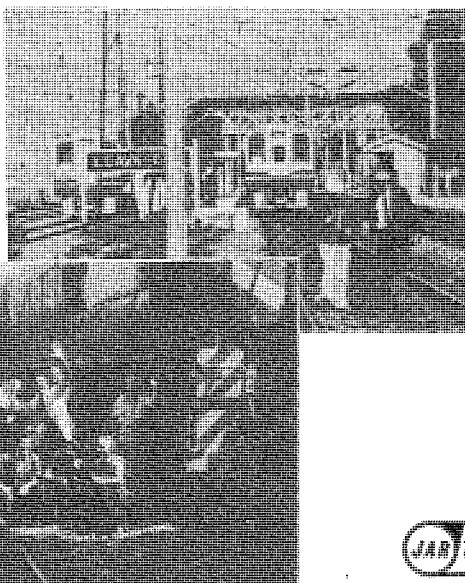
みなさまとのあたたかい

おつきあいを通して、美

しい暮らしのお手伝いを

いたします。

海外で鉄道建設のお手伝い



上：アルゼンチン国鉄・ロカ線電化車輌試運転
下：ブラジル連邦鉄道・貨車振動試験

当協会は、海外諸国における鉄道の建設、改良および運営等に関し、鉄道技術の総合コンサルタントとして協力を行ない、当該国の社会開発、経済開発に寄与することを目的とします。



社団 海外鉄道技術協力協会

〒100 東京都千代田区大手町一丁目6番1号
大手町ビルディング 5階
電話 03-213-2331

皆さんに愛飲され、親しまれているヤクルト。きょうもヤクルトの婦人販売店が大切におとどけています。日本で生まれたヤクルトは、いまやブラジルをはじめ海外8カ国の人々にも親しまれている乳酸菌飲料です。国やことばはそれぞれちがっても、健康を願う気持にかかりはありません。



株式会社ヤクルト本社・東京都港区東新橋1-1-19
〒105 ☎03(574)8960
ヤクルト



あなたに……
に……

- 800名様までの日本料理。
フランス料理着席ご披露宴。
- 庭園での記念写真も随時お撮りいただけます。
- チャペルでの挙式。
- 最新機能の音響・照明設備。

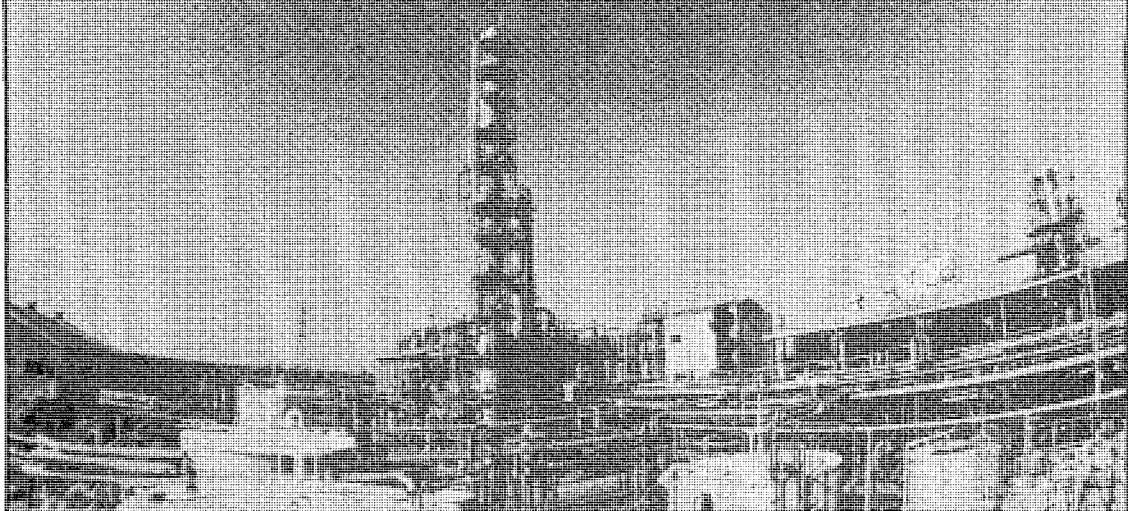
CHINZAN-SO
精山荘

☎03(943)1111
〒112 東京都文京区関口2-10-8

© 精山荘



かな暮しに美しい匂い。



高砂香料

本社／〒108 東京都港区高輪3-19-22 電(443)1311

大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島・静岡・ニューヨーク・モリシングガホール・サンクトペテルブルク・莫斯科・上海・ペレシンドネシア

5万平方メートルの緑につつまれた大庭園

いつまでも心に残る宴。



5万m²にもおよぶ八芳園の庭園。四季折々の樹木、花が咲きつどう中で伝統の日本料理や本格フランス料理を味わう気分はまた格別です。ご商談や外国の方のおもてなしをはじめ各種ご宴会、パーティーにお気軽にご利用ください。

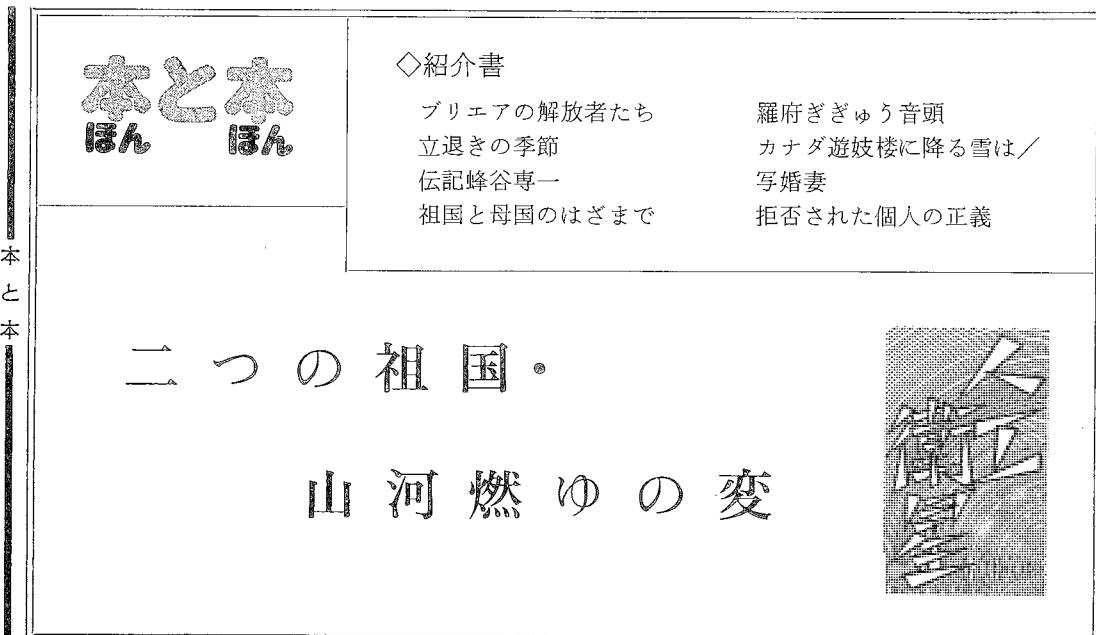


結婚式場・園遊会・各種宴会・レストラン



八芳園

東京都港区白金台1-1-1 TEL443-3111(代)



山崎豊子の「二つの祖国」と、これを原作にしたNHKテレビ大河ドラマ「山河燃ゆ」が様々な意味で波紋を広げている。しかし、この二つの作品を一緒にして語ってはならない。原作とテレビ・ドラマの脚本は全く別ものである。しかも、それが却ってまた新しい問題を提起するのだが、まず原作からとりあげてみよう。

山崎は新潮社版上・中・下三巻の中で「登場する作中の主人公とその家族、友人などは架空の人物である」「歴史的事実を再構築したフィクションである」としつつ、い位に断わっている。何故、こういわなければならなかつたのか。「二つの祖国」は、いかにフィクションで、あると強調しても、読むものは誰もそう思わない。まぎれもないノンフィクションである。しかも、虚実とりまぜた質の低いノンフィクションだ。NHKが飛びつかなかつたら、後世、凡作として人の記憶から忘れられる正体不明の作品である。

何故、ノンフィクションであるかといふと、登場人物が、実名ないし実名をちょっとともじつた仮名で登場している。東条英機、広田弘毅、木戸幸一らA級戦犯、ウェーブ裁判長、キーナン首席検事、鶴賀聰明弁護団長ら東京裁判関係者がすらりと実名でならび、判決文の翻訳に当った横田喜三郎東大教授が横山喜三郎に、米陸軍情報部語学校

の教官、ジョン・F・相撲はオーラン・相川に、米国中央日本会員時局委員・清水三彦が羅府天羽賢治が編集長をしていな「加州毎日新聞」は「加州新報」と書きかえられている。天羽賢治は、実存の伊丹明をモデルにしている。さらにアメリカ各地の収容所がすべて実名で出している。チョンマゲの時代小説ならともかく、ついこの間起こった史実であり、いまも数多くの関係者が生きている。現に卷末に、日本語の文献百五十九点、英文の文献を二十点ほどがあげられている。山崎がフィクションといいうのなら、何故かくも多数の文献をあげなければならないのか。これではノンフィクションであると自白しているのも同然である。

この作品がフィクションかノンフィクションなのかはともかくとして、問題なのは「二つの祖国」を書いた意図は何であつたかである。一九八三年九月十七日、ロサンゼルスで日系人九百人を前に、山崎豊子は「二つの祖国」の出版記念講演会で述べた録音テープを聴いてみた。この内容と「海外日系人」誌第14号に収録されたJACL日本支部主催の晩餐会における山崎のスピーチを要約すると、こうなる。

①執筆の動機は、日本人が経済的に豊かになつた反面、心が絶

貧しくなつた。アメリカで日系人に会い、日本の日本人に祖国愛が欠如していると痛感した。これが執筆の動機である。(2)一世も二世も私と同じ血を分けた同胞だと思っている。その日系人が強制収容などで屈辱をなめたことに怒りを感じ、このことは文学の形で残したいと思つた。(3)真珠湾奇襲はジョン・トラン報告によると、日本側のだまし討ちではなく、アメリカ側が仕掛けた罠で、日本がこれにひっかかった。(4)戦犯裁判は勝利者の一方的裁判であり、日本側は反論できなかつた。

山崎は「私の考えは反米ではない」としながらも、この様に第二次大戦についての「史観」を述べている。一種の祖国愛である。個人がどの様な史観や主義をとろうと自由ではあるが、この底には「大東亜戦争肯定論」が脈うっているのではないか。

日本人的感覺で祖国ニッポンを憂えるのはよろしいけれど、二世は日本人の血を受けていても、れっきとしたアメリカ人である。それに真珠湾戦説も消えていないが、また歴史的に結論は出ていない。ここ十年前位から、アメリカの戯説が抬頭して注目されていることは事実だが、あの様な奇襲を予想してアメリカが真珠湾をわざと無警戒状態においてだと考えるのは早計である。人間の生命、とくに自國民の命を重んじるのが米国

本と本

ペン・ペン草

シカゴに住む愛媛県出身の老バイオニア、菊池直記さん（明治三十九年）の回想では、一九〇六年（明治三十九年）当時、シカゴで日本人娼婦二十人が一つの館に囲われ春をひさいでいた。（月刊「歴史と人物」六月号）明治三十九年から四十年代當時は、西シベリア、中国大陸、東南アジア、マダガスカル

つまり、ニッポン娼業株式会社の在外企業であった。日本製品で海外で売れるものはシルク、陶器、茶、竹細工、工程簿等で、今日の様な自動車もテレビもない。言いかえると輸出するものは、雑貨か娼婦をいし移民しかなかつたといえ
る。

スカル島、ケープタウン、さらにはカナダ、アメリカ各地に三千人を越す日本人娼婦集団が出現ぎにいた。香港辺りで「一宵下等で五ドル、上等で十ドル」とある。日本人娼婦の軌跡をみると、単独で海外へは出かけてはない。必ずといっていいほど“添乗員”的な男女がついていている。しかも、現地側に売り渡すではなく、日本から業者が出てきて娼婦たちを管理しながら“娼業”を営んでいる。その数、男女あわせまして三千人を越す。シカゴの娼婦二十人は、柴田忠二郎という静岡県人が抱えて

東南アジアゆきの「からゆき」から、「からシベリアゆき」の「きさん」から、「カナダ、アメリカゆきの「あめゆきさん」、さらには「カナダ、アメリカゆきの「あめゆきさん」と分けられた。ところが、最近は、かつて娘子軍の「送り手」であったニッポンが、「受け手」にまわり、フィリピン、香港、台湾などから続々と来日して夜の花を咲かせている。彼女らを「じやぱゆきさん」と言うのだそうなのだ。
「受け手」にまわったからといって、これは歴史の逆転したる早計である。女の歴史からいえば、歴史は繰り返している。(Z)

統領の政治的生命であること
歴史が示している。
さらに、日系人を不法にも強
きに取扱い、無惨な原爆を投下し
勝利を收め、あまつさえ、一
般的な戦争犯罪人裁判をや
り、とキメつけるならば、大東

亞戦争 “肯定論”から、さること
戦後の民主主義体制の否定に
ながって来る。これは歴史で
不遜な挑戦である。
いうまでもなく歴史小説を
し歴史ドキュメンタリーは、
二次大戦という短期間だけれど、

٤

あげて描いては大きな誤りであつた。」

底して反抗して隔離された報国

る。

あげて描いては大きな誤りである。何故、日米が戦争という忌わしい事態に突入したのか。それは今まで一世や二世はどのよう日本やアメリカとかかわったのか。日本は一世や二世にどうの様に接してきたのか。アメリカ史、日本史、移民史の三本柱の中で追いつめないと実相が浮かんでこない。問題は日露戦争以後にあつた。山崎は巻末に日本語の文献、だけで百五十九点をあげている。が、この中でまともな移民史は「南加州日本人史」がただ一点あるだけだ。ということは、日本人移民史を素通りして一世と二世を道具まわしに使い戦犯裁判の批判をやつてのけたことを意味する。

作品の出だし「第一章・ジャッブ」の項で、アリゾナの収容所で日本人一世と日系二世が、スローン一本をなくしたとして、米軍は全員を素っ裸にして、百度を超える戸外へ整列させた——と書いている。アメリカの戦時収容所は大別して二種あった。一つはF B I に捕つたインタニー（捕虜に相当する抑留者）が収容されたキャンプと、太平洋岸からの総立ち退きで収容された一般キャンプである。アリゾナ州にはヒラリバーとポストンという二つの一般キャンプがあつたが、ここで素っ裸にしてスローン探しをやつたという事実はない。もう一つアリゾナ州内にループというキャンプがあつたが、ここは、アメリカに徹底して反抗して隔離された報国青年団の二世だけを収容したイノディアン・リザベーションの小学校跡であり、一世は収容されていなかつた。作品では、アリゾナの収容所などと、ぼかして逃げている。ここはどこのかと聞かれたら山崎は「フィクションでござります」と言い逃れをするだろう。また、主人公、天羽賢治の父、乙七が渡半して加州のインペリアル・バレー（帝国平原）に入った件で「インペリアル・バレーは、日本人が入植し、開拓したため、ルーズベルト大統領によつて、日本帝国平原と名付けられたところであつた」と述べている。いかにフィクションとはいえ、これほどすぎた。歴史小説の場合でも「徳川家康は秀忠の嗣子であつた」とは書けまい。帝国平原は一九〇〇年代の当初、ドイツ系移民がドイツ帝国の分家をここに作ろうとして、帝国平原であつたと命名したところで、ルーズベルトとは全く関係がない。土地の名称は住民がつけるもので、大統領など口出しできる筋のものではない。

それに帝国平原は、真夏に攝氏四十五度以上になる灼熱地帯で、いかに帝国の名がついていたので後発の日本人移民が出たからと言つて、日本人は誰かやウリを栽培したまで

山崎はいとも単純に祖国、祖國、といふけれど、移民ニッポン人が全く風土の違うアメリカの大地で恋いこがれたのは、祖國とか愛国といった生臭いものではなく、もっと自然なアリミティブな、自分を育ててくれた故郷の山川草木や人情に対するものであつた。山崎なら「それが祖國だ」というだろうが、これは明白に文化の問題である。強大な国家機関につながる国粹主義や祖國主義などでは片付けることは出来ない。海外へ流出したニッポン人移民とその子孫の心情は日本側から軽々しく「同胞」などと呼びかけられないのである。移民を日本の民衆史の線上でとらえないと、短絡的な祖國論に転落する。これは単細胞的な思考である。ドキュメント「日系人強制収容所」の著者で在米の白井昇は朝日新聞（昭和59年3月9日付）で、山崎原作が、なぜ日系社会で大きな問題をかもすかについて「著者は三百人からデータを集め、その中から自分が構想した筋書きにあてはまるものを選び、粹的な著者の感情を通して、日本の人読者を意識して書かれ、米国人に顔を向けていかなかったからである」と喝破している。山崎はアメリカ各地におけるPR講演の中で、取材した二字は「二百人」とも「三百人近い」とも言いふらしているが、砂利は何百粒積んでも砂利の山

67

でしかない。この中にいく粒の玉があるかである。参考文献を集め証言を追ってまとめたといふものの、文章構成をみると全体の四割前後を会話で綴り、事実の重みを地の文で追えずに逃げている。これがフィクションというから情けない。全体が安手な構成なのである。何百点もの文献をあげても書き手が、これらの中の文献をどう読みこなして位置付けるのかで作品の質が違ってくる。ただ文献をならべるだけでは、これはハッタリとか言い様がない。

山崎は、白井の言うようにこの様な史観ならぬ私観の線上に、収集した大戦中の日系人の証言、記録のうち、ご自分の私観に合致する部分をそつくり、あるいはそれに基づき創作して作品を描いたといえる。一時は『盗作騒ぎ』も起こったが、こういふのは盗作といわず、『総合盗用』という。山崎が頑強にもフィクションであると主張してもやまないのは、またぞろ責任問題の起きたのを心配したからだろう。

天羽乙七を演じる三船敏郎さんが現地ロケにやってきて、「さあ、さあ、皆さん方の出番ですよ」などと声をかけられたアメリカの一部邦字紙が、すっかりその気になり、前後の見境もなく各種の報道、コラムの中で「山崎燃ゆ」、いや「山河燃ゆ」バンザイ！」を叫んだ。これは愛嬌としても、一世を含めて

日系社会からの批判はかなり厳しい。山崎原作を受けたNHKの「山河燃ゆ」の方は「NHK熱ゆ」と言つていいほど内部で議論がわいて、神経を高ぶらさせた。「原作は盗作である」から「事実をわい曲している」「日米間の摩擦を助長する」「反米である」などから、白井昇がはしなくも指摘した様に「国粧的」となれば、公共放送の立場からも原作を鵜呑みにはできなくなつた。

第一回放映から冒頭で流してしまった。日本放送出版協会で光軍に剣銃を突きつけられてスープ検査を受けるファースト・シーンは、第四回まで中止してしまった。発行のムック「山河燃ゆ」(昭和59年1月10日付)に掲載の「あら筋」では、天羽賢治は日本本の留学を終えロサンゼルスに戻ってから再び訪日、UAP通信記者となつて上海事変を取材する。実際に放映されたドラマでは、賢治は上海で何と抗日戦線グループの協力者となり日本軍の横暴に身を挺して対抗することになつてゐる。この部分うとして、天羽を反軍、反ファシズムの日系二世に変身させたのである。原作と脚本は大幅に離れることが屢々あるから、

ある程度の変身は許されるだろうが、白か黒かと識別しないとおさまらない日本の思考を見せつけられる思いである。それなら山崎が原作の中で一方的だといつた世纪の東京裁判をNHKはどう描くのだろう。

「山河燃ゆ」は、ロサンゼルスのユナイテッドTV放送網(UTV)がフィルムを買い放映する予定だったが、二、三世の代表団体、JACL(全米日本市民協会)のリーダー達から「反米意識を極端にドラマ化したもの」「ドラマは排日分子に利用される恐れがある」などとクレームがついて、放映が無期延期となつた。UTVは放映がストップして損害を受けたとしてNHKに抗議、場合によっては、損害賠償要求になりかねない有様である。要するにフィクションとして生乾きの歴史をいじりまわすと指紋や手垢がついて、実像がボヤけてしまうのである。むしろ堂々とノンフィクションの手法で、この大きな問題をとりあげるべきであったらう。一般的にかつて盗作家だとされた汚名も忘れられ、一段と筆名があがり、マンザナならぬ満更のお豊である。

「ブリエアの

元代著

「ブリエアの
解放者たち」

ドウス昌代著

ドキュメントとは、こういう
作品を指す。ノンフィクション
時代を迎え、おびただしい数の
作品があふれる中で出色的のレボ
リトである。第二次大戦でヨーロッパ戦線に加わったアメリカ
の少数民族部隊、ハワイで編成
の第一〇〇大隊とその後に生
まれた第四四二戦闘連隊。とも
に、フランス戦線へ出陣して、
ドイツ軍占領のブリエアの町を
解放、続いて北イタリア戦線に
まわり全滅寸前のテキサス大隊
を救出する。これら日系部隊
の死傷率三四%、個人勲章一
八、一四三個、部隊として大統
領殊勳感謝状七度という栄誉に
輝いた。著者は二世兵の足跡ではなく、根の深い人種問題、米軍内
における指揮官のエゴ、一将功
成り万骨枯るの実態、米軍の戦
闘思想から、アメリカのジャーナ
リストの戦時報道のありよう
など、これはもう日系人問題、
日系部隊の血河の戦いを通じて
現代アメリカを描いたドキュメ
ントといえる。

数多い日本人移民、二世問題
の著書の中できわ立った「ドウ
ス昌代山脈」の主峰をなすもの

で、代表作といえる。現代史ドキュメントには、思い入れの主役は、もともといない。無理に個人を登場させると、ゆがみが生じる。すべては群舞であることを本書が示している。テキサス大隊救助のさい、真っ先に前線へ飛び込んでいった二世兵八人に白人兵が「ジャップ」の顔を見てこんなに嬉しかったことないぜと言つたことが、当時の従軍記者の書いた新聞記事としてとりあげている。著者は、この記事が事実かどうか、現場にいた二世兵を取材してまわる。ところが、「ジャップ」などと誰も言わなかつたことが判明する。山崎豊子著「二つの祖国」では、「ジャップ」と言つたと書いている。ドウスの取材力がキラリと光る。資料の先の先まで訊ね歩いた執念の成果である。
(文芸春秋、一、三〇〇円)

「立退きの季節」— 日系人收容所の日

藤田 晃著

で、代表作といえる。現代史ドキュメントには、思い入れの主役は、もともといない。無理に個人を登場させると、ゆがみが生じる。すべては群舞であることを本書が示している。テキサス大隊救助のさい、真っ先に前線へ飛び込んでいった二世兵八人に白人兵が「ジャップ」の顔を見てこんなに嬉しかったことないぜと言つたことが、当時の従軍記者の書いた新聞記事としてとりあげてある。著者は、この記事が事実かどうか、現場にいた二世兵を取材してまるわ。ところが、「ジャップ」などと誰も言わなかつたことが判明する。山崎豊子著「二つの祖国」では、「ジャップ」と言つたと書いている。ドウスの取材力がキラリと光る。資料の先の先まで訊ね歩いた執念の成果である。
(文芸春秋、一、三〇〇円)

本と本

本

も、知っているものにも、今一つ食い足りない何かが残った。
凡そフィクションという形式を用いないと伝えられないことと、ノンフィクションでないと伝えられないことがある。

前作『農地の光景』でフィクション。ライターとして佳作を世に送った著者には、自己の体験や見聞をまじえて、収容所でおこった、どろどろした人間の生活を浮ひ上がらせてもらいたかった。著者はボストンからツールレー・キ收容所に移されてくるから、ツールレー・キにおける次作に期待しよう。(五七〇、二〇〇)

「伝記 蜂谷専一」

一伝記蠻谷專

齊藤
廣志編

“日系人大国” のブラ

もなると、様々な階層の日本人がいる。蜂谷專一は、この中でトップ。ベルの商人である。一八九〇年（明治二十三年）に岡山市に生れた蜂谷は神戸の外國筋にかかり、一七一三〇へ

國商館に勤め、「一九一九年（大正八年）」渡伯する。実兄・吾輔がリオデジャネイロで雑貨商の蜂谷商会を經營していたのである。本書事業に協力のためである。本書は、蜂谷專一が亡くなつた一九八二年まで、九十二年の生涯が描かれてゐる。編者の斎藤広志サンパウロ大学教授は、かつて蜂谷専一の秘書を努めていたとある。故人が書き残した手記、

日記の類を整理して、遺族の要請で自費出版したのが本書である。移民といふより、日本からいった現地商社マンが、どの様な人間関係を保ちながら、どのような生活をしたかを知る上で興味はひくが、ふわふわしたマシマロの様であまりにも歯ごたえがなさすぎる。どんな事業家でも起伏はつきもの。本書にはこれが欠けている。せめてサンパウロ人文科学研究所発足を支援した蜂谷の文化的業績位は解説するのが礼であったろう。

(サンパウロ人文科学研究所
非売品)

幻師に師事して帰依。昭和三十六年来日、天竜寺の平田精耕より弟子になる。法号は清泉。^スの半生こそ、テレビの大河ドラマにふさわしい。

(サンケイ出版・九八〇円)

「カナダ遊妓樓に降る
雪は」「写婚妻」

工藤美代子著

「カナダ——」は長文の取
ノートである。スタートは、
九一〇年(明治四十三年)にカ
ダのバンクーバーで発行の『
奈陀の魔窟』である。しかし
ここまで『加奈陀の魔窟』を中
心に話を展開するなら、もつ
て原文の引用ないし全文の紹介が
必要でなかつたろうか。

(晶文社・一、二〇〇円)

「写婚妻」は「週刊朝日」連
載のものを書き足してまとめ
られた。写真結婚でカナダへ渡
た日本女性が娼婦に転落するシ
リーズがあつたから、前掲の「カ
ナダ——」とは一部重複する。
著者は、カナダと日本にいる女
婚妻十三人をインタビューして
全編を構成した。しかし、写婚
妻は、日本における結婚一般の
実態の延長線上にあつた事実が
見逃すと歴史的に大きな誤りとな
る。女の側からみると、写婚妻の
妻の悲劇だが、写婚夫側からの
考察はどうなつていたのだろう
か。

ライターなり、ジャーナリスト
は、とかく興味中心に見よる傾
向とする。本書はこの辺がある程
度、おさえているものの、当時
の日本の社会相にまで言及しな
いと写婚妻のバック・グラウンド
はわからないだろう。

(ドメス出版・一、三〇〇円)

「拒否された個人の正義」
アメリカ議会報告書
読売新聞外報部訳

一九八〇年、ジョーン・Z・バーンスタイン女史をただ、多くの証言、資料をモントージュしたため、かなり飛ばした報告書となっている。兵役を拒否した青年は三一五人、うち二六三人は有罪になった。残りは釈放されるが、志願した。一九四七年に有罪者には大統領委員長とする「戦時民間人再定住・抑留に関する委員会」が発足、六ヶ月かけてえた七百五十人以上の証言と、さらに一年の年月をかけて、まとめられた「拒否された個人の正義」(Personal Justice Denied) の訳文であり、これまで資料的価値は高い。恩赦が与えられているとだけ記述してあるが、この辺りが問題ではないのか。巻末の資料は貴重である。

(II) 聖堂・一、六〇〇円)

☆トマス・E・タケシタ、猿谷要共著「大和魂と星条旗」さきに竹下幸八郎氏が戦中・戦後における日系アメリカ人の市民権闘争史を同名の単行本として発行。今回、猿谷東京女子大教授が戦前編と最近の戦時賠償問題を書き加えた。資料として高く評価される。(朝日新聞社・八九〇円)

☆小東京百年祭委員会「THE Tokyo」ロサンゼルスの小東京百年祭を記念して出版された写真集。一八八五年から一九八四年までの写真、見取図などを収録した目で見る日系人百年史である。編集は三世のイチロウ・マイク・ムラセ氏。(現地価格二〇ドル)

☆コードン・G・ナカヤマ著「ISSEI」カナダの日系一世四十四人からの経歴と聞き書きをまとめたカナダ日系人物史。英文。(自費出版)

☆ビル・ホソカワ著、飯野正子・今井輝子・篠田左多江訳「120%の忠誠」J.A.C.しないし忠誠派二世の側から記されたJ.A.C.L.の歴史。史事を忠実に追つた日系人研究に欠かせない文献といえる。著者は元デンバー・ポスト論説委員長。訳文の監修は猿谷要氏。(有斐閣・一、九〇〇円)

○ジヨアン・ロー著・石川好訳「フロンティアの残影」日本人松浦の撮った西部一八七三年(明治六年)に東京で生まれた松浦家は、商業実習を名目に

二十七歳でシアトルに渡る。本書は松浦がワシントン州オカノガンというキャスケード山脈の東側で撮影した写真集である。(平凡社・二、二〇〇円)

☆内川永一郎著「共存共榮を説く晩年の稻造」国際人、新渡戸稻造の生涯のうち、国際聯盟事務次長を辞任して帰国した昭和二年からカナダのビクトリアで同八年客死するまでの七年間を詳述したのが本書である。筆者は稻造のお国元、岩手日報の論説委員長。郷土の大先達に対する遠慮や甘さがなかつたろか。(岩手日報社・九八〇円)

☆小林忠雄著「ニュー・カレドニア島の日本人—契約移民の歴史」日本人移民史上、特異な歴史を開拓した南太平洋のフランス領、ニューカaledonia島日本本人移民の記録的全史である。(緑地社・一、五〇〇円)

☆今野敏彦・藤崎康夫編著「移民史Ⅰ南米編」ブラジル、ペルーを中心とした日本人移民史の総括、というよりモンタージュである。ほとんど全文にわたり既刊本を引用して器用にまとめているものの、視点が明確でない。途中半端な総まくりとなつた。第一回「笠戸丸」移民のは猿谷要氏。(有斐閣・一、九〇〇円)

○ジヨアン・ロー著・石川好訳「フロンティアの残影」日本人松浦の撮った西部一八七三年(明治六年)に東京で生まれた松浦家は、商業実習を名目に

季刊海外日系人	第7号(昭55年5月)	バツクナンバー
▽△特集・ボリビア移住80周年記念▽遙かなる暮利比亚の涯(編集部)／私たちは歩いてアンデスを踏破した	▽△特集・ボリビア移住80周年記念▽遙かなる暮利比亚の涯(編集部)／私たちは歩いてアンデスを踏破した	▽△特集・ボリビア移住80周年記念▽遙かなる暮利比亚の涯(編集部)／私たちは歩いてアンデスを踏破した
▽△特集・日系社会と日本語▽△移民史研究ノート▽沖縄をめぐる差別の底流・最終回(96頁・残部有)	▽△特集・日系社会と日本語▽△移民史研究ノート▽沖縄をめぐる差別の底流・最終回(96頁・残部有)	▽△特集・日系社会と日本語▽△移民史研究ノート▽沖縄をめぐる差別の底流・最終回(96頁・残部有)
▽△第八号(昭55年10月)	▽△第八号(昭55年10月)	▽△第八号(昭55年10月)
▽△特集・日系社会と日本語▽△教育▽日本語を「寒語化」するゼロ政策▽日墨学院をめぐる問題点を洗うた「笠戸丸」少年移民、強制収容所における現代史の展開(80頁・残部有)	▽△特集・日系社会と日本語▽△教育▽日本語を「寒語化」するゼロ政策▽日墨学院をめぐる問題点を洗うた「笠戸丸」少年移民、強制収容所における現代史の展開(80頁・残部有)	▽△特集・日系社会と日本語▽△教育▽日本語を「寒語化」するゼロ政策▽日墨学院をめぐる問題点を洗うた「笠戸丸」少年移民、強制収容所における現代史の展開(80頁・残部有)

第10号(昭56年10月)	第9号(昭56年5月)	第11号(昭57年5月)	第12号(昭57年10月)	第13号(昭58年5月)
▽△パントアメリカン二世大会報告▽日本をルーツにもつてパンナム二世の連帶を/ニッポンを拒否する日系二世への考察(伊藤一男)／メキシコのハエと日本のハエと移民(妹尾隆彦)	▽△パントアメリカン二世大会報告▽日本をルーツにもつてパンナム二世の連帶を/ニッポンを拒否する日系二世への考察(伊藤一男)／メキシコのハエと日本のハエと移民(妹尾隆彦)	▽△日系社会と日本を結ぶ十大リポート(112頁・残部少)	▽△第八回海外日系新聞総会リポート▽日系社会の発展を通じ国際親善を他	▽△第八回海外日系新聞総会リポート▽日系社会の発展を通じ国際親善を他
▽△アルゼンチン移民百年祭との関連(104頁・残部有)	▽△アルゼンチン移民百年祭との関連(104頁・残部有)	▽△日系社会と日本を結ぶ十大リポート(112頁・残部少)	▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他
▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集
▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他

第14号(昭58年10月)	第10号(昭56年10月)	第11号(昭57年5月)	第12号(昭57年10月)	第13号(昭58年5月)
▽△特別記事▽北米のヒバクシャに救援の手を▽△ブラジル勝ち組・負け組抗争の糾明を急げ	▽△特別記事▽北米のヒバクシャに救援の手を▽△ブラジル勝ち組・負け組抗争の糾明を急げ	▽△特別記事▽北米のヒバクシャに救援の手を▽△ブラジル勝ち組・負け組抗争の糾明を急げ	▽△特別記事▽北米のヒバクシャに救援の手を▽△ブラジル勝ち組・負け組抗争の糾明を急げ	▽△特別記事▽北米のヒバクシャに救援の手を▽△ブラジル勝ち組・負け組抗争の糾明を急げ
▽△アルゼンチン移民百年祭との関連(104頁・残部有)	▽△アルゼンチン移民百年祭との関連(104頁・残部有)	▽△日系社会と日本を結ぶ十大リポート(112頁・残部少)	▽△日系社会と日本を結ぶ十大リポート(112頁・残部少)	▽△日系社会と日本を結ぶ十大リポート(112頁・残部少)
▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集	▽△海外日系新聞協会創立10周年特集
▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他	▽△一九八三年は海外日系人交流元年・各国日系社会の動き▽△南米各地に開いた交流の輪▽特集・戦争花嫁の昭和史「あめりか花嫁の詩」「戦争花嫁に想う」他

定期購読者募集中	第10号(昭56年10月)	第11号(昭57年5月)	第12号(昭57年10月)	第13号(昭58年5月)
☆本誌定期購読をご希望の方は、全国有名書店にてご注文下さい。また官製ハガキか電話にて直接ご連絡下さい。また現金書留での申し込みも受け付けています。	☆本誌定期購読をご希望の方は、全国有名書店にてご注文下さい。また官製ハガキか電話にて直接ご連絡下さい。また現金書留での申し込みも受け付けています。	☆本誌定期購読をご希望の方は、全国有名書店にてご注文下さい。また官製ハガキか電話にて直接ご連絡下さい。また現金書留での申し込みも受け付けています。	☆本誌定期購読をご希望の方は、全国有名書店にてご注文下さい。また官製ハガキか電話にて直接ご連絡下さい。また現金書留での申し込みも受け付けています。	☆本誌定期購読をご希望の方は、全国有名書店にてご注文下さい。また官製ハガキか電話にて直接ご連絡下さい。また現金書留での申し込みも受け付けています。
●定期購読料(送料共)	●定期購読料(送料共)	●定期購読料(送料共)	●定期購読料(送料共)	●定期購読料(送料共)
△△国内▽△海外▽△船便	△△国内▽△海外▽△船便	△△国内▽△海外▽△船便	△△国内▽△海外▽△船便	△△国内▽△海外▽△船便
△△四回分(四、〇〇〇円)	△△四回分(四、〇〇〇円)	△△四回分(四、〇〇〇円)	△△四回分(四、〇〇〇円)	△△四回分(四、〇〇〇円)
△△二回分(二、〇〇〇円)	△△二回分(二、〇〇〇円)	△△二回分(二、〇〇〇円)	△△二回分(二、〇〇〇円)	△△二回分(二、〇〇〇円)
P.M.C.出版機販売部	P.M.C.出版機販売部	P.M.C.出版機販売部	P.M.C.出版機販売部	P.M.C.出版機販売部

報告▽日本批判の中での文化交流

一世狙う黒い手・ニセ勲章事件

ブラジルで起つた売勲騒動をめぐつて

与名丹次郎

十万円で買った“街の勲章”

同紙の記事の概要を紹介すると、こんな工合であつた。

ブラジルで“街の勲章”売勲事件がもち上がりつた。従来、この種のケースは在伯邦字新聞でもほとんどとりあげなかつたがサンパウロ市で発行の

「パウリスタ新聞」（昭和58年8月30日付）は、珍らしく社会面トップで大々的に“売勲事件”を報道した。

在伯岐阜県人は同県人のブラジル移住七十周年を迎えて、祭典委員会は早くから対策を検討、母県から知事はじめ県議団、市町村長団ら多数の祝賀使節を迎えるとあって、慎重の上にも慎重に準備を進めてきた。

最も問題としてとりあげられたのは、来賓の叙勲選考問題。知事に対しては街の勲章ではどうも……ということで、市議会側に働きかけ、一応公式の勲章を用意した。ところが、県議側から「勲章が欲しい」という声があがり、一部の関係者を通じ打診があつた。

当日は数人の県議が来伯予定だし、特定の県議に贈るわけにも行かず頭を痛めていたところ、県議側からも「一部特定の県議への叙勲の噂があるが、県政上の争いのタネになりかねない。一切贈

与を見送られたい」という非公式の要請があったという。

県人会側は渡りに舟と、今回の祝典では県議への叙勲は一切行わない方針を決め、その通り実行した。

ところが、帰国に当つてM県議が怒りをあらわし「県人会の世話をならぬ」と暴言にも似た発言すると共に、コンゴニアス空港で予想だにしなかつた勲章を誇示、県人会幹部を仰天させた。この県議ゼンセイ、よほど嬉しかったものか、勲章を胸に帰国、選挙民の榮誉を讃える拍手を受けたからたまらない。同じ祝典に参列し、手ぶらで帰つた県議たちが面白ろからうはずはない。

「あの男にだけ叙勲とは理解できない」（政治的な裏手段だ）までは良かったが「買った勲章で価値なし」とパリアッソ論まで飛び出した上、噂では『一千ドル』支払つたらしいとの陰口がささやかれ甲論乙駁。あわてた県人会側の調べによると、土本直澄第一副会長が独断専行したものと判明、役員にあるまじき行為として内紛をさらに激化させた。二十九日、同県人会・安田会長は苦笑に満ち満ちた表情で「県人会としては全くあづかり知らぬこと。誰かが事情も考えず軽率なことをしたのだ。母県側に顔が立たず被害者はこつちかたの勲章を誇示、県人会幹部を仰天させた。この県議ゼンセイ、よほど嬉しかったものか、勲章を胸に帰国、選挙民の榮誉を讃える拍手を受けたからたまらない。同じ祝典に参列し、手ぶらで帰つた県議たちが面白ろからうはずはない。

〔前号まで〕昭和四十三年頃、全米各地でニセ勲章事件が起つた。「外務省登録国際親善団体協議会」なる架空団体をつくらあげた長野茂重が主犯でニセ勲章を一個、数百ドルから数千ドルで売り歩き十万ドルを荒稼ぎした。この団体の名譽總裁にかつがれた元宮様はこのあとニセ博士号、ニセ華族号をばらまく「特許大学」の顧問に就任していた。一方、ブラジルでは戦後、勝ち組、敗け組の血の抗争に乗じてニセ宮様が出現、いまも問題は尾を引いている。この国は、各種の自称団体が「ニセ勲章」を続々と発行して別な問題を投げていた。

批判的となつてゐる土本第一副会長は「M県議のこれまでの功績を考え、実は十万円出して勲章をもらってやつた。全く第三者の立場でやつたことで、県人会にとやかく言われる筋合いはない。M県議に自分の彫刻を十八万円で買つてもらつたが、一千ドル勲章代をとつたなんてとんでもない。名譽毀損だ。叙勲は会長も知つていたはずだ。一部会員の私へのいやがらせ的なものと思ふ。私はやましいところはない」と興奮気味に反論していた。同県人会の『買った勲章』事件は、こんごまだまだ尾を引きそらだ。

同紙はM県議が『街の勲章』をぶらさげた格好で日本へ到着、岐阜の国表で見せびらかした様にはやして書いているが、これは低俗な週刊誌調であり、書きすぎである。そんなクン章は票に結びつかない。それにしても『街の勲章』問題を邦字紙が、ここまで裏側を書いたのは初めてのケースではあるまい。私設団体の発行する勲章について贈られる方に問題があるのか、贈る側に問題があるのか、あるいは仲介の労をとる県人会なり、その幹部がいけないのか。随分前から、ブラジル日系コロニアの間で問題となつてゐた。こんどのケースでは、在伯岐阜県人会は筋を通して、仲介の労をとらなかつた。これはニセ勲章を敬遠した。立派な改善といえるけれど、同会幹部が私的とはいえオマケに出したとあれば、これはもう薄汚れた商売であり、見方によると全日系議会の問題といえる。ただ、M県議のよう、勲章を欲しがるもののがいる限り、この種の売勲事件ブラジル版は絶えないだらう。

これによると、従来、在伯の各県人会は、母県の代表者が来る度ごとに『街の勲章』を贈呈したようだ。階級によつて一個、七、八十万円を在伯県人会が支払つて買い求めて贈呈したということを伝え聞いたことがある。けれど、こうした場合、水面下で行われる取引であり、実態は不明のままであつた。ところが、この新聞記事だけは事実関係がいまひとつ明確ではないものの、岐阜県

うふふと嗤つてクン章を

さて、クンショウ事件はこれで終つたと思ったら、同紙（昭和58年9月3日付）はまたそろ同様な問題が起つたと報じた。こんどは、在伯山形県人会創立三十周年記念式典に、はるばる母県から特別参加した同県議団、市町村長会代表団に街の勲章を贈つたのである。これを世話をしたのは、設楽三代蔵という在伯山形県人会理事であつたという。同紙の報道は次の通りである。

勲章に対する“謝礼会”については明らかにされていないが、山形県市町村長南米地方行政調査団一行十人中、三人および、山形県議会南米行政調査団一行十人全員に、いろいろな種類の勲章が贈られた。

設楽さんが東奔西走して“お世話”した勲章は①ブラジル相互教育協会②市政協力研究会の二団体のもの。設楽さんの説明によれば、内部の役員、アドミニストレーションは同じ。平たく解説すると、製造は同じだが、“商品名”が異なると解説される。

山形県市町村長会に関しては「時間などの関係で、推薦団体を省略。経済的に手続を済ませて賞勲局から直接、叙勲した。叙勲式は二十九日、みまつ食堂で大石田町郷土会の人々の列席のもとに、ささやかに行われました」と、エージェントの設楽さんから説明があった。市町村長の叙勲に関しては県人会関係者は全く

知らず、国井猛県人会長が設楽さんに斡旋、賞勲局が自ら推薦して、何も問題が起こらずスムーズに伝達された。設楽さんによれば、このさい“謝礼”など、一切の金銭的取引はなく、いわば“無料”で渡された。

名譽の受勲者は、団長の高桑吉之助大石町長（グラウ・カバーリー・ローラー）と同協会の発行する七つの勲章のうち第五位）、副団長の星川保花尾花沢市長（アンナ・ネリ章）（同第七位）、村井健造大臣（アンナ・ネリ章）（同第七位）、守谷吉男顧問の方から国井県人会長へ、まず「勲章を何とか」と、それとなく打診があつた。

国井会長は“岐阜騒動”的例もあることだしと、その方面に明るい設楽さんに連絡。設楽さんは県人会の負うべきリスクを一身に背負って、自らも関係するブラジル相互教育協会とは別の市政協力研究会に走った。

叙勲推薦に関しては県人会が恐れをなしてか逃げたため「水害のあつた南伯二州への見舞金二十万円（十人分合わせて）を寄付した功績は大である」とし、賞勲局の市政協力研究会が自ら推薦、発行することになった。

叙勲式は二日午後七時から、聖市日系パレス・ホテルでとくに県人会とは関係なく、ささやかに行われた。

市政協力研究会が発行する勲章は八種類ある。この新聞報道でいう「賞勲局」とはどこの機関なのか、全く説明がないので判らない。サンパウロ州政府やサンパウロ市当局にそんな「局」があるのかどうか。さらに「ブラジル相互教育協会」と「市政協力研究会」とはどの様な団体なのか。新聞報道では、事務局も役員も全く同一で、カオだけ二つもつていていうといふ化けみたいな団体らしいが、「賞勲局」との関係はどうなつてゐるのか――。ラテン・アメリカの邦字紙はえてして説明不足、あるいは表現が適切でないため、何のことをのか、さっぱり判らないことがある。この記事もややその例にもれなが、横見出しに「顔赤らめ、思わず、うふふ」と気味の悪い言葉が並ん

パレーロ章（同第五位）、残り七県議（アンナ・ネリ章）（最下位）の胸にそれぞれ勲章が輝いた。ブラジル儀典法では、公式な場での帶勲を認められないが、“民間団体”が発行する、この種勲章にはまた格別な意味があり、ほほ笑ましい日伯友好の一助として話題を呼んでいる。

なお二日午後、国井県人会長の案内で守谷県議、設楽県人会理事が来社。同県議は勲章をいただけるという朗報に、「県議団一同、感謝しております。私は今度で、来伯五回目。大のブラジル・ファンとして、こんなに嬉しいことはない」と

喜びを語っていた。また、設楽理事も「社会的仕事ができて嬉しい」と、県議団の喜びようを満足していた。

全日系コロニアの責任

この新聞報道でいう「賞勲局」とはどこの機関なのか、全く説明がないので判らない。サンパウロ州政府やサンパウロ市当局にそんな「局」があるのかどうか。さらに「ブラジル相互教育協会」と「市政協力研究会」とはどの様な団体なのか。新聞報道では、事務局も役員も全く同一で、カオだけ二つもつていていうといふ化けみたいな団体らしいが、「賞勲局」との関係はどうなつてゐるのか――。ラテン・アメリカの邦字紙はえてして説明不足、あるいは表現が適切でないため、何のことをのか、さっぱり判らないことがある。この記事もややその例にもれなが、横見出しに「顔赤らめ、思わず、うふふ」と気味の悪い言葉が並ん

でいる。受章者を冷やかした下品な表現である。

それにもしても、この“街の勲章”プレゼントはやはり冗長、喜劇的ではある。この場合、ハグの

今はや沙更し喜んでしかたないこの場合、公武の立場で常用できぬ様なオモチャ同然のブリキの動草を礼々しく、勿体をつけて取次いだ一部山形県

人会幹部の責任は重大である。“街の勲章”がこの程度のものでしかない、と判れば、いただいたい村長さんなり、県議さんは、怒り心頭に発するで

あらう。日本から来た『田舎』の村長さんだと思つて馬鹿にするのも良い加減にしろと言いたい。これは、クンショウを取りもつた一県人会の幹部だけの責任ではない。全ブラジルの、少くともサンパウロを中心とする日系コロニア、とりわけブルジル日本都道府県人会連合会、指導的役割を果す日系マスコミなど全日系社会が負わなければならない重大な責任である。

ここで一つ思い出すのは一九八二年（昭和五十七年秋）の定期叙勲で日本にきたサン・パウロの代

表的実業家Q氏である。外務省で勲六等瑞宝章と勳記を受けたあと、皇居に参内、集団で天皇陛下にお目にかかった。この時、Q氏は「ブラジル賞勳局総合学術協会」なる団体から贈られた、日本の勲一等まがいの大綬を肩に以下勲二、勲三、勲四……と各種クン章をまるでチンドン屋の様に首、肩、胸いっぱいに飾つて参内した。これは公式の場で佩用を許されていない『ニセ勲』まがいのワッペンかアクセサリーの類であった。事情を知っていたら外務省も宮内庁もおしとどめたろうが、こんな格好で陛下にお目にかかるのは、冒瀆であり、非礼であった。当のQ氏は恥びれもしなかつ

ニセ商法はお家芸なのか

卷之三

卷之三

たところをみると、全伯日系社会を虫ばんでいる“壳黙汚染中毒”にQ氏自身はマヒしてしまって、いけないことは思わなかつたようだ。“セ黙”もここまで来ると極まれりである。笑いとではすまされない。むしろ、あわれである。

然で大量に入手してサントス港に陸上げした。さて、サンパウロ市内の店頭にいびつな小どんぶり類を並べるのだが、糸底を下にしておくと、ガタガタと動いてオシャカであることがすぐ判ってしまうので小どんぶりを伏せて陳列しておく。

が商人に文句をつけると「いや、このライオン歯磨は大阪産ですから」とわけのわからぬことを言って弁解これ努めた。当時、正義に燃える邦字紙記者は印刷工場から「オーサカ・ライオン」の偽造ラベルを入手して紙面で大キャンペーンを張つた。偽造の実物をつきつけられた業者は、平身低頭、ひたすら謝つたが、これがまた「大阪ライオン尻尾を巻く」として報道され話題となつた。

ニセ商法はまだまだあった。チエの働くサン・パウロの日本人商人が岐阜や愛知の窯元へ出かけて、といって、糸底がいびつになつた茶わんや小どんぶりを買い求めてくる。この種の品はオシヤカであり、破棄処分されるもので、到底商品にはならぬといふ。ところが、サン・パウロの商人はこれを口へ

にしても、まあ、何と空恐ろしいニセもの横行のことか。コロニアであることか。

にしても、まあ、何と空恐ろしいニセもの横行のコロニアであることが。
こんどサンパウロで起こつた一連のニセ勲事件は、かつて、この手のニセものをノロエステ線などの「田舎」から出てきた百姓一世に売りつけ、「思わず、うふふ」と薄笑いをしていた手口と本質的に変わらない。いつまでも、こんな勲章商津を放置しておくと、全伯の日系人は、きわめてくンチキ性に富んでいるなどといわれ、果ては母国日本のある人々の信用を失うだらう。そら、日本でむかしから、天にツバするものは、自らそのツバを顔にひっかけることになる、というではいか。いまもなお「うふふ」と嗤うのか。

連載
バイオニア

加納久憲の日記

(第十五回)

加納久憲氏の現住所
Rev. Hiram H. Kano

1921 Larkspur Court
Fort Collins, Colorado, 80521
U.S.A.

これは驚くべき御摂理であるが、余りの偶然に主教も私も驚きかつ欣んで握手したのであった。私はパロールになつて、これから当分ナショタ神学校の寄宿舎に生活しますと報告すると、主教は涙を流して欣ばれ

「よかったですね、加納君、二十五年前この同じ駅で初めて君に会い州議事堂にいって排日土地法案の防止運動と共に働いてから、それが縁で今日まで、主の教会の御用のため苦楽を共にした。殊にこの戦争では罪もなき君を戦争遂行上の政策の一つとして治安維持の理由とかで監禁して気の毒であった。然し君は常に心を平静に保ち信仰をもつて善処した事に対し、私は敬服している。結局試練は君を玉と磨くよ、御互に涙の谷を

通つたが、今日は山の頂上に来て主の栄光を拝する気持ちがする。實に嬉しい」といつて嗚咽されるのであった。主教は一九五一年、物故昇天されたが、師は實に真実で親切な御方であった。私はこの主教の恩誼を忘れる事は出来ない。今は亡きこの恩師のためにも私は粉骨碎身以て主の御用に當り度いと努力しているのである。

米國聖公会には大小の神学校が十二位ある。ナショタ神学校は百二十年も前に創立された保守的なハイチャーチを代表している。ナショタとはインディアンの言葉で双子湖。校舎は六〇〇英加の森の中で湖に面して静かなキャンパスで町から数マイル離れた田舎に建つてゐる。広い墓地もあって卒業生はここに埋葬される資格を自由に与えられている。故マキム主教のお墓もここに建つてゐる。寄宿舎をクロイスターと呼び学生は教室、チャペル、食堂に出る時、黒いカソックを着る規則になつてゐるので大体僧院の雰囲気が感ぜられる。

私の在学中、六十人位の学生が勉強していた。学長は英國生れの司祭ナッター博士で、厳格な人であり、説教が上手であった。世界的な神学者ハロック教授、ホイットマン教授からも教えをうけたので一生懸命になつて私は勉強した。卒業論文には山上の垂訓に就て書いて新約聖書の

【前号まで】加納久憲の三男に生まれた久憲氏は、東大卒業後、ネブラスカ大で修士号を取得、牧師となるが、日米開戦でFBIに逮捕、マッコイ兵営からニューメキシコ州サンタフェ収容所に送られ、抑留生活に入った。一九四三年、保釈となつて出所。スカッチプラフから、シカゴ経由、ワイエスコンシン州ナンヨタ神学校へ向かう途中、旧知のビーチャー主教にばつたり会う。

先生、ビンディジ教授に提出出し、一九四六年五月神学士（B.D.）の学位をもらった。在学中、FBIや移民官が時々面会に来た。若い学生に加納はどんな政治思想をもっているか、戦争に就てどう言っているか等と質問したりした。終戦になつてパロールが除かれるまでいつも監視を怠らなかつたらしい。

強制立退きで、十三万人の日系人が沿岸三州から奥地のW.R.A.キャンプに送られて鉄柵内に保護をうけて生活していたが、在米同胞は祖国の軍部と何等関係がない事がわかり、激昂していた人心も平静を取り戻したもので、漸次日系人をキャンプから解放したのであるが、仲々雇つてもらえなかつた。神学校のナッター校長は、そんな日系人を八人雇つて、

主として炊事食堂に働いてもらつた。シアトル市聖ペテロ教会から六人、羅府から一人、アラスカから一人、そしてシェルトンホールを宿舎にしていた。聖日夕刻七時半、ここで晚禱を捧げ私が日本語で説教した。時折、神学生が出席して聖歌を独唱して応援してくれた。シアトル出身の信者は讃美歌が上手で感心した。四五年の七月には佐藤孫三氏の洗礼式を神学校のチャペルで挙げ、二週間後、アイビン主教により堅信心の信徒按手式を執行した。この二つの式に神学生が多数列席し、立派な式ができた。

神学校から東三十マイルいくと、人口六十万人のミルオーキー市があり諸聖徒大聖堂がありアイビン主教、メイナード司祭がおられて、日本人の礼拝、伝道等にパリシホールを貸与されたので毎月一回集ることになり、私が司会し、このミッショニも終戦後、四十六年の夏私のがネブラスカに帰るまで継続された。全部で二十人、美以教会出身が一番多かった。地方別にすると加州出身十人、その中にいまは物故された一安博孝翁がおられた。シアトルからも五人、アラスカ出身が二人、皆熱心で毎回よい集りが出来た。あとあとまで佐藤律兄や藤平、浜田、山下の諸夫人からクリスマス祭にはカードを頂いていた。

一九七〇年シアトルの聖ペテロ教会を訪ねた折、一世の会が主となつて歓迎会をして下さつたが、ナショタ、シェルトンホール、ミッショニの旧会員佐藤律氏及び内田栄吉夫人に二十五年振りにお会いして愉快で

あつた。佐藤さんは教会の重鎮であった。

上述の如く、私は戦争という非常時に際に開戦と共に収監されたのがネブラスカの旧任地に復職するまでの五ヵ年、特殊な五つの教会を牧する事を命ぜられ、その任を全うしたのである。聖書に「我は神の中に生き、動き、かつ在るなり（使徒行伝十七の二八）」とある通り、自分は神の力に満たされ、天の使に守られて御用をする事が出来たのである。ありがたいことであつた。

終戦を迎えて日本人の動き

一九四五年八月十四日、終戦を知つた。私はその頃まだナショタの神学校にいた。同年十一月十六日検事局から書面でパロールを解除すると通知をうけて再び自由人になった。翌年五月二十三日にはナショタ神学校の卒業式が校庭で挙行され、長男は兵役にあつたので私の妻と娘だけが列席出来た。六月十四日ナショタに別れを告げネブラスカの旧任地に帰るべく出発した。

ネブラスカ州ノースプラット市に着いたのは三位一体生日で聖ジョージ教会の野外礼拝が催され、私は聖餐式を司式し、説教をした。ほどんど五年振りである。この町で開戦の日に私が検挙収監されたのであるから、万感交々胸に迫るを覚えた。

六月十八日には以前寓居のあつたスカッチプラフ市に帰つたが、今は家もないでの聖メリーエ教会のワーデン中田薰氏の家に数ヵ月厄介になつた。そうして毎日友人が交代に案内して地区を分けて広い田舎を戸別に訪問した。様子も相当に変わつていて。戦時中、大学生、米山メイ娘と野田大二郎君が病のため不帰の客となり、田中次夫陸軍一等兵は歐州の戦場で戦死を遂げた。然し、ネブラスカ在住の日系人はキャンプ（W.R.A.）に収容される事なく済んだから幸であった。

A) 留任後初めての説教は大要次の如くであった。

「昔イスラエル人の先祖ヤコブの末子にヨセフと言う人があつた。彼は性質が柔軟でかつ正直であったので、父親から特別に愛されました。

それで兄貴達は彼をねたみ憎み、相謀って彼を捕え、エジプトに奴隸として売りました。かくてヨセフは或大官の家に働いていましたが、遂にその才能を認められ累進して、エジプトの宰相に任命され大国の政治を掌りました。二十年の星霜がたちました。偶々、大飢饉がユダヤの国を襲いまして食物に窮しました。それでヤコブは一族を連れてエジプトに来り救いを乞うのであります。迎えてくれた宰相が奴隸に売ったヨセフである事がわかると一族、ことにその兄弟達は、驚き恥じ、かつ怖れたのである。その時、ヨセフは申しました。兄さん達よ、心配しなさいな。私が、エジプトに来たのは神の御摂理で誰れの業でもありません、と。そして飢えている一族に沢山の食糧と衣服を与えて歓待したのであつた」

「神が私をエジプトに送り給うたのである。人の業でない」との一言は、さすがに信仰厚きヨセフならでは言えない言葉であった。これと同様に、私が監禁されたのも実に神の業で、神が私を選んで御用に当るべくキャンプにお送りになつたのであります。

一九四一年の春、デンバー市で山東三州時局大会が催された際、或る一人の代表者が沈痛な態度で議場に問うたのである。不幸、戦争になつて在米同胞の生活が不安となり、万ーマップが来て日系人の家を襲う事があつたら如何にすべきだろうかと。その時、貝原一郎議長が起つて緊張した面持ちで、この質問の答は難かしくかつ重大であるから、ネブラスカ代表の加納師に答えて頂き度いと言われたのである。それで私は即刻に次の様に答えたのである。

米国は法治國であるから、それ程の事態は起こらぬと信ずるが、ロシヤにはニコライスク事件、支那では通州事件という不祥事が起こつて数百人の日本人が慘殺された事がある。だから万一一を慮つて、それに対応する心構えをしておくことは大切である。その方法は皆さんの如き各地方の指導者は犠牲となつて大衆を救わねばならぬ。犠牲とは必ずしも生命を捨てる事ではないが、そこまで覚悟しておらねばならぬ。

宗教から見れば戦争とは人間の罪の結果であるから政治家以上に教会の代表である牧師は戦争の責任者である。それはきちんと聖書に書いて

ある（ペテロ前書四の十二）。審判は神の家より始めるべしと。だから戦争になれば、自分の働き、自分の祈りの足らざりしを悔いて謹慎の意を表し、私はいさぎよく神のさばきに服し War Victim (犠牲)となつて神に御詫びする覚悟でおる云々。私が着席すると議場は騒然となつた。代表者の中にはカゲ弁慶もいたし、国粹主義で思慮の浅い人もいたので甲論乙駁、皆真剣に意見を戦わしたが、結局は私の意見が正しいとして承服したようであった。いずれにしても、その年の十二月には日本は干戈を交えるに至り、私はイの一番に検収監されて審判に服したのである。そうして皆さんと離れていた約五カ年の間、私は毎日真剣に祈り、寸暇を惜んで働いたのである。

皆さんはご自分の不自由も忘れて、私のために祈り、私の家族に同情して慰め労つて下つた事を、ここにあらためて御礼を申し上げます。人々が予想したよりも早く終戦になつて、再び平和になつた事は正義にして愛なる神のおかげであるから、われわれは声高く共に主の聖名を讃美し、一層忠実に奉仕するように努力し再び日米が戦うことのないよう祈らねばならぬ。アーメン。

友あり、遠方より来る

私の家の宝としてゲストブックがある。これは一九二五年に初めて備えて、二冊目になつてゐるが、その中に千四百余人の来客の署名がある。私は交通不便な田舎に大抵住んでいたので、これらの御方は特別の好意を持った御方である。

日本から懇々來られた御方だけを調べて見ると次の様である。

私の渡米したのは一九一六年であるが、その翌年に私がまだネブラスカ大学の大学院に在学中、佐藤寛次東大助教授が世界漫遊の途次、訪ねて下つた。イの一番に早く見えたお客様であった。

丁度、夏休暇中で私は田舎の農場に実習にいっていたので、ついに再会の機会を逸したが残念なことであった。先生は私より十歳年上で駒場の先輩でのちに教授となり農学博士となり、東大の総長代理をされた位

出世された。米寿を祝うて間もなく「先達と後進」という著書を遺して物故された。その中に私の渡米したこと等を書いておられるが、かねて私が永住の決心で移民問題のために渡米する事を知つておられたので、その後、私がどうしたかと思つて会いに来て下つたのである。

二番目のお客さんは、学習院時代の同窓、服部純雄君で一九一八年の春であったろう。御嚴父、服部綾雄政友会代議士が桑港で客死され、その墓参に渡米された折であった。同君は岡山県金川中学校長の折、病のため若くして倒れたが惜しい人であった。私の結婚式には証人となつて下さつた御方である。

一九一九年になつて山下弥七郎氏が訪ねて下つてリンカーン市でお会いした。同氏は日本親善のかけ橋として一生懸命働いた人であつたが惜しいかな夭折された。

同年、義弟、後藤文夫が歐州からの帰途訪ねてくれた。私の妻アイ子がパーク・カレジで家政学を専攻していたので、キャンサス市やパーク大学を案内しながらゆづくり話した。彼は当時、内務省の事務官で仏国で二ヵ年近く労働問題を勉強していた。のち農林大臣となり岡田内閣では内務大臣になつた。

同年の暮れ、排日問題で忙しく暮している時、東大の宗正雄助教授が訪ねて下つた。先生はやはり私の駒場の先輩で、眞面目な学者でのち東大の教授となり育種学講座担任で沢山の名著述がある。お会いしたのはリンカーン市であった。

早く私の農場に訪ねて下つたお客に義兄、永井好一郎がある。一九二一年の夏であったろう。彼は三井物産ニューヨーク支店に勤務していたが本店に栄転になつたので帰朝の途次寄つてくれた。随分田舎にいるとびっくりしたことであろう。

一九二三年にはやはり親戚の伊藤常夫が農場に来てくれたので、バギーで田舎道を送り迎えした。彼は当時、鉄道院の技師で欧米の鉄道視察、とくに自動カップリングの研究であった。

一九二四年には私の同級生の農學士の羽部義孝君と香川冬夫君が農場に来て、私の百姓姿を見て喜ばれた様だった。それは同窓は六十人位同

時に農科大を出たが移民を志して海外に雄飛したのは私一人であったからだ。羽部君は和牛の改良の功労者で確か勲二等に叙せられている。牛で農学博士の学位を持つている篤学の士である。香川君も眞面目な学者で農博、京都大学で作物学の講座をもち、稻の改良に尽した。その後、愛媛大学の学長になつた。斎藤末松牧師が農場に見えたのは、もつと早く一九二二年位であつたかも知れない。ネブラスカで二年位伝道して下さつた。戦後、雑司ヶ谷キリスト教会を牧された。

一九二九年、やはり同窓の田中長茂君がノースプラットの家に訪ねて下さつて、教会で講話をしていただいたことがあつた。駒場時代からの親友で快活な人で終戦後選ばれて宮崎県知事になつて敏腕を振つた。榎本中衛教授も前後して見えた。学習院時代の同窓でごく親しくしていた柳原博光海軍大佐は二度もネブラスカに來てくれた。彼は石油の権威であつた。鹿児島の小学校からの同級生、医学博士鮫島近二君が夫人同伴で拙宅に御来駕下さつたこともなつかしい想い出である。

教会関係では、一九二五年に東京からコレル博士が見えたのがイの一番である。同師は聖公会出版部の主任で、ビーチャー主教の御案内で来られ、上手な日本語で熱心な説教をされ、一同は大変に感激した。立派な宣教師であつた。一九二七年の夏、片岡常吉司祭が来られて、日本語の聖餐式を挙げ一同感謝した。夏期キャンプにもビーチャー主教に招かれたので二週間、共に山の中で野営生活をした。翌年SSJJEの桜井健神父がお寄り下さつて私共の粗末な家に泊つて、いろいろ教会のため御指導下さつた。その年の暮れ、私が執筆の按手札をうけた時、その式にも立会つて下さつた。

主教では、京都のニコルス、大阪の柳原貞次郎、東京のライフスナーダー等の先輩が訪ねて下さつた。戦後は中部教区の主教黒瀬保郎先生にデンバーの大聖堂で御会いしている。カナダのトロント市で活躍しておられた今井献司祭も学生時代にノースプラットの家に訪ねて下さつた。クエーカーの宣教師、ビンフォード先生も終戦後、お訪ね下さつて日本的话を教会でして下さつた。ナショタ神学校出身の佐藤忠輝司祭も見え

読者椅子

(米國カリリフォルニア州シーサイド、アンビハン・和)

戦争花嫁に思う

私たちに援助は不要

ちに援助は不要

「海外日系人」第14号を読んで、『戦争花嫁』がかかえていた多くの問題を改めて考え直されました。日系人の方々の物心両面でのご苦労がしのばれました。さらに花嫁の心の内

(千葉県習志野市・農業研
会議、会議文)

で老衰のため死去した。約

これでいくと、密入国不法滞

のった小島節美さんの記事で、平和をかき乱されている戦争花嫁の一人です。この手記を真に受けて私たちに同情して下さって献金された日本の方々の暖かいお気持ちに私は感動しました。しかし、ちは感動しました。しかし、私たちは小島さんが書いたように、救助してもらわなければならぬほど落ちぶれていません。私たちは平均一十五年以上も日本を離れてアメリカで生活しています。生活様式の変化、言語、カルチャーショック、孤独感など乗りこえて生きています。小島さんは日本に援助を求めていましたが、私たちに対する誤解が生まれ迷惑しています。

☆卷頭の「ことば」は毎号、都道府県知事にお願してきましたが、今号は第二十五回海外日系人大会を記念して田付景一氏をわざわざした。日本プラジル中央協会長、海外日系人新聞協会理事長、移住審議会長の中、海外日系人をどう継続されるかについて所見の一端を示された。おりから外務省筋でも、海外日系人とどの様な何かわりあいをもつべきかにつ

して調査研究を開始したと伝えられる。このことは再三にわたり本誌が主張してきた。ただ、この種の交流に官が色彩強く介在すると、官製運動になると、やはり問題の本質を考えると、民間ベース、民衆レベルでの交流でなければ、成る。やはり問題の本質を考えると、民間ベース、民衆レベルでの交流でなければ、成る。女史が「週刊現代」（4月14日号）で、NHK大河ドラマ「山河燃ゆ」のシナリオに原作を書きかえられたことに対し「重大な決意をしている」と書いた。たしかに原作には

南京大虐殺がテレビではとりあげられ、日本の軍国主義に鋭いメスが加えられている。原作をはじめとして走り出したシリオにに対する怒りと、アメリカ放映が中止になった不満と怒りが二重になつたのだろうか。実のところ、山崎作品とそのテレビ化をきっかけに、日本における対日系人認識を改めさせ、かつまた評価を高めるものと、われわれは期待していた。そこへJ.A.C.L.筋のクレームがついた。当の山崎女史としては、『いわ

☆本誌今号は、ドキュメント作家として、沢地久枝さんとともに地道な作風で知られる

翰集室

私は昭和三十三年二月に着
伯、在伯二十六年になる者で
す。小生ここ十年来、日系コ
ロニアの空白時代を埋めたい
と考えてまいりました。高木

の『亡者記事』である。『幼八十五歳』と書かれたのは、年齢、身元など不明の不法遭在者だったからだ。船員と一緒に世界をまわり二十歳前後でニューヨークに寄港中に脱出をしてそのまま居着いてコック

さんも、この中の一人であつたのか。それにして、「約八十五歳」とは胸がしめつけられる。現在の日系人は約五千人。この中に第二、第三の角園さんが相当いる。一日も早い救援と調査の手を――。

老一世孤独の死

ニューヨークで発行される
老一世孤独の死

などを書いて暮らしていたからだ。角園老移民と似たケースがまだ他にある。一九二二年（大正十一年）ニューヨーク

俊明著「狂信」は、あまりの誤りと欺瞞に満ちており、最近、正史の必要を痛感しています。生き証人の物故が相ついでいるからです。

既刊の七十年史は、コロニアの重大事件である勝ち組、敗け組事件を無視、あるいは「狂信」を転用してこと足りりとしています。これではやがて出版されるであろう「八十年史」にも期待しかねます。これは認識派集団でコロニア史を編集する限り、移民史は偏向されるのです。正史こそ先漫者への最大の慰靈と考えます。

(サンパウロ市、星野 豊作)

*

ドウス昌代さんのご寄稿をいたしました。ドウスさんは、取材のため全米各地を歩き同じく日本系二世でも土地によって随分違っていることを実証してくれた。山崎作品の様に日本系二世を抽象化したり、特定のモデルの中に描こうとするのは危険であろう。ドウス昌代さんによると、「山河燐」といって、一般的な新聞、出版、ジャーナリズムにおいて、もっと日本系人社会について知識と見識をもつていただきたい。毎日新聞夕刊に連載され古森義久編集委員の「遙かなニッポン」はアメリカ中をかけまわったドキュメントである。執拗に日本系人を追っていくと、何かの像をつかまえることが出来る事を示した。海外日系人社会を空きめると、日本人とは何かという重要課題につき当たる。けつして他山の石ではない。カリフォルニア州サンジャゴに住む西本願寺の僧、多田覚英師からの声として「日本系社会は自分たちがどの様に日本の大河ドラマで描かれているか知りたい、としてアメリカでの放映を待望している」という。NHKにお放映する勇気があるだろうか。もし永久に陽の目を見せないのなら、自ら「まずい」と認めた

ことになる。JACL日本支部の元支部長、バリー佐伯氏によると「山崎さんが私たち二世をとりあげてくれたことを評価する。原作は小説なのだから、アメリカ側はとやかく言う筋ではない」と語っていた。

☆いわゆる『戦争花嫁』問題で、海外から本誌への投書が相ついだ。戦後の日本人移民史の中で重要な位置を占める彼女たちに、単純思考から「気の毒だ」「水商売上りの無教養な女たち」といった、同情や侮蔑で眺めてきたのは誤り。ことに従来、彼女らのことは主として映像で日本へ伝えられてきた。百万言の言葉以上に映像は事実をよく物語ることもあるが、人間は外観やムードだけで推測するところでもない誤りを犯すことがある。本誌では、なお彼女たちの足跡、現状を追う。

☆サンパウロに住む末松花さんの昭和八年当時の渡日日記第一回を掲載した。戦前の女子師範学校出の方だけあって、文章もしっかりしていて、移民の意識がリアルに描いてあり、注目される。石川達三の小説『蒼氓』、香山六郎の回想録とは別な女の筆によるドキュメンタリー・レポートと受けとめたい。小学校の正教員として、平和で豊かな生

活を棄てての渡伯は、ご当人はあまり気乗りしなかったようだ。適宜、解説を加えながら昭和初期のブラジル移民の実相をお伝えしよう。次号以降も期待していただきたい。

☆昨年秋、東京で開催の日系マスコミと日系社会の過去・現在・未来を展望した「オーラム、シンポジウムをまとめた「報道関係者等国際交流△海外日系新聞△十年の歩み」が海外日系人協会から発行された。各スピーカーは時間の都合で原稿をかなりカットして講演したので、原稿全文を掲載した、この報告書は、将来、格好の文献として残るに違いない。やはり文字で残されば、後の世につながらないのである。次なる機会に日本人の海外移住の全史を踏まえて「オーラム、シンポジウムを——との声しきり。なお、昨年十月二十四日、東京のプレス・センターで開催された「日墨交流史東京フォーラム」(日墨協会主催)は紙幅の都合で今号は見送った。

☆八三年暮れの十二月十五日、国際協力事業団(JICA)から本誌に、JICAブエノスアイレス支部の渋谷竹彦氏の訃報が伝えられた。同月七日、ブエノスアイレスからチリのサンチャゴへの飛行機の中で帰らぬ人となつた。同氏は渋谷邦彦参議院議員の

実弟で戦後移住、現地でJICAに勤務した。移民の世話を役さんの一人で熱心な創価学会員だった。ガンが全身にまわって倒れたが、どうせ死ぬなら母国でと命息を伴い空路日本に向った。サンチャゴ到着一時間前に機内で絶命したという。マルビーナス紛争の前、令息がアルゼンチン陸軍に入隊、当の渋谷さんは「息子が入隊して、わたしはやっとこの国に移住してきた」という実感がわきました」と語っていた。ご冥福を祈るや切なり。その少し前、サンパウロの齊藤広志氏の訃報を聞く。もう少し長生きして、本格的なブラジル日本人移民史にとりかかっていただけきたかった。

森秋冬

牛丼。牛丼。この料理の定義はきわめてアイマイである。

ハワイのホノルルの日本めし屋でメニューを見ていて面倒くさくなつたので「牛丼!」と言つた。米本土に比べやや物価高のハワイでも、日本と比べて牛肉は割安なので、この牛丼は牛肉をふんだんに使つてゐるに違ひないと思つて、待つことしばし。日本風のどんぶりに盛つて出されたのは、やはり部厚な牛肉のぶつ切りである。

ところが、牛肉以外の具が、

これはピーマンの大切れだけである。味も甘辛い。よく考へると、こういうのは日本の中華料理店でピーマンの牛肉いためと申す。

せい沢をいえば、牛肉に白滷、焼き豆腐にネギ位は欲しい。明治以降、日本に生まれた牛どんも太平洋を越えてホノルルまで来ると、中華風に変質してしまうらしい。それはそれなりに美味であったが――。

もともと、牛丼という簡易料理の定義などはあるようであ

ないのだから、つべこべいつても始まらないのかも知れない。

俗に「ところ変われば、品変わる」という。日本料理の材料は日本以外でそろえるのは至難といえる。とかく似て非なる材

料が多い。調味料、ダシのもとになる材料もそう簡単には入手できない。

海外にいる日本料理の板前さんは、こうした材料をどこで仕入れるかである。なぜか代用することになって、いわば現代化が進み、変化が生まれてくる。見方をかえればハワイのピジョン・イングリッシュにニッポン語が混入したようなものであろう。米本土で、日本の牛丼はどう変化するのか、と興味をそそられ、シアトルの日本料理店

「千代」でメニューを見たが、牛丼はない。「ビーフ照り焼どん」とあったので注文してみた。ハワイと大同小異であるまいかと、ここでも待つことしばし。出てきたのは、甘辛い牛肉の照り焼きがどんぶりめしにのつてゐるだけであった。野菜はひとかけらも入っていないから、これは、まさしく「純牛どん」であろうか。

アメリカ本土の各地で、牛どんを搜してみたが、太平洋沿岸で「すきやき」はあっても牛ど

んは見当らなかつた。ただ、ロッキー山東はコロラド州デンバーに「トウキョウ・ボウル」と

いえ、「東京丼」である。東京どんぶりとは、何であるのか。聞けば、牛丼の吉野屋の

出店であった。最近では代がわ

りとなつて、白人がオーナーとなつてゐているというが、ここは牛

肉と具の入った日本風の牛丼が出来てゐるといふ。

ぜひ一度、試食を思つていつたが、つい移民のインタビューに追われて叶わなかつた。心残りでこの地を去つたが、どうに

も、「東京丼」が心にひっかかる。

たが、まさか牛丼にひかれてデンバー詣でも出来かね

る。

天丼、親子丼と、味のいいものを見たが、どうも牛丼のおいしいにはお目にかかるない。伝聞によると、一九二三年(大正十二年)の関東大震災直後、牛丼で大儲けした人がいたそうな。

この時は高価なすきやき用の牛丼など用いなかつた。牛の胃や腸などのモツを刻んで大鍋でやわらかくなるまで煮込む。当然、アクが出るからすぐつて棄

てみると、牛丼の脂が浮いて、なかなかの美味という

が、実物をいただいていないの

で、これ以上はいえない。

思うにこれは、東京辺りの安

い飲み屋で出るモツの煮込みに類するものだろう。「牛丼」でならぬ大正の「煮込みどん」である。

ここまで、牛丼をつきつめてみると、牛丼とは、すきやきを丼めしにせたものではないのではあるまい。というの

はすきやきをめしにせる位な

らすきやきとめしを別々にしていただきたいからだ。すきや

きもどきの牛丼が見当らないのは、このせいかとも考えられるが、どんなものだろう。

つけたものらしい。モツの脂が浮いて、なかなかの美味というが、実物をいただいていないので、これ以上はいえない。

東京は帝国ホテルのグルリ

(グリルではない、周辺のぐるりである)に安手の飯屋があ

る。ここで親子どんぶりの別れがある。「別れ」となれば、親子どんぶりは、トリ肉ととき

タマゴを煮て飯の上にのせたものである。「別れ」となれば、

親子どんぶりは、のせるものはせ

るものを使つてからである。このでいくと、「天ど

りの別れ」は、天ぶら定食とな

り、「カツどんの別れ」とはカ

ツライスとなる。してみると、牛丼の別れは、すきやき定食となる。

もちろん、こんな別れ料理な

くてない。別れは親子だけでいい。(いの字)

季刊・海外日系人

第十四号 一九八四年(昭和五十九年)五月十日発行

定価一部 八〇〇円(送料別)

発行所 財团法人・海外日系人協会

〒102 東京都千代田区平河町二一七一五、砂防会館
(電話) 東京〇三一二六一〇八三四、東京〇三一
二六二一〇二六〇

編集 海外日系新聞協会

〒102 東京都千代田区平河町二一七一五、砂防会館
海外日系人協会内
P.M.C.出版
ハイツ (電話) 東京〇三一二六四一五七七四

南米へは 余裕のヴァリグ。



ヴァリグは、南米最大の航空網。 ブラジル国内はもちろん、中南米各地や世界の主要都市を結んでいます。 エクゼクティブクラスは、太めのかたもゆったり広いていただける広いシート。 本格的な和食をはじめ一流シェフが作った最高級のお食事とお飲物を用意しています。もちろん、ご用は、日本語でお気軽にお申しつけください。



中南米へのエア・カーゴはヴァリグへ。 中南米158都市をネット。大切なお荷物をスピーディに、確実にお運びいたします。50kg以下のお荷物なら予約なしでヴァリグにおまかせください。



ヴァリグ・ブラジル航空

VARIG
Brazilian Airlines

お問い合わせは
 ●東京／予約 (03)211-6751㈹
 貨物 (03)211-2626㈹
 ●名古屋／(052)565-1641
 ●大阪／(06)341-3571～3
 ●福岡／(092)714-7558
 ●那覇／(0988)67-3304

素晴らしい出逢いの
お手伝いをします。

日本航空



ベテラン乗務員がご案内する空の旅。くつろぎと明るい空気に満ちた機内。旅への夢と期待を乗せて、日航機がきょうもご一緒します。

